

# 山口県立美術館年報

昭和 54～55年

ANNUAL REPORT  
1979-1980  
THE YAMAGUCHI PREFECTURAL MUSEUM  
OF ARTS



# 山口県立美術館年報

昭和 54～55年



ANNUAL REPORT

1979-1980

THE YAMAGUCHI PREFECTURAL MUSEUM  
OF ARTS



## 目 次

沿 革	3
事 業	
I. 展覧会	7
II. 普及活動	63
III. 入館者数一覧	75
収集資料	
I. 館藏品貸出利用状況	80
II. コレクション	81
III. 美術図書	94
組 織 等	125



# 沿 革

## 1 県立美術館建設への気運

本県に美術館をという声は、昭和20年代後半から、すでに県内在住の画家や美術教育関係者の間に芽生えていた。当時ようやく県内の創作活動も活性化の方向にあったが、発表活動は適当な展示会場が見当らず、学校の講堂や百貨店の催し場を利用するといった状況を克服するという意味での美術館建設促進の声が中心であった。

昭和35年4月、県教育委員会が作成した「山口県美術館建設計画書（案）」と青写真によると、具体的な構想は、県立博物館裏の春日山の一部を整地し、延面積約2000㎡の建築規模のものを建設するとある。事業計画に資料収集、保存や企画展事業が含まれていないところを見ると、基本的には、ギャラリー的な館を目指していたといえよう。実現の一手手前まで進行していたこの建設計画も、老朽化していた木造の県立博物館の改築の必要性と緊急性、あるいは国体誘致等に伴う諸事情から見送られることとなった。

その後、昭和42年は県立博物館が改築され、人文・自然を対象とする総合博物館として再出発した。この博物館は、全国巡回展への会場提供や県民の創作発表の場としても活用された。しかしながら、多様化し拡大化する県美展や大規模な企画展を開催するには、その機能性や空間性に対応できず、常設空間にまでくい込むことも多く、本来の博物館活動が制約されることにもなっていた。

こうした状況のもと、美術館建設への気運が再度高まるのは、昭和44年8月に同館で開催された「山口県出身作家・現代美術展」を機に、小林和作、香月泰男らを中心とする本県関係作家から本格的な美術専門施設の必要性が強調され始めてからである。一般県民のすぐれた美術展の鑑賞の場が身近かにほしいという願望とあいまって急速に建設の気運が醸成されることになった。

## 2 建設基本方針の作成

こうした多年にわたる県民や美術関係者の強い要望に応えるため、県立美術館建設への第一歩が踏み出されることになり、県庁前の文化センター構想の一環として調査事業がすすめられた。

昭和46、47年度に調査費が計上された。初年度は他県の既設美術館を視察し、建設動機・特色・性格について、ついで翌年度は建築設計・組織・運営等について調査がすすめられ、その調査結果は、本県美術館に関する建設基本構想案として文化課でまとめられた。

この構想案は策定されなかったが、「本県の特徴を生かし、地方色豊かな美術館とする」とした館の性格の第一項は、その後の建設準備にとりくむ際の基本的な考え方となった。昭和48年度には、地質調査費、作品充実費も計上され、調査費は大幅に増額された。前記構想案についての、基本的な考え方は多面的な角度から検討されるとともに、掘りさげられながら、具体的な姿を描くための調査研究は継続された。その間、先進館の調査のみでなく、県内外の美術館関係者や作家、学識経験者から

個別に指導助言を得ながら、また庁内の関係各課による「県立美術館建設プロジェクト・チーム」を編成して、建設の意義や館の性格といった基本的なものから、用地の取得、建築の規模と機能、都市空間と建築、関連施設との機能分担、事業方針と計画、年次別専門職員の配員計画、組織等諸問題について検討協議が重ねられた。昭和49年6月、文化課で「山口県立美術館建設基本方針（案）」としてその結果はまとめられ、同年11月30日策定された。この方針に描かれた美術館のヴィジョンを要約すると、「本県の風土と歴史にはぐくまれたものの中にひそむ豊かな人間性が語りかけてくる美術館であり、しかも地方の枠をのり越えた普遍に結びつく美術館」をめざしているといえよう。

### 3 建築の性格と建設の経過

決定した建設場所は、県庁前の一角にある小丘陵、亀山の東麓にある山口大学経済学部の跡地となった。この敷地は南北に長く広がった形をとり、その北側は都市計画公園に連なって、県立山口博物館へ至り、東側正面はパークロードを隔てて県立山口図書館と対向し、三館は三角形の関係をなす位置で鼎立することになった。策定をみた基本方針は、建築課の手で分析され、建築サイドに立った「山口県立美術館建設計画報告書」が作成され、これをもとに昭和50年1月には、鬼頭梓建築設計事務所に設計委託がなされた。

基本設計作成の大前提となった目標は、

- (1) 博物館、図書館と呼応しつつ、ふさわしい環境をつくり出すこと
- (2) 敷地の特性を十分に生かし、周辺の美しい景観に適合すること
- (3) 内部においては、十分に機能的で、かつ人間性豊かな建物とすること

の3点であった。この基本目標を達成するために、設計者によって次のいくつかのルールに従ってプランニングがなされた。

- (1)入観者に対しては、床に段を設けない。すべて斜路とする。ふたつ以上の展示が同時に行われた場合でも動線を明確に分離し、自然でわかりやすくする。休憩場所を可能な限り広く設けるなど
- (2)館員に対しては、窓外の景色等快適な執務環境を確保する。保管格納部門と研究室、入館者と管理事務室を近接させるなど
- (3)美術作品等資料に対しては、美術作品が移動する床は、すべてワン・フロアとする。常設展示室の各部屋は、その展示作品に適合するよう個性をもたせるなど

委託設計は、当初の予定よりも、用地取得等に手間どるなどの理由によって余裕のある検討期間が生じ、結果として一部修正も可能となり、十分な機能分析にもとづく設計となった。その間、文化庁美術工芸課や国立近代美術館の専門職員の具体的な指導を受け万全を期すことができた。

昭和52年7月に入札、議会議決後、8月8日に起工式を挙行、直ちに着工した。昭和54年3月25日



に完工なるまで1年7ヶ月におよぶ工事であった。工事期間中も建築課を中心に設計事務所と美術館職員の3者の協議は続き細部にわたって打合わせが行われた。国立文化財研究所の指導を得ながら保存科学上の諸問題の解決にも努めた。

#### 4 運営準備とその後

本県の美術館運営準備は配員された専門職員が中心となってすすめられた。専門職員といっても、経験者を採用することは現実的には困難なため、基本的には人材を養成するという立場から、配員された。昭和48年度並びに49年度は、県内の美術教師が配員され、50年度から国立美術館へ長期研修のため派遣した。50年度以降は、学芸員資格を有した新任の選考採用、年次的に補充された。

運営準備で、まずとりくんだことは、本県美術文化の体系的見直しのための基本調査であった。現段階では全く埋没しているが再評価が可能な作家も含めて、わが国の美術史上何らかの役割をはたした作家に関する基礎資料の収集、整理から手がけた。調査にもとづく企画展等事業については、将来にわたって極めて長い時間的な幅でとらえながら、予測可能な限りの長期プログラムをもつよう努める一方、シンボリックで短期的効果を上げると考えられるものも折り混ぜながら、積み重ねを基調とする計画を立てた。開館記念展「生誕150年狩野芳崖」をはじめとする自主企画展は、何らかの係わりで本県との結びつきをもった内容を核として構成されるがテーマそのものの視座は、展覧会テーマである専門職員の見識を最優先する立場をとるという方向で準備に当たった。

51年度から55年度までの第1次作品収集計画や開館年度の県美展の改革も、昭和53年4月の開設準備室設置前からの懸案として検討協議されながら、そのヴィジョンを追い、実現へのステップを踏みながら事業準備がなされた。

館組織は昭和54年4月に発足した。館内会議も設けられ同年10月7日平井龍県知事のテープカットにより開館された。

ようやく、8年半にわたる準備期間を経て本館の所期の基本方針に描かれたヴィジョン実現に向って、河野良輔館長を中心に館活動は始動した。2年間の試行錯誤、手さぐりによる事業の執行は無我夢中であったというのが実感である。誕生したばかりの館は、山口県のあるべき美術館像を求めて、その理想的あり様を模索しつつけることになったのである。





## 事業

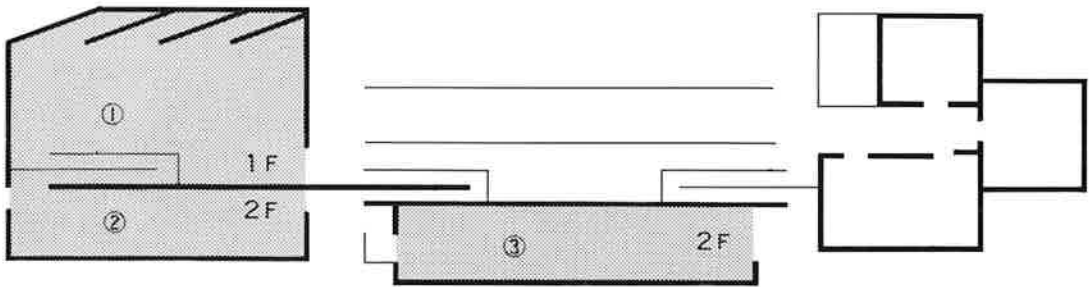
### I. 展覧会

(A) 企画展	9
(B) 常設展	37
(C) 共催展など	57



## (A) 企画展

館主催による自主企画展を毎年3本ひらいている。内訳は、予算規模におうじて大型企画展2、小型企画展1の割りで夏季をのぞく各季節にふりわけて開催しているが、大型企画展ではおもに個人作家の回顧展およびテーマ展、小型企画展では現代美術をそれぞれとりあつかい、前者を秋と冬、後者を春に開くことがなかなば慣例化しつつある。会場は、基本的に企画展示室Ⅰ①・Ⅱ②を使用。内容によっては両室を別々の展覧会に利用することもあり、また大型企画展の場合、この二室に加え常設展示室Ⅱ③を併用し3つの会場を効果的に利用するなど、会場使用の原則には内容におうじて柔軟性をもたせている。



- ①企画展示室Ⅰ 583,298㎡ (延べ面積)
- ②企画展示室Ⅱ 304,695㎡ ( / )
- ③常設展示室Ⅱ 471,825㎡ ( / )

### これまでの企画展

1. 生誕150年狩野芳崖	10
—山口県立美術館開館記念特別展—	
2. 桂 ゆき展	16
3. 近代洋画の人間像	20
4. 香月 泰 男	26
—その造形と抒情の軌跡—	

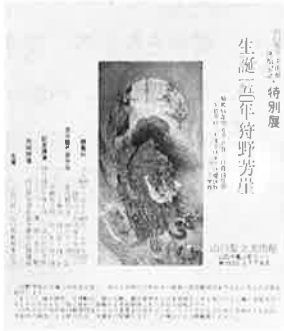
※ 凡例 企画展記録は、名称・趣旨・会場構成・展観カタログ・出品作品・展評の順で編集されている。

# 1. 生誕150年狩野芳崖

—山口県立美術館開館記念特別展—

1979年10月7日(日)—11月18日(日)

月曜日休館・10月8日開館



主催=山口県・山口県教育委員会

会場=山口県立美術館

企画展示室Ⅰ・Ⅱ

常設展示室Ⅱ(一部)



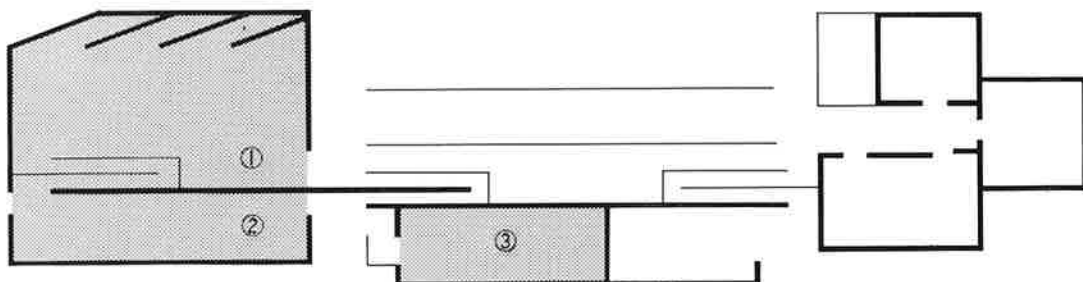
## (1) 趣旨

開館記念展に狩野芳崖をとりあげた。当館は山口県美術史の体系的掘りおこしを理念にかかげ、昭和54年10月に開館したが、開館当初の混沌とした諸状況にたいし体制をととのえる目的もあって、当面、対象とする時代を近・現代にしばり出發することとなった。開館記念展のテーマに、近代日本画の祖といわれる狩野芳崖が選ばれたのは、そのためである。展覧会は、準備に昭和50年から4年をかけ、その成果にもとづき芳崖作品87点、関連作家13点、参考資料12点の計102点で構成された。

狩野芳崖は、文政11年長府藩(下関市)御用絵師の家に生まれ、江戸の狩野勝川院画塾に学んだのち帰郷、同藩御用に仕えたが維新に際し失職、明治10年転生を期し再上京した。ここで、フェノロサ、岡倉天心などと相識を得ることとなり、それを契機に新日本画創造の理念にめざめ、自らその理念の実践者として制作に没頭するとともに、新体制の拠りどころとして東京美術学校の創設に尽力したが、その功なるを待たず明治21年61才で東京に没した。本展は、一般にいわれる日本近代美術の祖としての芳崖の評価をめぐり、その具体的再考の場をもうけることで、芳崖芸術における近代的要素を再検討することをテーマとした。

準備にあたっては、国内外に流出、伝布した真筆作品を確認されるかぎり調査し、そこから代表作を選択する作業を進めるのと並行し、死後伝記作者によって編まれた各種の評伝類から事実と伝承を区別し、これに地元調査にもとづく新たな知見をくわえ、現時点でもっとも客観性をもった年譜を作成する作業をすすめた。こうした経過をへて得られた成果をあげると、すでにあげた第一の作業から、これまであまり顧みられなかった彼の下関在郷時代(安政6—明治10)の作品60余点が新出資料として確認され、また全国におよぶ調査では追認もふくめ400点の作品を確認、800枚近い資料カードにまとめられたこと。第2の作業から、地元藩関係の資料にもとづき芳崖のより詳細な事蹟編集が可能となったほか、落款35、印譜22の標準例を録することができたこと等があげられる。それらの成果は、一部展覧カタログに収録することで一般に公開され、芳崖研究に寄与した。

## (2) 会場構成



- ①会場Ⅰ ▶少年期▶勝川院時代▶長府時代  
 ②会場Ⅱ ▶フェノロサまで▶円熟期  
 ③会場Ⅲ ▶芳崖をめぐる人々

## (3) 展観カタログ

責任編集 木本信昭

内 容

- ごあいさつ 平井龍（山口県知事）  
 ごあいさつ 河野良輔（当館館長）  
 メッセージ ヤン・フォンテイン（ポストン美術館長）  
 日本近代美術と芳崖 河北倫明（京都国立近代美術館長）  
 謝 辞  
 カラー図版  
 モノクローム図版 解説（芳崖-高田・巡る作家-安井）  
 狩野芳崖の芸術 細野正信（東京国立博物館主任研究官）  
 事跡からみた芳崖 木本信昭（当館普及主任）  
 落款・印譜（木本）／過去の芳崖関係展覧会と出品目録・  
 文献目録（安井）／狩野芳崖をめぐる作家（影山）／出品  
 目録・List of work（勝津）



生誕二五〇年  
 狩野芳崖

- A 4版274ページ ●アート紙110kg／4色オフセット・24ページ、  
 2色オフセット178ページ ●上質紙90kg／文字活字・72ページ

## (4) 出品作品

番号	作 品	材質	形 状	寸 法(cm)	制作年	所 蔵
1	孔丘尊像	紙本墨画淡彩	軸	115.0× 47.2	1840(天保11)	
2	翁図	絹本彩色	軸	32.4× 53.7	1841(天保12)	
3	繫馬図	板彩色	絵馬	31.2× 40.2	1842(天保13)	

番号	作 品	材質	形 状	寸 法(cm)	制作年	所 蔵
4	馬関真景図巻	紙本彩色	画卷	26.8×602.5	1842(天保13)	
5	犬追物・流鏑馬・笠懸図	紙本彩色	軸 3 幅	各101.3× 30.2		
6	拾得観月図	紙本墨画	軸	131.6× 52.1		
7	仙人龍図	紙本墨画淡彩	軸	118.4× 51.1		
8	野馬図	紙本墨画	軸	121.4× 59.3		
9	山水図	紙本墨画	軸	120.1× 49.0		山口県立山口博物館
10	竹に猿図	紙本墨画	軸	124.6× 57.7		
11	四季花鳥図	絹本彩色	軸	38.7× 39.0		
12	馬関門司実景図	紙本墨画淡彩	軸	66.0× 63.0		
13	桂義辰像	紙本彩色	軸	126.0× 54.2		
14	動物百態図巻	紙本彩色	画卷	18.7×791.4		
15	繫馬図	板彩色	絵馬	108.9× 82.0	1856(安政3)	忌宮神社(下関市)
16	三村晴山図	絹本墨画淡彩	軸	89.1× 18.5		東京芸術大学
17	鶏図	紙本墨画淡彩	軸	95.5× 32.3		
18	林和靖像	紙本墨画彩色	軸	128.1× 48.0		東京国立博物館
19	寿老・梅に雌鷹・松に雄鷹図	絹本彩色	軸 3 幅	各 98.0× 42.5		
20	真景縮図	紙本墨画	画帖	21.5× 13.8	1857(安政4)	東京芸術大学
21	嵐山地取(大堰川・嵐山・淀川地取の内)	紙本墨画淡彩	画卷	27.1×161.8	1857(安政4)	東京芸術大学
22	八臂弁才天図	絹本彩色	軸	119.5× 32.2		山口県立美術館(cat.no.J-12)
23	鱗姫像	紙本彩色	軸	56.2× 57.0		長府図書館(下関市)
24	花鳥図屏風	紙本彩色	屏風 6 曲 1 双	各125.4×275.3		
25	山水長巻(模写)	紙本墨画淡彩	画卷	39.5×1683.5	1861(文久元)	東京芸術大学
26	元三大師慈慧大僧正真像	絹本彩色	軸	111.3× 60.8		
27	東山眺望図屏風	紙本墨画彩色	屏風 4 曲半双	157.5× 328.2		
28	牧馬図	紙本墨画	軸	141.3×118.9		山口県立美術館(cat.no.J-13)
29	能師土田路俊像	紙本彩色	軸	80.6× 34.0		
30	藤島檢校像	絹本彩色	軸	71.5× 37.5		
31	虎図屏風	紙本墨画彩色	屏風 2 曲半双	159.7×172.8		
32	飛龍昇天図	紙本墨画	軸	133.6× 58.5		
33	武内宿禰投珠図	板彩色	絵馬	84.0× 57.9	1864(元治元)	忌宮神社(下関市)
34	秋景山市図	紙本墨画	軸	124.0× 59.8		
35	白鷺図	紙本墨画淡彩	軸	131.7× 55.0		
36	山水図	紙本墨画	軸	144.6× 62.0		
37	寿老・鶴・亀図	絹本彩色	軸 3 幅	各 98.9× 34.6		
38	雪中山水図	紙本墨画淡彩	軸	130.0× 59.5		山口県立美術館(cat.no.J-14)
39	韓信股潜図	板彩色	絵馬	64.0× 95.0		忌宮神社(下関市)
40	湖畔漁舟図	紙本墨画	軸	136.0× 60.2		
41	雪景山水図屏風	紙本墨画	屏風 2 曲半双	162.0×173.1		
42	四季耕作図屏風	紙本墨画淡彩	屏風 4 曲半双	168.0×363.2		山口県立美術館(cat.no.J-15)
43	山水図屏風	紙本墨画彩色	屏風 6 曲 1 双	各109.7×211.2	1868(明治元)	
44	霖龍如澤像	絹本墨画淡彩	軸	108.5× 32.6	1868(明治元)	
45	霖龍如澤像	絹本墨画淡彩	軸	102.3× 41.7		
46	竹図	紙本墨画	軸双幅	各138.8× 61.2	1870(明治3)	
47	鷹・鹿・鶴図	板彩色	杉戸 3 面	各160.5× 67.0		
48	漁舟図屏風	紙本墨画淡彩	屏風 2 曲半双	158.1×174.0		
49	青砥藤瀬滑川拾銭図	紙本墨画淡彩	軸	70.0×145.0		山口県立美術館(cat.no.J-16)



番号	作 品	材質	形 状	寸 法(cm)	制 作 年	所 蔵
50	山水図	紙本墨画淡彩	軸 2 幅	各133.0× 57.2		
51	松本寒斎像	絹本彩色	軸	90.7× 35.5		
52	士農工商図	紙本墨画淡彩	軸 4 幅	各136.5× 61.4		
53	農事百端図巻	紙本墨画彩色	画卷	28.5×607.1	1878(明治11)	
54	梅下狗児図	紙本墨画淡彩	軸	118.4× 55.4		
55	菊図	紙本墨画	軸	43.1× 67.0		
56	琴棋書画図巻	紙本墨画	画卷(4枚貼付)	各 24.4× 39.3		高津尚古集成館
57	梅花図巻	紙本墨画	画卷(4枚貼付)	各 24.4× 39.3		高津尚古集成館
58	犬追物図	紙本彩色	軸	92.0×123.1		高津尚古集成館
59	出山釈迦図	紙本墨画淡彩	軸	111.6× 52.1		
60	五十鈴川神仙図巻	紙本墨画淡彩	画卷	60.4×2974.1		山口県立美術館(cat.no.J-17)
61	松上鶴図	紙本墨画淡彩	軸	105.1×163.0		静嘉堂文庫
62	牡丹図	絹本墨画彩色	軸	67.0× 35.7		
63	地中海真景図	紙本墨画淡彩	額	37.2× 65.6		
64	鍾馗図	紙本墨画	軸	115.4× 44.4		
65	懸崖飛沫図	絹本墨画	軸	30.4× 31.5		
66	福祿寿図	紙本墨画	軸	107.5× 53.5		防府毛利報公会
67	羅漢図	紙本墨画彩色	軸双幅	各135.2× 62.0		山口県立美術館(cat.no.J-18)
68	松下牧童図	紙本墨画	軸	126.1× 57.0		
69	桜下勇駒図	紙本墨画淡彩	軸	138.1× 63.5		
70	柳下牧牛図	紙本墨画淡彩	軸	58.7× 112.8		福井県立美術館
71	予讓図	板彩色	絵馬	60.9× 91.6		住吉神社(下関市)
72	江流百里図	紙本墨画	額	62.2×137.2		ボストン美術館
73	江流百里図	紙本墨画	軸	62.5×137.8		
74	飛龍昇天図	紙本墨画	額	186.0× 61.0		ボストン美術館
75	奈良官遊地取	紙本鉛筆	画卷	30.5×3155.2	1886(明治19)	東京芸術大学
76	仁王捉鬼図	紙本彩色	軸	123.5× 62.7	1886(明治19)	
77	獅子図	紙本墨画淡彩	軸	98.3× 49.5	1887(明治20)	
78	暁霧山水図	絹本墨画彩色	額	45.2× 85.4	1887(明治20)	東京芸術大学
79	不動明王図	紙本彩色	軸	158.3× 79.0	1887(明治20)	東京芸術大学
80	岩石図	紙本墨画	軸	136.2× 85.0	1887(明治20)	東京芸術大学



会場Ⅱ



会場Ⅰ

番号	作 品	材質	形 状	寸 法(cm)	制 作 年	所 蔵
81	楠公父子図	紙本墨画淡彩	軸	122.7× 66.8		
82	妙義山仏界地取	紙本鉛筆淡彩	画卷	30.5×1193.2	1887(明治20)	東京芸術大学
83	鷺下図	紙本墨画鉛筆淡彩	画卷	44.7×747.0	1888(明治21)	東京芸術大学
84	大鷺図	紙本墨画	軸	325.7×204.5	1888(明治21)	東京芸術大学
85	観音下図画稿	紙本墨画鉛筆淡彩	画卷	37.5×507.2	1888(明治21)	東京芸術大学
86	観音下図	紙本墨画淡彩	軸	211.8× 85.4	1888(明治21)	東京芸術大学
87	悲母観音図	絹本彩色	額	196.0× 86.4	1888(明治21)	東京芸術大学
芳崖をめぐる作家						
〈狩野晴皐〉						
88	劉阮天台図	絹本墨画彩色	軸	171.5× 86.4		
89	能師土田氏像	絹本墨画彩色	軸	87.7× 27.6	1859(安政6)	
〈橋本雅邦〉						
90	松に月図	絹本墨画	軸	157.5×204.3		東京芸術大学
91	竹林猫図	絹本墨画淡彩	軸	122.5× 50.5	1896(明治29)	東京国立博物館
92	四季山水図(春・秋)	紙本墨画彩色	軸2幅	各130.0× 85.0		宮内庁
〈下村観山〉						
93	鷹図	紙本墨画	軸	66.2× 50.2	1886(明治19)	永青文庫
94	木の中の秋図屏風	紙本彩色	屏風2曲1双	各208.0×186.0	1907(明治40)	東京国立近代美術館
〈横山大観〉						
95	猿廻し図	絹本彩色	軸	55.6× 96.0	1892(明治25)	東京芸術大学
96	飛泉図	絹本彩色	軸	126.2× 41.2		高輪美術館
〈菱田春草〉						
97	秋景山水図	紙本墨画淡彩	軸	118.5× 53.8		東京芸術大学
98	秋溪図	絹本彩色	軸	126.2× 41.2		高輪美術館
〈狩野友信〉						
99	山水図	絹本墨画	軸	164.7× 83.5	1904(明治37)	東京国立博物館
〈結城正明〉						
100	富士巻狩図	絹本彩色	軸	87.2×128.8	1897(明治30)	
〈本多天城〉						
101	蘇武図	絹本彩色	軸	96.5×143.7	1897(明治30)	東京国立博物館
資料						
1	牧童図	紙本墨画	軸	25.8× 40.2		東京国立博物館
2	山水図	紙本墨画	軸	99.0× 46.3		東京国立博物館
3	群馬図	紙本墨画彩色	軸	27.0× 91.0		東京国立博物館
4	馬関海峡測量図	紙本墨画淡彩	軸	94.5×182.4		長府図書館(下関市)
5	模本画冊	紙本墨画淡彩	画帖	28.3× 15.6		
6	狩野芳崖胸像	ブロンズ		80h		東京国立博物館
7	印 章(5個6種)					東京芸術大学
	朱文円印「貫甫」			2.3×2.3×2.3h		
	白文方印「雅道之印」			2.7×2.7×1.7h		
	朱文瓢印「爽海」			2.3×1.7×1.2h		
	(ウラ白文長方連印「狩野」)					
	白文長方印「雅道」			1.3×0.6×1.2h		
	朱文長方連印「雅道」			1.8×0.7×4.2h		

8 辞 令		
文部省御用掛申付	1884(明治17)	11月21日
図画取調掛屋申付	1886(明治19)	1月14日
大阪府下奈良地方 出張申付	1886(明治19)	4月23日
東京美術学校雇	1888(明治21)	4月12日
9 書 簡		
田原俊貞あて	1857(安政4)	11月
10 絵具類		
11 黄八丈		
12 飾金具		東京芸術大学

(5) 展評など

新聞(報道記事をのぞく)

展 評

山口県立美術館開館と狩野芳崖展—新しい側面見直し空白部分を埋める 読売新聞(西部) / (秋) 54・10・3  
 近代日本画の先駆—生誕150年・狩野芳崖展を見る 朝日新聞(西部) / 源弘道 54・10・11  
 見ごたえのある内容—山口県立美術館狩野芳崖展 西日本新聞 54・10・18  
 生誕150年狩野芳崖展—国内外の作品87点一堂に模索の跡をたどる 読売新聞(西部) / (秋) 54・11・14  
 ほぼ五角の観客動員数—山口・福岡両美術館 朝日新聞(西部) / 点描 54・12・12

シリーズ

芳崖展—その作品 朝日新聞(県内)

少年期—繫馬図(9・4) 馬関真景図巻(9・5) 犬追物・流鏑馬・笠懸図(9・6) 拾得観月図・仙人龍図(9・7) 野馬図・牧馬図(9・8) 山水図(9・9) 竹に猿図(9・11)  
 勝川院時代—馬関門司実景図(9・12) 桂義辰像(9・13) 動物百態図巻(9・15) 繫馬図(9・18) 三村晴山像(9・19) 真景縮図・嵐山地取(9・20) 八臂弁才天図(9・21) 鱗姫像(9・22) 山水長巻(9・23)  
 長府時代—虎図屏風(9・26) 飛龍昇天図(9・27) 武内宿禰投珠図(9・29) 韓信股潜図(9・30) 白鷺図(10・2) 山水図屏風(10・4) 霖龍如澤像・松本寒斎像(10・5) 竹図(10・6) 鷹・鹿・鶴図(10・7) 士農工商図(10・10)  
 フェノロサまで—梅下狗児図(10・12) 犬追物(10・3) 五十鈴川神仙図巻(10・16) 地中海真景図(10・17) 鍾馗図(10・18) 懸崖飛沫図(10・19)  
 円熟期—桜下勇駒図(10・20) 江流百里図(10・23) 仁王捉鬼図(10・24) 曉霧山水図(10・27) 岩石図(10・28) 大鷲図(10・30) 不動明王図(10・31)

エッセイ

狩野芳崖と霖龍和尚—青年期に多大の影響 木本信昭 西日本新聞 52・6・9  
 里帰りしていた芳崖の名作—生誕150年展に寄せて 木本信昭 毎日新聞(西部) 54・10・18

雑誌

芳崖の「近代」を探る—山口県立美術館開館記念特別展「生誕百五十年狩野芳崖」 安井雄一郎 美術手帳 54・11月号(vol.31 No.456)

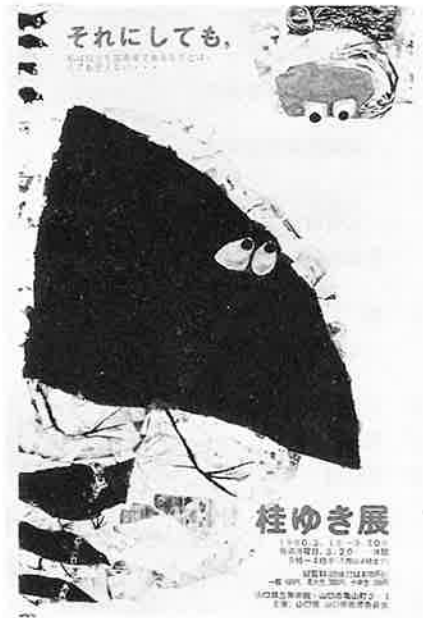
## 2. 桂ゆき展

1980年3月1日(土)―3月30日(日)

月曜日および3月20日休館



主催＝山口県・山口県教育委員会  
会場＝山口県立美術館  
企画展示室 I・II



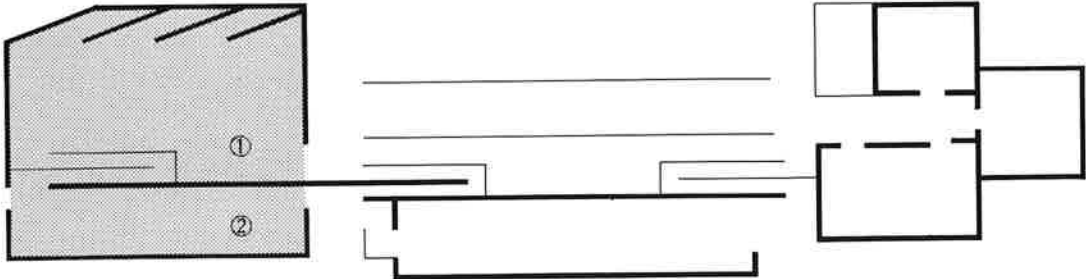
### (1) 趣旨

明治末期に個性的な表現様式があらわれはじめたわが国の画壇は、大正以後急速に西欧のモダニズムを受け入れ、後期印象派以降のあらゆる様式を果敢に摂取していく。大正10年頃のマヴォや三科の動向はその頂点ともいえる活動を示すが、このころまでの急進的な動きは造形的な意味で深い根をはるまでにいたらず、戦後にひきつがれる前衛的な動きは、第二波ともいべき昭和10年前後期から本格化したのである。

桂ゆきがいち早くコラージュによる作品をつくりはじめたのはこの頃であった。彼女の場合は、そうした歴史性をふまえてというよりもむしろ直観的に抽象的な作品を指向したといえるが、中村研一や岡田三郎助といった官展系の作家について油絵を学びながら、しだいに身近にある木切れ、布、ガラスなどの物質性に興味を抱くようになる。二科展に初入選をしたのが昭和10(1935)年。翌年の出品作「手紙」にしても、すでに具体的なモチーフは描かれず、色彩やタッチを変えた大小の色面を組みたてることによって画面が構成されている。また別の作品では、花や布切れが描かれたりコルク片がはりつけられたりするが、描かれるにせよ実物がはりつけられるにせよ、それらの組み合わせによる構成的な効果に作家のねらいがある点では同一であり、しかもそこに現出されるイメージには、コラージュを方法的な原理としたシュルレアリストたちの表現とは異なり、意識の自由な開放をめざしながらも怪奇性や観念性はみられない。逆に不合理な空間や意味のないさまざまなものの組み合わせは、有機的にからみあって愛すべき生きもののような相貌をみせ、そこに作家の独自の感覚をよみとることができるといえよう。一方、「人間Ⅰ」や「おしゃれなゲジゲジ」といった作品には目を持ったユーモラスな生物がはっきりと描かれ、人間もゲジゲジも同じようにつきはなされて戯画化されている。こうした一見ことなるような仕事を連続させながら、非具象傾向と具象傾向といった二極性を同時にかかえこみ、それ以上に物質(素材)をつねに新鮮な眼差しでとらえることによって、それら

に潜んだ生命性を発見していくという姿勢が貫かれている。戦前の二科会、九室会、戦後の日本国際美術展、女流画家協会などを舞台に活躍を続ける桂ゆきは、様式の新しさにふりまわされずに本質的に前衛と呼びうる貴重な作家の一人であろう。

## (2) 会場構成



①会場Ⅰ ②会場Ⅱ 年譜、写真パネルなどとともに作品は、初期から近作まで編年的に展示。

## (3) 展観カタログ

責任編集 影山純夫

内容

- ごあいさつ 平井龍（山口県知事）
- ごあいさつ 井上謙治（山口県教育長）
- 桂ゆきの仕事 久保貞次郎（美術評論家）
- 桂ゆきの化けっぶりとユーモア 針生一郎（美術評論家）
- 桂ゆき年譜（影山）
- カラー図版
- モノクローム図版
- 参考文献・出品目録（影山）

- A 4版80ページ ●アート紙110kg / 4色オフセット・24ページ、
- 1色オフセット・32ページ ●ダイヤペーク90kg / 24ページ



## (4) 出品作品

番号	作品	技法・材質	寸法(cm)	制作年	所蔵
1	帰り道	油彩・キャンバス	54.7× 91.0	1934(昭9)	
2	作品	コラージュ・紙	7.7× 6.8	1935(昭10)	
3	作品	コルク・板	53.0× 45.0	1936(昭11)頃	
4	手紙	油彩・キャンバス	116.0× 91.0	1936(昭11)	
5	旅行	油彩・キャンバス	162.0×130.8	1978(原作1936)	
6	日記	油彩・キャンバス	162.0×130.8	1979(原作1938)	
7	日なた	油彩・キャンバス	60.4× 45.8	1938(昭13)	
8	作品	油彩・キャンバス	73.0× 60.5	1938(昭13)頃	
9	作品	コラージュ・キャンバス	23.9× 33.4	1938(昭13)	
10	おしゃれなゲジゲジ	油彩・キャンバス	80.7× 60.8	1938(昭13)	

番号	作 品	技法・材質	寸法	制作年	所 蔵	
11	人間(Ⅰ)	油彩・キャンバス	90.9×64.8	1938(昭13)	東京国立近代美術館	
12	人間(Ⅱ)	油彩・キャンバス	90.8×72.4	1938(昭13)		
13	源氏	油彩・キャンバス	130.8×162.0	1979(原作1938)		
14	冠	油彩・キャンバス	90.9×117.6	1979(原作1939)		
15	土	油彩・キャンバス	61.0×50.0	1939(昭14)		
16	作品2	油彩・キャンバス	162.0×130.8	1978(原作1940)		
17	作品	油彩・キャンバス	116.7×91.4	1940(昭15)		
18	さるかに合戦	油彩・キャンバス	91.5×117.0	1948(昭23)		
19	ひまわりの咲く午後	油彩・キャンバス	72.5×91.5	1948(昭23)		
20	おいもをかこんで	油彩・キャンバス	72.7×90.8	1949(昭24)		
21	作品	油彩・キャンバス	131.0×161.5	1949(昭24)		
22	春	油彩・キャンバス	90.9×72.7	1949(昭24)		
23	猫になった女	油彩・キャンバス	91.0×72.0	1950(昭25)		
24	こまった	油彩・キャンバス	161.0×131.0	1950(昭25)		
25	飛ぶ	油彩・キャンバス	145.5×97.0	1950(昭25)		
26	作品	油彩・キャンバス	116.3×90.9	1950(昭25)頃		
27	積んだり	油彩・キャンバス	161.0×131.0	1951(昭26)		福岡市美術館
28	こわしたり	油彩・キャンバス	161.0×131.0	1951(昭26)		
29	抵抗	油彩・キャンバス	130.0×162.0	1952(昭27)		
30	進め	油彩・キャンバス	72.6×90.9	1952(昭27)		
31	人間の歴史	油彩・キャンバス	181.2×258.2	1953(昭28)		
32	怒髪天をつく	油彩・キャンバス	91.0×73.0	1953(昭28)		
33	しっぽの出た狐	油彩・キャンバス	91.0×72.0	1954(昭29)		
34	鬼と花	油彩・キャンバス	53.0×45.4	1954(昭29)		
35	人と魚	油彩・キャンバス	116.0×90.8	1954(昭29)		
36	みんならくじゃない	油彩・キャンバス	60.5×72.6	1954(昭29)		
37	虎の威を借りた狐	油彩・キャンバス	72.8×91.0	1955(昭30)	山口県立美術館(cat.no.0-52)	
38	母と子	油彩・キャンバス	64.9×52.8	1955(昭30)		
39	鬼とゆかた	油彩・キャンバス	91.0×73.0	1955(昭30)		
40	くらげ	油彩・キャンバス	91.0×73.0	1956(昭31)		
41	けむし	油彩・キャンバス	52.9×65.3	1956(昭31)		
42	作品	油彩・紙・キャンバス	97.0×104.0	1960(昭35)		
43	作品	油彩・紙・キャンバス	126.0×151.0	1960(昭35)		
44	作品	油彩・紙・キャンバス	70.6×134.4	1961(昭36)		
45	作品	油彩・キャンバス	128.0×101.0	1961(昭36)		
46	作品	油彩・キャンバス	158.1×127.5	1961(昭36)		
47	作品	油彩・紙・キャンバス	126.0×101.0	1961(昭36)		
48	作品	油彩・キャンバス	56.0×152.3	1961(昭36)		
49	作品	油彩・紙・キャンバス	152.6×126.9	1961(昭36)		
50	作品	油彩・紙・キャンバス	126.3×101.0	1961(昭36)	ソニー株式会社	
51	異邦人	油彩・紙・キャンバス	254.5×173.0	1961(昭36)		
52	おふだ	油彩・キャンバス	194.0×130.5	1963(昭38)		
53	作品	油彩・キャンバス	194.0×130.7	1964(昭39)		
54	ラストスパート	油彩・紙・板	102.9×72.5	1964(昭39)		
55	けむし	油彩・紙・板	82.5×122.0	1965(昭40)		
56	作品	油彩・紙・板	181.5×121.0	1965(昭40)	福岡市美術館	
57	えい	油彩・紙・板	162.0×122.0	1965(昭40)		

番号	作 品	技法・材質	寸法	制作年	所 蔵
58	ゴンベとカラス	油彩・キャンバス	200.0×130.2	1966(昭41)	東京国立近代美術館
59	欲張り婆さん	油彩・紙・板	180.3×120.0	1966(昭41)	山口県立美術館(cat.no.0-53)
60	鼻	油彩・紙・キャンバス	226.8×181.5	1967(昭42)	
61	作品	油彩・紙・板	89.2×130.2	1968(昭43)	山口県立美術館(cat.no.0-55)
62	笑う人	油彩・キャンバス	116.8× 91.0	1968(昭43)	山口県立美術館(cat.no.0-54)
63	アダムとイヴ	油彩・紙・板	130.3× 97.0	1968(昭43)	山口県立美術館(cat.no.0-56)
64	20連発	油彩・紙・板	90.0×130.0	1969(昭44)	
65	親亀の背中に子亀をのせて	油彩・紙・板	130.0× 90.0	1970(昭45)	
66	雀の学校	油彩・紙・キャンバス	130.0× 97.0	1973(昭48)	
67	正直じいさん	油彩・紙・板	181.0×120.0	1973(昭48)	
68	つぶされた	油彩・紙・板	131.0× 90.0	1973(昭48)	
69	作品	コルク・板	117.0× 91.0	1978(昭53)	
70	作品	コルク・板	160.0×260.0	1978(昭53)	
71	作品	コルク・板	181.5×115.0	1978(昭53)	
72	作品	コルク・板	161.5×130.0	1978(昭53)	
73	作品	コラージュ・油彩・板	116.3× 90.5	1978(昭53)	
74	作品	油彩・キャンバス	116.1× 91.1	1978(昭53)	
75	作品	コルク・キャンバス	116.7× 91.0	1978~1979	
76	作品	コルク・板	161.5×130.0	1978~1979	
77	作品	コルク・板	162.0×131.0	1979(昭54)	
78	作品	コルク・板	162.0×131.0	1979(昭54)	
79	作品	コラージュ・板	116.5×182.2	1979(昭54)	
80	作品	コラージュ・板	161.8×261.2	1979(昭54)	

## (5) 展評など

### 新聞（報道記事をのぞく）

#### 展 評

個性豊かな前衛精神—桂ゆき展 朝日新聞（西部）／（源） 55・3・15

肉声の画家、四つのうねり—桂ゆき展 毎日新聞（西部）／（幸） 55・3・27

#### その他

ユーモアがあると好評の「桂ゆき展」を手がけた県立美術館学芸員 影山純夫さん(32) 朝日新聞（県内）「ひと」 55・3・6



会場I



桂ゆき氏を囲んで

### 3. 近代洋画の人間像

1980年10月18日(土) — 11月30日(日)

月曜日休館・11月3日/24日開館



主催=山口県立美術館  
会場=山口県立美術館  
企画展示室 I・II



#### (1) 趣旨

近代洋画の展覧は、明治以降の洋画の史的展開をふまえた発達史的な視点がそのほとんどであり、それに対する考え方も、江戸期の洋風画はさておき、高橋由一あたりを起点として、黒田清輝の時代の美術学校西洋画科設置や官設展の創設などによる基盤の整備を経て、大正、昭和の新しい動向を生むまでが示される。しかしこうした概観も、たとえば黒田のはたした政治的役割のようなものと絵画的な役割を等分に考えがちなため、どのような位置に黒田が立っていたかを見失いがちである。よくいわれるように、黒田の場合は、いわゆる古典主義を基調としたアカデミズムの側面は少ないにもかかわらず、先に述べたような役割において日本のアカデミズムの創始者としてのイメージが強い。それは歴史の回転軸として制度的なものの比重が大きくとりあつかわれるためであり、大正以後の在野諸団体の動きにしても、いわゆる美術運動として存在していなかったせいもあるが、個々の作家をそうした文脈から切りはなして考察することが少なかったからである。簡単にいえば、高橋由一以降の美術を一つの規準でとりまとめるのではなく、総花的に眺めることが多かったということである。

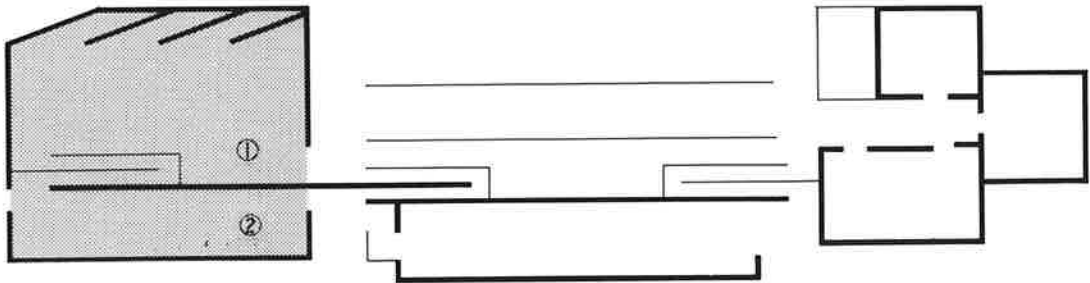
「人間像」というテーマは、そうしたいままでの理解をより深める手だてになるのではないかと設定された。すなわち、それぞれの時代を生きぬいてきた作家が、どのような眼で対象（人間）に接していたかということを考えてみようということである。

ルネサンス期がヒューマニズムの時代といわれるような意味で、ここにとり上げられる作家のすべてが人間を描くことを特に考え続けてきた作家ではない。偶然の対象であるような人間像もあれば、人間を描きながら作家のテーマが表現そのものに移った抽象画も含まれる。しかしそのようなかわり方の遠近は、作家の関心がどこにあったかをより明らかに示すであろうし、表現方法の違いにもかかわらず、意外な作家どうしを結びつける要素を見出すことも可能であろう。近年「裸婦」や「子供」というテーマを組んだ展覧が試みられるようになったのもこうした立場からの企画と考えられる



が、今回は、より広い視点からいろいろな分野を横に見ることができるよう、それらをも含めた七つの区分によって、明治期の抒情的な女性像が次第に自立的な人間像へと変わっていくといった分野ごとの変遷をも見てとれるように作品が選ばれた。

## (2) 会場構成



①会場Ⅰ ▶自画像 ▶婦人像 ▶風俗 ▶裸婦 ▶パネル ②会場Ⅱ ▶肖像 ▶構想画から新しいイメージへ ▶パネル

## (3) 展観カタログ

責任編集 高田美規雄

内容

ごあいさつ

「近代洋画の人間像」によせて 河北倫明（京都国立近代美術館長）

カラー図版

近代洋画の人間像 高田美規雄

作家略歴・作品解説（木本・高田・影山・安井・勝津・榎本）／近代

洋画史年表（高田）／出品リスト

- A4版 192ページ ● アート紙110kg／4色オフセット・80ページ
- 上質紙90kg／オフセット・112ページ



## (4) 出品作品

番号	作品	作者	技法・材質	寸法(cm)	制作年	所蔵
自画像						
1	自画像	五姓田 義松	油彩・キャンバス	73.5× 55.5	1877(明10)	東京芸術大学
2	自画像	横山 松三郎	油彩・キャンバス	43.0× 30.5	1884(明17)頃	
3	自画像	河北 道介	油彩・キャンバス	81.2× 60.1	1896(明29)	東京芸術大学
4	自画像	黒田 清輝	油彩・キャンバス	35.0× 24.6	1897(明30)	
5	自画像	藤島 武二	油彩・キャンバス	47.0× 32.5	1903(明36)	石橋美術館
6	自画像	小出 檜重	油彩・キャンバス	59.5× 44.0	1914(大3)	東京芸術大学
7	黒き帽子の自画像	岸田 劉生	油彩・板	52.0× 40.0	1914(大3)	
8	自画像	村山 槐多	油彩・キャンバス	60.5× 50.0	1914(大3)頃	

番号	作品	作者	技法・材質	寸法(cm)	制作年	所蔵
9	自画像	萬 鉄五郎	油彩・キャンバス	45.5×33.3	1915(大4)	
10	自画像	関 根 正 二	油彩・キャンバス	55.0×46.0	1918(大7)	
11	自画像	河 上 左 京	水彩・紙	56.0×38.0	1919(大8)	
12	自画像	藤 田 嗣 治	墨・水彩・紙	27.5×22.3	1926(昭1)	国立西洋美術館
13	自画像鏡像	坂 本 繁二郎	油彩・紙	45.5×38.0	1929(昭4)	石橋美術館
14	自画像	須 田 國太郎	油彩・キャンバス	53.5×41.0	1929(昭4)	
15	立てる像 婦人像	松 本 竣 介	油彩・キャンバス	162.0×130.0	1942(昭17)	神奈川県立近代美術館
16	かね子夫人像	C. ワーグマン	油彩・キャンバス	49.8×39.6		東京国立博物館
17	舞妓	黒 田 清 輝	油彩・キャンバス	80.7×65.3	1893(明26)	東京国立博物館
18	婦人像	浅 井 忠	油彩・キャンバス	75.0×48.4	1897(明30)頃	千葉県立美術館
19	思郷	和 田 英 作	油彩・キャンバス	95.8×66.8	1902(明35)	東京芸術大学
20	徒然	湯 浅 一 郎	油彩・キャンバス	133.0×68.0	1904(明37)	群馬県立近代美術館
21	菘	岡 田 三郎助	油彩・キャンバス	119.9×78.9	1908(明41)	兵庫県立近代美術館
22	読書	山 下 新太郎	油彩・キャンバス	92.0×73.0	1908(明41)	ブリヂストン美術館
23	新夫人	鹿子木 孟 郎	油彩・キャンバス	94.0×90.0	1909(明42)	京都市美術館
24	坐せる女	南 薫 造	油彩・キャンバス	112.6×82.3	1910(明43)	
25	しばり	永 地 秀 太	油彩・キャンバス	91.0×65.0	1913(大2)	山口県立美術館(cat.no.0-78)
26	うつつ	藤 島 武 二	油彩・キャンバス	64.0×52.0	1913(大2)	東京国立近代美術館
27	婦人像	中 川 紀 元	油彩・キャンバス	144.5×57.5	1920(大9)	京都国立近代美術館
28	女の顔	中 村 彝	油彩・キャンバス	45.5×45.5	1921(大10)	パーフェクトリパ ティール教団(PL)
29	婦人像 風 俗	安 井 曾太郎	油彩・キャンバス	115.2×87.5	1930(昭5)	京都国立近代美術館
30	横浜風俗	五姓田 義 松	油彩・キャンバス	37.0×29.0	1871(明4)	東京芸術大学
31	夜汽車	赤 松 麟 作	油彩・キャンバス	159.5×199.0	1901(明34)	東京芸術大学
32	草上の小憩	石 井 柏 亭	油彩・キャンバス	88.0×140.0	1904(明37)	東京国立近代美術館
33	部屋	木 村 莊 八	油彩・キャンバス	96.0×133.0	1929(昭4)	福富太郎コレクション
34	地に憩ふ	清 水 登 之	油彩・キャンバス	112.2×145.5	1930(昭5)	栃木県立美術館
35	髪すき図	椿 貞 雄	油彩・キャンバス	131.0×97.5	1931(昭6)	東京国立近代美術館
36	都会	野 田 英 夫	油彩・キャンバス	44.5×99.9	1934(昭9)	
37	瀬戸内海	中 村 研 一	油彩・キャンバス	184.0×256.0	1935(昭10)	京都市美術館
38	街	松 本 竣 介	油彩・板	131.0×163.0	1938(昭13)	



テープカット風景

番号	作品	作者	技法・材質	寸法(cm)	制作年	所蔵
	裸婦					
39	臥裸婦	百武兼行	油彩・キャンバス	97.0×187.0	1881(明14)頃	石橋美術館
40	臥裸婦	山本芳翠	油彩・キャンバス	85.0×136.0	1882(明15)頃	
41	裸婦	岡田三郎助	油彩・キャンバス	85.0×43.0	1903(明36)	
42	温泉	青木繁	油彩・キャンバス	69.8×35.0	1910(明43)	
43	裸婦	金山平三	油彩・キャンバス	91.7×72.8	1914(大3)	兵庫県立近代美術館
44	習作	矢部友衛	油彩・キャンバス	72.7×53.0	1920(大9)頃	新潟県美術博物館
45	ねて居るひと	萬鉄五郎	油彩・キャンバス	79.0×115.5	1923(大12)	北九州市立美術館
46	裸婦	中川紀元	油彩・キャンバス	48.5×59.0	1923(大12)	京都国立近代美術館
47	裸婦群像	川口軌外	油彩・キャンバス	87.8×95.0	1925(大14)頃	
48	黄色い花の枕の裸婦	児島善三郎	油彩・キャンバス	80.4×116.5	1925~28	西宮市大谷記念美術館
49	女	里見勝蔵	油彩・キャンバス	64.5×92.0	1927(昭2)	
50	小憩	満谷國四郎	油彩・キャンバス	89.5×115.5	1928(昭3)	大原美術館
51	白衣を纏える	伊原宇三郎	油彩・キャンバス	100.0×82.0	1928(昭3)頃	
52	横たわる女	国吉康雄	油彩・キャンバス	40.6×76.2	1929(昭4)	ブリヂストン美術館
53	金髪の裸婦	田中保	油彩・キャンバス	87.0×90.0	1920~30	
54	横たわる裸身	小出橋重	油彩・キャンバス	58.0×80.0	1930(昭5)	ブリヂストン美術館
55	コワフェーズ	林武	油彩・キャンバス	162.5×129.5	1935(昭10)	東京国立近代美術館
56	裸婦	梅原龍三郎	油彩・キャンバス	80.6×65.0	1936(昭11)	ひろしま美術館
	肖像					
57	司馬江漢像	高橋由一	油彩・キャンバス	60.8×45.4	1875~76	東京芸術大学
58	毛利敬親像	原田直次郎	油彩・キャンバス	92.0×62.0	1895(明28)	山口県立山口博物館
59	画家ヘンリー像	原撫松	油彩・キャンバス	75.5×51.5	1907(明40)	東京国立博物館
60	桂太郎像	黒田清輝	油彩・キャンバス	79.0×64.0	1910(明43)	拓殖大学
61	草持てる男の肖像	岸田劉生	油彩・キャンバス	45.5×33.5	1916(大5)	東京国立近代美術館
62	寺内正毅像	岡田三郎助	油彩・キャンバス	91.5×65.4	1917(大6)	山口県立山口博物館
63	武者小路実篤像	樺貞雄	油彩・キャンバス	45.5×37.9	1922(大11)	
64	河上肇像	鹿子木孟郎	油彩・キャンバス	60.7×50.0	1928(昭3)	
65	アルルカンに扮するコーカサス人	小林和作	油彩・キャンバス	69.8×49.8	1928(昭3)	
66	瓊光像	長谷川利行	油彩・キャンバス	60.6×50.0	1929(昭4)	
67	父の肖像	長谷川三郎	油彩・板	45.0×36.8	1933(昭8)頃	
	子供					
68	少女像	川村清雄	油彩・キャンバス	30.5×26.0	1877(明10)頃	東京国立文化財研究所



番号	作品	作者	技法・材質	寸法(cm)	制作年	所蔵
69	マンドリンを持つ少女	百武兼行	油彩・キャンバス	114.0×82.0	1879(明12)	
70	幸彦像	青木繁	油彩・キャンバス	29.8×22.8	1907(明40)	栃木県立美術館
71	睡れる幼きモデル	児島虎次郎	油彩・キャンバス	114.5×88.0	1911(明44)	大原美術館
72	もるる日影	黒田清輝	油彩・キャンバス	51.7×44.0	1914(大3)	東京国立文化財研究所
73	信行之像	岸田劉生	油彩・キャンバス	40.7×31.5	1921(大10)	
74	少女と裏庭の家畜	国吉康雄	油彩・キャンバス	51.0×41.0	1922(大11)	
75	ラッパを持てる少年	小出楯重	油彩・キャンバス	94.3×63.2	1923(大12)	東京国立近代美術館
76	メリーゴーラウンド	清水登之	油彩・キャンバス	72.7×60.6	1925(大14)	
77	ロシアの少女	佐伯祐三	油彩・キャンバス	65.0×53.8	1928(昭3)	
78	病児	有島生馬	油彩・キャンバス	65.5×54.0	1929(昭4)	
79	子供	長谷川利行	油彩・キャンバス	72.5×60.5	1929(昭4)	
80	黄服少女	三岸好太郎	油彩・キャンバス	91.0×60.5	1930(昭5)	北海道立三岸好太郎美術館
81	秋田の娘	藤田嗣治	油彩・キャンバス	33.4×24.2	1937(昭12)	
82	少女と子供	川口軌外	油彩・キャンバス	116.5×91.0	1937(昭12)	
83	作文をかく少女	北川民次	油彩・キャンバス	73.0×60.5	1940(昭15)	
84	釣り床	香月泰男	油彩・キャンバス	73.0×117.3	1942(昭17)	
85	少女の像	瑛九	油彩・キャンバス	116.5×91.0	1942~43	
	構想画から新しいイメージへ					
86	わだつみのいろこの宮(下絵)	青木繁	油彩・キャンバス	71.4×30.8	1907(明40)	栃木県立美術館
87	廓然無聖	中村不折	油彩・キャンバス	193.5×142.5	1914(大3)	東京国立近代美術館
88	コントラバスを弾く	東郷青児	油彩・キャンバス	152.0×76.0	1915(大4)	東郷青児美術館
89	かきつばた	中沢弘光	油彩・キャンバス	161.0×110.5	1918(大7)	東京国立近代美術館
90	神の祈り	関根正二	油彩・キャンバス	69.5×41.5	1918(大7)頃	
91	あるユダヤ人の少女像	村山知義	油彩・紙・木・毛髪	40.2×26.8	1922(大11)	東京国立近代美術館
92	女と植木鉢	坂田一男	油彩・キャンバス	80.5×64.5	1924(大13)	兵庫県立近代美術館
93	洋傘に倚る少女	鏗光	油彩・キャンバス	78.0×64.5	1929(昭4)	
94	怖るべき子供	福沢一郎	油彩・キャンバス	65.2×80.3	1930(昭5)	群馬県立近代美術館
95	青春譜	竹久夢二	油彩・キャンバス	45.2×45.5	1930(昭5)	
96	少女	古賀春江	油彩・キャンバス	116.8×91.0	1932(昭7)	石橋美術館
97	青年道化	三岸好太郎	油彩・キャンバス	130.0×81.0	1932(昭7)	北海道立三岸好太郎美術館
98	人間(Ⅱ)	桂ゆき	油彩・キャンバス	90.8×72.4	1938(昭13)	
99	青年	海老原喜之助	油彩・キャンバス	145.5×112.0	1941(昭16)	北九州市立美術館

会場I



## (5) 展評など

### 新聞（報道記事をのぞく）

#### 展 評

広い視野と問題意識—近代洋画の人間像 朝日新聞（西部）／源弘道 55・10・25

滞欧作品展（北九州）と人間像展（山口）—近代美術たどる二企画展 西日本新聞／谷口編集委員 55・10・28

日本近代画の底流探る—「絵画のアール・ヌーボー」…「近代洋画の人間像」 日本経済新聞／滝梯三編集委員 55・11・19

#### シリーズ

「近代洋画の人間像」 山口新聞

1. 名作99点一堂に集め 55・10・17
2. 自画像 55・10・18
3. 婦人像 55・10・19
4. 風 俗 55・10・20
5. 裸 婦 55・10・21
6. 肖 像 55・10・22
7. 子 供 55・10・23
8. 構想図から新しいイメージへ 55・10・24

「近代洋画の人間像」展から 朝日新聞（県内）

（上）肖像画・自画像 55・10・23

（中）裸婦・婦人像・子供 55・10・30

（下）風俗・構想画 55・11・6

「近代洋画の人間像」紙上展 毎日新聞（県内）

河北道介「自画像」（10・28） 永地秀太「しぼり」（10・29） 河上左京「自画像」（10・30） 小林和作「アールカンに扮するコーカサスト」（10・31） 椿貞雄「髪すき図」（11・1） 安井曾太郎「婦人像」（11・5） 佐伯祐三「ロシアの少女」（11・6） 小出橋重「ラッパを持てる少年」（11・8） 清水登之「地に憩ふ」（11・9） 関根正二「神の祈り」（11・13） 林武「コワフューズ」（11.18） 長谷川三郎「父の肖像」（11.19） 高橋由一「司馬江漢像」（11・20） 里見勝蔵「女」（11・21） 香月泰男「釣り床」（11・22）

#### エッセイ

「近代洋画の人間像」展に寄せて 高田美規雄 中国新聞 55・11・12

#### その他

「近代洋画の人間像」にどうぞ—県立美術館学芸員 高田美規雄さん（30） 朝日新聞（県内）「ひと」 55・10・18



会場Ⅱ

## 4. 香月泰男

### —その造形と抒情の軌跡—

1981年1月6日(火)ー2月8日(日)

月曜日休館・1月15日開館



主催＝山口県立美術館

会場＝山口県立美術館

企画展示室Ⅰ・Ⅱ

常設展示室Ⅰ・Ⅱ



### (1) 趣旨

歿後7周年をトした回顧展。香月芸術の核と周縁部を明らかにすることで香月泰男の基本テーマを解明し、あわせて戦後美術史に占める香月泰男の意義を問いなおす趣旨から開かれた。全館6会場を使用し、未公開作品をふくむ油彩・素描・版画から陶画、おもちゃなどの小造形まであわせて450点余の作品で構成されたが、同展の趣旨を明示するため、基本的には編年とジャンル別による展示原則をまもりつつ、様式や主題による分類別展示、各会場の有機的関連づけを配慮しての対照展示など、会場構成に工夫をくわえた。つぎのとおりである。

#### 会場Ⅰ—様式の変遷

初期—模索の時代(1931~40)

中期—抒情の時代(1940—50)

過渡期—抒情から造形(構成)へ(1950—58)

後期—造形(構成)の時代(1959—74)

#### 会場Ⅱ—主題のひろがり

日常—人—自然

#### 会場Ⅲ—シベリア・シリーズとその周辺

#### 会場Ⅳ—素描・版画・コラージュ・カット絵原画など

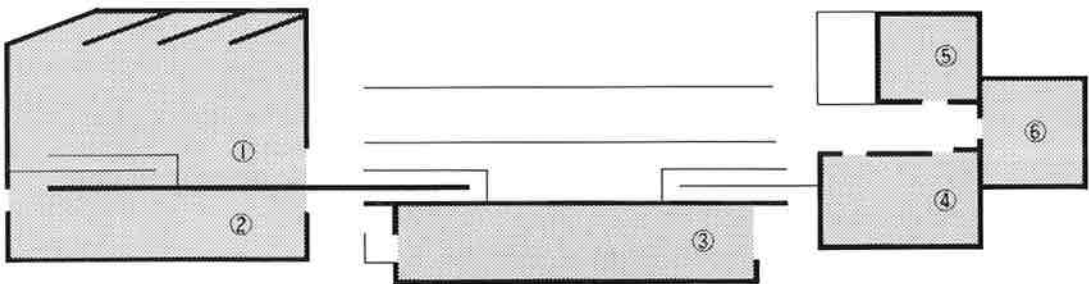
#### 会場Ⅴ—絵付による陶画・陶板

#### 会場Ⅵ—〈私の〉地球

香月泰男は、明治44年に山口県大津郡に生まれ、昭和11年に東京美術学校を卒業。その後、旧制中学、新制高校の美術教師をつとめながら、国画会を中心に各種の公募展で活躍したが、終生美術の中央志向に批判的な姿勢をつらぬき、自らは日本海にちかい山陰の郷里三隅町にかまえたアトリエを拠点に、日本人の体質にあう油彩の表現可能性を追究した。この成果はようやく1960年代に結実し、香月洋画ともいふべき独自の画境をひらいたが、昭和49年、ワインの多量摂取と多作からくる疲労が原因で63歳で死去した。香月泰男の仕事ではライフワークとされる連作「シベリア・シリーズ」(1947—74)が有名だが、今回の回顧展では、美術学校にはじまり自己の様式を確立するまでの長い軌跡をトータルな形でたどることによって、これまであまり知られなかった側面（たとえば<sup>カラリスト</sup>彩色画家としての側面、基本的テーマとそのヴァリエーション化の過程、あるいはその各ジャンルへの転移といったものなど）に照明があたり、観客の興味をひいた。また、他作家や世代からの影響関係の問題など改めて考えてみるべきテーマも浮かびあがった。

香月泰男の回顧展は、これまで殆んど例年のように開かれてきたといいが、今回は香月家をはじめ香月泰男遺作保存委員会の各位、画伯に縁故のあった画廊関係諸氏、一般コレクターの方々に非常なご助力をいただき、それをバックにした企画だったため、かつてない充実した回顧展を組織することができた。またその協力をまって、これまで画伯について編まれた中ではもっとも完備した内容の展観カタログを作成することができたのも、大きな収穫の一つといえる。

## (2) 会場構成



- ①会場Ⅰ ▶初期—模索の時代▶中期—抒情の時代▶過渡期—抒情から造形（構成）へ▶後期—造形（構成）の時代▶初期から中期までのスケッチ帳・おもちゃ・年譜・写真
- ②会場Ⅱ ▶日常▶人—労働・遊び・祈り・親子▶自然▶小品・おもちゃ
- ③会場Ⅲ ▶シベリア・シリーズ▶エスキースと版画（シベリア・シリーズ）▶オブジェと関連資料▶シベリア年表
- ④会場Ⅳ ▶素描▶カット絵原画・コラージュなど▶版画▶装訂本
- ⑤会場Ⅴ ▶絵付鉢・皿・茶碗など▶陶板・テラコッタなど▶絵付関連年表
- ⑥会場Ⅵ ▶自画像▶オブジェ・おもちゃ▶アトリエ再現▶全体に大型写真パネル

### (3) 展観カタログ

責任編集 安井雄一郎

内 容

ごあいさつ

香月泰男の世界 土方定一(神奈川県立近代美術館長)

謝 辞

カラー図版

モノクローム図版

香月泰男の生活と芸術 針生一郎(美術評論家)

苦悩する<黒>と自然の模様化 杉本春生(詩人・文芸評論家)  
—シベリア・シリーズについて—

余技でない余技 源弘道(朝日新聞西部本社編集委員)  
—香月泰男におけるおもちゃの位置—

香月泰男の方法 安井雄一郎

年譜(安井・高田)／サイン・展覧会歴・文献目録・  
作品カタログ(安井)／索引・English summary(勝津)

- A4版276ページ●アート紙110kg／4色オフセット・32ページ,  
2色オフセット・128ページ●上質紙90kg／文字活字・116ページ



### (4) 出品作品

#### I 油 彩 (すべてキャンバス)

※はシベリア・シリーズ

番号	作 品	寸 法(cm)	制 作 年	所 蔵
1	風景Ⅰ	60.3×72.8	1931(昭6)頃	
2	風景Ⅱ	60.4×72.8	1931(昭6)頃	
3	風景Ⅲ	59.8×72.2	1931(昭6)頃	
4	風景Ⅳ	60.5×72.8	1931(昭6)	
5	風景Ⅴ	60.4×72.8	1933(昭8)	
6	上野動物園	41.0×61.0	1933(昭8)	
7	風景Ⅵ	60.4×72.8	1933(昭8)	
8	裸婦	45.2×37.2	1933(昭8)	
9	雪降りの中の山陰風景	60.6×72.8	1934(昭9)	
10	雪庭	60.4×72.5	1934(昭9)	
11	二人座像	145.3×112.5	1936(昭11)	
12	自画像	61.0×45.5	1936(昭11)	東京芸術大学
13	少年像	72.8×60.4	1936(昭11)	
14	猫	60.5×72.8	1937(昭12)	
15	犬	60.8×72.7	1938(昭13)	
16	雪	60.4×72.7	1938(昭13)	
17	兎	73.0×100.0	1939(昭14)	
18	棚と壺	72.8×60.6	1939(昭14)	



番号	作 品	寸 法(cm)	制 作 年	所 蔵
19	枯カンナ	72.6× 60.3	1940(昭15)	
20	石と壺	72.5×116.5	1940(昭15)	
21	門・石垣	72.7× 60.8	1940(昭15)	
22	棚	72.7× 60.5	1940(昭15)	
23	釣り床	73.0×117.3	1941(昭16)	
24	水鏡	72.3×116.5	1942(昭17)	
25	波紋	72.7×116.7	1943(昭18)	
26	ホロンパイル	46.0× 65.0	1944(昭19)	
27 ※	雨〈牛〉	72.9×116.1	1947(昭22)	山口県立美術館 (cat. no. 0-6)
28	朝	53.5× 33.8	1948(昭23)	
29	風	72.9×116.1	1948(昭23)	
30 ※	埋葬	72.2×117.1	1948(昭23)	山口県立美術館寄託品
31	水浴	72.5×116.5	1949(昭24)	
32	昼	72.7×116.7	1949(昭24)	
33	朝	72.7×116.7	1949(昭24)	
34	彼岸花	41.1× 60.9	1949(昭24)	
35	草上	72.7×116.7	1950(昭25)	
36	室内	72.7×116.7	1950(昭25)	
37	春	72.7×116.7	1951(昭26)	
38	夏	72.7×116.7	1951(昭26)	
39	人と箱	72.5×116.5	1951(昭26)	
40	カニ	45.5× 65.2	1951(昭26)	
41	仕事場	72.5×116.5	1952(昭27)	
42	鯨	21.5× 33.3	1952(昭27)	
43	休憩	72.5×116.5	1952(昭27)	
44	散歩	72.5×116.5	1953(昭28)	愛知県文化会館
45	ペンキ職人	72.6×116.3	1953(昭28)	
46	籠の中のとうもろこし	65.5× 45.5	1952(昭27)	
47	円卓の白木蓮	41.5× 65.0	1952(昭27)	
48	盃舟	72.5×116.5	1954(昭29)	
49	牡牛	72.5×116.5	1954(昭29)	
50	鳩と青年	72.5×116.5	1954(昭29)	
51	青年	73.0×146.5	1954(昭29)	
52	游泳	72.5×116.5	1955(昭30)	
53	山羊	72.5×116.5	1955(昭30)	
54	二人	72.5×116.5	1955(昭30)	
55	新聞	116.5× 72.5	1955(昭30)	
56	柿	21.5× 33.2	1955(昭30)	
57 ※	左官	116.9× 72.3	1956(昭31)	山口県立美術館 (cat. no.0-7)
58	砂上	72.0×116.0	1956(昭31)	全国共済農業協同組合連合会
59	机の上	45.5× 65.3	1956(昭31)	
60	トレド	40.7× 23.0	1956(昭31)	
61	バルセロナ	40.7× 23.0	1957(昭32)	
62	ヴェネチア	40.7× 23.0	1957(昭32)	
63 ※	乗客	116.7× 72.8	1957(昭32)	山口県立美術館 (cat. no.0-8)
64	つわぶきの花	45.5× 27.2	1957(昭32)	
65	告別	73.0×117.0	1958(昭33)	東京国立近代美術館寄託品

番号	作 品	寸 法(cm)	制 作 年	所 蔵
66	石畳	72.7×50.0	1958(昭33)	
67	家鴨	65.6×45.8	1958(昭33)	
68	祈	40.4×24.3	1958(昭33)	
69	運ぶ人	72.8×50.0	1959(昭34)	
70	※ 北へ西へ	72.9×116.7	1959(昭34)	山口県立美術館 (cat. no. O-10)
71	※ ダモイ	72.8×116.7	1959(昭34)	山口県立美術館寄託品
72	※ 1945	72.8×116.7	1959(昭34)	山口県立美術館 (cat. no. O-9)
73	筍	64.5×45.5	1959(昭34)	
74	折り	53.0×33.4	1959(昭34)	
75	※ 避難民	72.8×116.7	1960(昭35)	山口県立美術館寄託品
76	※ 穴掘人	72.8×116.7	1960(昭35)	山口県立美術館 (cat. no. O-11)
77	※ 運ぶ人	72.8×116.7	1960(昭35)	山口県立美術館 (cat. no. O-12)
78	※ ホロンバイル	72.8×116.7	1960(昭35)	山口県立美術館 (cat. no. O-13)
79	※ 涅槃	130.3×194.3	1960(昭35)	山口県立美術館寄託品
80	運ぶ人	53.0×33.3	1960(昭35)	
81	運ぶ女	41.0×27.6	1960(昭35)	
82	風船売り	45.5×27.3	1960(昭35)	
83	跳び箱	41.0×24.0	1960(昭35)	
84	脱衣	65.2×45.5	1960(昭35)	
85	※ 湿地	73.6×50.0	1961(昭36)	
86	※ 黒い太陽	116.1×72.9	1961(昭36)	山口県立美術館寄託品
87	※ ナホトカ	116.7×72.8	1961(昭36)	山口県立美術館 (cat. no. O-14)
88	※ 列	116.7×72.8	1961(昭36)	山口県立美術館 (cat. no. O-15)
89	※ アムール	162.1×112.0	1962(昭37)	山口県立美術館寄託品
90	脱衣	40.9×24.3	1962(昭37)	
91	※ 雪〈窓〉	116.7×72.8	1963(昭38)	山口県立美術館 (cat. no. O-17)
92	風	116.8×72.3	1963(昭38)	
93	久原山	90.0×60.0	1963(昭38)	東京国立近代美術館
94	※ 雪	115.5×162.0	1963(昭38)	山口県立美術館 (cat. no. O-16)
95	祈る人	40.9×24.3	1963(昭38)	
96	縄跳び	24.3×13.0	1963(昭38)	
97	※ 鋸	72.8×116.7	1964(昭39)	山口県立美術館 (cat. no. O-20)
98	※ 伐	72.8×116.7	1964(昭39)	山口県立美術館 (cat. no. O-19)
99	※ 神農	91.3×60.8	1964(昭39)	
100	冬の川〈雪〉	89.7×59.5	1964(昭39)	
101	※ 餓	162.7×112.3	1964(昭39)	山口県立美術館 (cat. no. O-18)
102	種播	41.0×24.3	1964(昭39)	
103	鯨	24.3×41.0	1964(昭39)	
104	冬鳥	89.7×59.5	1964(昭39) 頃	
105	※ 囚	72.8×116.7	1965(昭40)	山口県立美術館 (cat. no. O-22)
106	※ 荆	72.8×116.7	1965(昭40)	山口県立美術館 (cat. no. O-23)
107	※ 朝陽	90.9×60.6	1965(昭40)	山口県立美術館 (cat. no. O-21)
108	※ 凍土	112.0×162.3	1965(昭40)	山口県立美術館 (cat. no. O-24)
109	富士	90.9×65.2	1965(昭40) 頃	
110	※ 私〈マホルカ〉	72.6×116.8	1966(昭41)	山口県立美術館 (cat. no. O-25)
111	※ 凍河〈エニセイ〉	72.5×116.7	1966(昭41)	山口県立美術館 (cat. no. O-27)
112	※ 海〈ペーチカ〉冬	111.9×161.9	1966(昭41)	山口県立美術館 (cat. no. O-28)

番号	作 品	寸 法(cm)	制 作 年	所 蔵
113 ※	星 〈有刺鉄線〉夏	162.0× 91.0	1966(昭41)	山口県立美術館 (cat. no. O-26)
114 ※	復員 〈タラップ〉	162.1×111.6	1966(昭41)	山口県立美術館 (cat. no. O-29)
115 ※	別	162.1×111.6	1967(昭42)	山口県立美術館 (cat. no. O-33)
116	父と子	41.0× 24.3	1967(昭42)	
117	シーソー	53.0× 33.3	1967(昭42)	
118 ※	雨	116.1× 72.9	1968(昭43)	山口県立美術館 (cat. no. O-31)
119 ※	雲	116.1× 72.9	1968(昭43)	山口県立美術館 (cat. no. O-32)
120	雨後	90.7× 60.5	1968(昭43)	山口県農協会館管理委員会
121 ※	〈私の〉地球	111.6×162.1	1968(昭43)	山口県立美術館 (cat. no. O-30)
122	会話	33.5× 21.0	1968(昭43)	
123 ※	青の太陽	162.1×116.6	1969(昭44)	山口県立美術館 (cat. no. O-34)
124 ※	護	72.9×116.1	1969(昭44)	山口県立美術館寄託品
125 ※	煙	72.9×116.1	1969(昭44)	山口県立美術館 (cat. no. O-35)
126	秋収	90.9× 60.6	1969(昭44)	
127	蓮池	90.9× 60.6	1969(昭44)	
128	枯葉を唄うグレコ	45.5× 27.2	1969(昭44)	
129	母と子	41.0× 24.0	1969(昭44)	
130	母と子	40.9× 24.3	1969(昭44)	
131	母子	27.5× 21.0	1969(昭44) 頃	
132 ※	業火	162.0× 96.0	1970(昭45)	山口県立美術館 (cat. no. O-36)
133 ※	朕	162.1×116.1	1970(昭45)	山口県立美術館 (cat. no. O-39)
134 ※	奉天(右)	72.9×116.1	1970(昭45)	山口県立美術館 (cat. no. O-37)
135 ※	奉天(左)	72.9×116.1	1970(昭45)	山口県立美術館 (cat. no. O-38)
136	彼岸花	90.9× 60.6	1970(昭45)	
137 ※	点呼(右)	73.0×117.0	1971(昭46)	山口県立美術館 (cat. no. O-40)
138 ※	点呼(左)	73.0×117.0	1971(昭46)	山口県立美術館 (cat. no. O-41)
139 ※	バイカル	111.0×162.0	1971(昭46)	山口県立美術館 (cat. no. O-42)
140 ※	— 35℃	162.0× 96.0	1971(昭46)	山口県立美術館 (cat. no. O-43)
141 ※	日本海	96.0×194.3	1972(昭47)	山口県立美術館 (cat. no. O-44)
142 ※	雪山	116.7× 72.8	1972(昭47)	山口県立美術館 (cat. no. O-45)
143	龍	116.7× 73.0	1972(昭47)	
144	津和野	80.0× 53.0	1972(昭47)	ひろしま美術館 (cat. no. 54)
145 ※	絵の具箱	112.1×162.3	1972(昭47)	山口県立美術館 (cat. no. O-46)
146	秋野	90.9× 60.6	1972(昭47)	
147 ※	海拉爾	72.9×116.1	1973(昭48)	山口県立美術館 (cat. no. O-48)
148 ※	道	72.8×116.1	1973(昭48)	山口県立美術館 (cat. no. O-49)
149 ※	デモ	97.0×193.0	1973(昭48)	山口県立美術館 (cat. no. O-47)



会場I



会場VI

番号	作 品	寸 法(cm)	制 作 年	所 蔵
150	※ 渚〈ナホトカ〉	96.5×162.0	1974(昭49)	山口県立美術館寄託品
151	※ 月の出	116.1× 72.9	1974(昭49)	山口県立美術館 (cat. no. O-51)
152	※ 日の出	116.1× 72.9	1974(昭49)	山口県立美術館 (cat. no. O-50)
153	雪の朝	90.9× 48.0	1974(昭49)	
154	雪の海	90.9× 48.0	1974(昭49)	

## II 油彩小品 (2・30が板、ほかはすべてキャンバス)

※はシベリア・シリーズのエスキース

番号	作 品	寸 法(cm)	制 作 年
1	※ 雨	50.3× 65.0	1947(昭22)
2	※ 収容所風景	12.3× 31.3	1947(昭22)
3	自画像	27.0× 21.5	1950(昭25)年代
4	※ ナホトカ	33.4× 19.1	1961(昭36)
5	※ 復員船	19.3× 14.3	1961(昭36)
6	※ 神農	53.3× 33.3	1965(昭40)
7	※ 朝陽	65.0× 45.7	1964(昭39)
8	自画像〈私〉	19.5× 15.0	1966(昭41)
9	※ 海〈ペチカ〉	14.3× 19.3	1966(昭41)
10	椿樹	19.3× 13.5	1966(昭41)
11	春雪	19.0× 14.5	1966(昭41)
12	みもざ	◇	1966(昭41)
13	朝陽	18.7× 17.5	1967(昭42)
14	郵便配達	18.7× 17.4	1967(昭42)
15	椿花	18.7× 17.5	1967(昭42)
16	巢鳩	18.9× 17.5	1967(昭42)
17	薊	18.8× 17.1	1967(昭42)
18	波濤	19.1× 17.4	1967(昭42)
19	兜虫	18.8× 17.3	1967(昭42)
20	雲丹	18.9× 17.3	1967(昭42)
21	星座	18.6× 17.4	1967(昭42)
22	彼岸花	18.8× 17.7	1967(昭42)
23	巴里屋根	18.8× 17.3	1967(昭42)
24	West End Ave.	18.7× 17.4	1967(昭42)
25	※ 私の地球	19.8× 25.0	1967(昭42)
26	薊	13.2× 8.6	1969(昭44)
27	スキトピー	20.2× 15.5	1969(昭44)
28	しゃくやく	20.3× 15.2	1969(昭44)
29	雲	21.5× 27.5	1959(昭34)
30	鳩	11.8× 20.0	1969(昭44)頃
31	白梅	20.0× 15.1	1970(昭45)
32	ばら蕾	19.7× 15.2	1970(昭45)
33	すみれ	20.3× 15.2	1970(昭45)
34	トルコ桔梗	19.7× 15.0	1970(昭45)
35	仔犬	19.6× 14.5	1970(昭45)
36	※ 業火	65.3× 45.8	1969(昭44)
37	葵	19.5× 14.5	1971(昭46)

番号	作品	寸法(cm)	制作年
38	踊り子草	20.2× 15.2	1972(昭47)
39 ※	絵の具箱	33.2× 53.0	1972(昭47)

### Ⅲ 素描

番号	作品	寸法(cm)	制作年
1	皿の上のリンゴ	26.8× 39.0	1951(昭26)
2	薊	38.4× 27.5	1953(昭28)
3	帽子の中のトマト	27.3× 38.5	1954(昭29)
4	〃	31.4× 41.2	1955(昭30)
5	猫柳	38.3× 27.3	1956(昭31)
6	カスミ草	38.0× 27.3	1956(昭31)
7	トビ魚	27.2× 38.6	1956(昭31)
8	麦	27.2× 38.7	1956(昭31)
9	馬鈴薯	39.3× 27.2	1956(昭31)
10	手の中の空豆	27.1× 39.4	1956(昭31)
11	パリ市街風景	50.4× 32.7	1956(昭31)
12	花	39.4× 27.1	1958~67
13	〃	52.0× 31.5	1958~67
14	〃	52.4× 31.9	1958~67
15	ユリ	52.2× 31.3	1958~67
16	花	52.4× 31.8	1958~67
17	プラム	52.2× 31.7	1958~67
18	トマト	〃	1958~67
19	カボチャ	〃	1958~67
20	ウニ	〃	1958~67
21	サザエ	〃	1958~67
22	ハト	〃	1958~67
23	カマキリ	〃	1958~67
24	自画像	52.1× 30.6	1964(昭39)
25	アメリカ	45.1× 30.7	1966(昭41)
26	自画像	50.5× 28.5	1969(昭44)
27	タヒチ	52.0× 35.5	1971(昭46)
28	〃	45.5× 32.2	1971(昭46)
29	ローマ	45.5× 34.4	1972(昭47)
30	ギリシャ	45.5× 30.5	1972(昭47)
31	モロッコ	〃	1972(昭47)
32	〃	45.5× 30.4	1972(昭47)
33	グランカナリア	〃	1972(昭47)

### Ⅳ 版画

1	雪・窓	43.5× 30.0	1969(昭44)
2	運ぶ人	46.0× 31.0	1969(昭44)
3	避難民	28.0× 43.0	1969(昭44)
4	白孔雀	32.0× 24.0	1970(昭45)

番号	作 品	寸 法(cm)	制 作 年
5	黒豹	48.0× 34.5	1970(昭45)
6	母子	36.0× 27.6	1971(昭46)
7	母子	36.0× 27.6	1971(昭46)
8	オリーブ畑	40.5× 27.8	1972(昭47)
9	エドラの風車	40.6× 28.3	1972(昭47)
10	ホテルから(カサブランカ)	42.0× 29.0	1973(昭48)
11	城壁(マラケシュ)	44.0× 30.0	1973(昭48)
12	落日	44.0× 31.0	1973(昭48)

## V コラージュ

番号	作 品	寸 法(cm)	制 作 年
1	デモ	27.3× 20.2	1966(昭41)
2	パリ風景	45.0× 30.0	1966(昭41)
3	ミロの版画によるコラージュ	51.0× 60.0	1971(昭46)

## VI 陶 画

番号	作 品	寸 法(cm)	制 作 年
1	あじさい	36.5× 2.5	1952(昭27)
2	あざみ	21.3× 22.0	1952(昭27)
3	男の像Ⅰ	27.0× 4.2	1953(昭28)
4	男の像Ⅱ	27.0× 4.2	1953(昭28)
5	魚	22.0× 1.5	1953(昭28)
6	カッパを着た子供	23.0× 3.5	1953(昭28)
7	そら豆	25.0× 1.3	1953(昭28)
8	豆	22.5× 1.7	1953(昭28)
9	けし	14.0× 20.5	1954(昭29)
10	鳳仙花	24.5× 5.5	1954(昭29)
11	魚	25.0× 5.5	1954(昭29)
12	秋草	16.0× 4.8	1954(昭29)
13	犬	23.0× 5.0	1955(昭30)
14	とうがらし	26.7× 2.7	1955(昭30)
15	松	43.7× 5.5	1955(昭30)
16	自画像	26.0× 3.5	1956(昭31)
17	牛	34.0× 4.2	1956(昭31)
18	麦	24.5× 2.6	1956(昭31)
19	蝌蚪	13.0× 32.6	1956(昭31)
20	つわぶき	35.5× 33.0	1956(昭31)
21	村娘之図	13.0× 27.0	1957(昭32)
22	男の像	20.0× 12.5	1957(昭32)
23	九宮鳥	8.5× 11.6	1957(昭32) 頃
24	いぐさ	8.5× 10.7	1957(昭32) 頃
25	くずかずら	41.0× 4.5	1958(昭33)
26	野いばら	24.3× 3.2	1958(昭33)
27	山桃	44.0× 5.7	1959(昭34)

番号	作 品	寸 法(cm)	制 作 年
28	茗荷	23.7× 19.9	1962(昭37)頃
29	久原山	24.0× 17.0	1962(昭37)頃
30	祈る人	25.8× 18.3	1963(昭38)
31	つゆくさ・ぎぼし	8.1× 11.0	1963(昭38)頃
32	捕鯨	21.8× 4.8	1963(昭38)頃
33	こすもす	22.0× 4.0	1964(昭39)
34	母と子、子供と鶏ほか	8.7× 11.2	1965(昭40)
35	鳩	18.1× 25.8	1965(昭40)頃
36	母と子	24.0× 18.4	1965(昭40)頃
37	母子	19.0× 15.7	1969(昭44)
38	鶏とうさぎ	26.0× 3.5	1966(昭41)頃
39	なずな	26.5× 2.0	1966(昭41)頃
40	幼鳩	29.5× 5.2	1966(昭41)頃
41	母子	24.5× 18.0	1967(昭42)頃
42	茶碗(自作)(2客)	13.3× 6.3 16.0× 5.8	1969(昭44)頃 1969(昭44)頃
43	牡丹	34.0× 3.0	1970(昭45)頃
44	すすき	31.0× 21.0	1970(昭45)頃
45	なめくじ、ねぎ坊主、かたつむり	6.8× 11.7	1970(昭45)頃
46	木槿	27.0× 2.5	1971(昭46)頃
47	トレド風景	28.5× 20.5	1972(昭47)
48	カサブランカの人	30.0× 3.0	1972(昭47)頃
49	梅	14.5× 7.7	1972(昭47)頃
50	桜島	13.7× 8.3	1972(昭47)頃
51	茶の花	13.7× 8.5	1973(昭48)
52	カブト虫	14.0× 8.0	1973(昭48)頃
53	夕暮は大きな書物、野に 草、地に人、天に無	8.0× 9.1	1973(昭48)頃
54	数珠玉	14.5× 7.5	1973(昭48)頃
55	鶏親子	27.5× 20.8	1973(昭48)

## VII 参考資料

番号	作 品	寸 法(cm)	制 作 年
1	ホロンバイルのオブジェ	29.7×13.1×11.0	1959(昭34)頃
2	避難民のオブジェ	33.9×12.8×10.2	1959(昭34)頃
3	絵の具箱のオブジェ	25.0×16.8× 8.0	1972(昭47)頃
4	シベリア原資料類		
5	色紙4点		
6	書4点		
7	オブジェ8点		
8	おもちゃ約120点		
9	自画像		



会場Ⅲ

## (5) 展評など

### 新聞（報道記事をのぞく）

#### 展評

- 平和への賛歌—香月泰男の芸術 朝日新聞（西部）／源弘道 56・1・10  
香月泰男の全容を紹介—「その造形と抒情の軌跡」展 読売新聞（西部）／（秋）56・1・12  
作品・会場に漂う“総力”—香月泰男展 読売新聞（大阪）／（安） 56・1・14  
独自の抒情と表現—香月泰男展 西日本新聞／（谷口） 56・1・22  
香月泰男展をみて 中国新聞／（寺本） 56・1・22

#### シリーズ

香月泰男シリーズ 西日本新聞（県内）

- 北へ西へ（1959）（安井）56・1・5  
雨〈牛〉（1947）（安井） 56・1・12  
雪（1963）（木本） 56・1・19  
青の太陽（1969）（木本） 56・2・2  
1945（1959）（佐々木） 56・2・9

香月泰男展から 朝日新聞（県内）

- 透徹した目と多彩な才能—全容初公開に関心高まる 56・1・7  
作風の変遷と生命、愛のテーマ—第一・二会場 56・1・15  
シベリア・シリーズ 黒を基調に描く—第三会場 56・1・22  
多彩な活動一目 アトリエも再現—第四・五会場 56・1・29

香月泰男紙上展 毎日新聞（県内）

- 風景Ⅱ（1931）56・1・15 点呼（左）（1671）56・1・24 北へ西へ（1959）56・1・25 餓（1964）56・1・27  
母と子（1969）56・1・29 運ぶ人（1959）56・1・30

名画にみる母と子 西日本新聞

- 香月泰男「母と子（1969）」（谷口） 56・1・16

#### エッセイ

- 北海道時代の香月泰男 木本信昭 西日本新聞（県内）56・1・26  
エキセントリックな洋画家—香月泰男展によせて 安井雄一郎 毎日新聞（西部）56・1・29

#### その他

- 最も苦勞したアトリエの再現—香月泰男展を企画した安井雄一郎さん 中国新聞（県内）「ひと」56・1・8  
美術館員の仕事 西日本新聞「風車（Z）」56・2・27

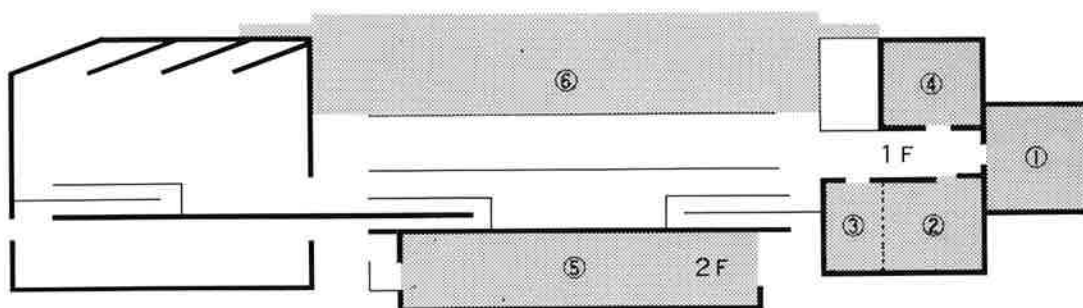
### 雑誌

- 香月泰男—その造形と抒情の軌跡 安井雄一郎 アート・ビジョン—今月の展評 56・2月号（vol.11—1）  
四十余年の画業を回顧する—香月泰男展 安井雄一郎 美術手帖 56・2月号（vol.33 No.477）  
描かれた虜囚体験—香月泰男 朝日晷 三彩 56・2月号  
香月泰男展とカタログ 芸術新潮 56・3月号（vol.32—3 No.375）  
試練にさらされる地方美術館（北）朝日ジャーナル（vol.23 No.16） 56・4・17  
絵具箱 繪 No.207 56・5月号  
地方美術館での須田国太郎、香月泰男の回顧展（北山南海）朝日ジャーナル（vol.23 No.19） 56・5・8  
美術展カタログは単行本として自立しうるか 峰恭介 みづゑ 56・6月号（No.915）  
大量動員時代の展覧会 赤津侃 美術手帳 '82年増刊号



## (B) 常設展

館藏品(借用品をふくむ場合もある)の常時公開の場として常設展示室を設け、年4回ていどの展示替えでテーマを設定して館藏品を紹介している。常設展示のエリアは、図に示されるように5つの室からなっており、このうち4室が1階フロア、1室が2階フロアに設置されている。前4室を常設展示室Ⅰと総称し、それぞれの室は特定の展示内容にかぎられている。すなわち、①絵画展示室Ⅰが香月泰男、②同Ⅱが小林和作、③資料展示室が版画・素描・画稿などの第2次資料、④郷土工芸室が萩焼および赤間硯の展観にそれぞれ利用されている。一方、2階フロアは⑤常設展示室Ⅱと称し、館藏品全般から選ばれた作品紹介の場として利用されており、常設ⅠとⅡは相互補完的に機能し全体として偏りのない展示となるよう配慮されている。この他に戸外には⑥野外展示場が設けられている。ここは、館内展示が不可能な立体造形の紹介・展観の場として現代彫刻数点が設置されているが、鑑賞の合間の休憩の場としても利用されている。



常設展示室Ⅰ(①~④)	462,309㎡(延べ面積)
常設展示室Ⅱ(⑤)	471,825㎡( 〃 )
野外展示場(⑥)	1,370㎡( 〃 )

### これまでの常設展示

#### 常設展示室Ⅰ

絵画室Ⅰ(香月泰男).....	42
絵画室Ⅱ(小林和作).....	45
資料展示室.....	47
郷土工芸室.....	49

常設展示室Ⅱ.....	52
-------------	----

※凡例 常設展示記録は、各展示室に即して整理し、また、個々については、名称・趣旨・出品目録の順に編集されている。

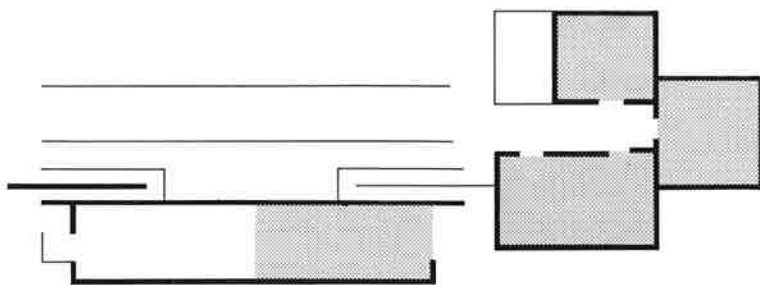
## 常設展示室Ⅰ・Ⅱ併用

### 1. 受贈作品披露展

1979(昭54)年10月7日～12月28日

(常設Ⅱは、11月18日まで)

常設展示室Ⅰ・Ⅱ(Ⅱは一部使用)



### 趣 旨

館蔵品の収集は1973(昭48)年からはじまるが、その後は作品購入と並行して、作家、遺族、所蔵家の寄贈協力をもあおぎながら収蔵作品の充実がおこなわれてきた。このような累積をへて、1979(昭54)年の美術館開館時には、日本画、洋画、彫刻、工芸の各分野をふくめて250点あまりの美術作品が収集されるまでになった。こうした関係各位の協力をたいする謝意を表する意図のもとに、開館記念特別展「生誕150年狩野芳崖」と併設して開館までに収集されたそれらの作品から寄贈品のみを選んだ「受贈作品披露展」が常設展示室Ⅰ・Ⅱにおいて開かれた。

### 出品作品

番号	作 品	作 者	材質・形状	制作年
1	雲	香 月 泰 男	油彩・キャンパス・額	1968
2	雨<牛>	〃	〃	1947
3	ホロンパイル	〃	〃	1960
4	青の太陽	〃	〃	1969
5	日の出	〃	〃	1974
6	奉天<右>	〃	〃	1970
7	奉天<左>	〃	〃	1970
8	北へ西へ	〃	〃	1959
9	業火	〃	〃	1970
10	運ぶ人	〃	〃	1960
11	涅槃	〃	〃	1960
12	雪山	〃	〃	1972
13	囚	〃	〃	1965
14	絵具箱	〃	〃	1973
15	春の海	小 林 和 作	〃	1974
16	海	〃	〃	1964
17	エクス風景	〃	〃	1929
18	婦人像	〃	〃	1966
19	秋山	〃	〃	
20	秋山(水彩)	〃	水彩・紙・額	
21	秋山(水彩)	〃	〃	
22	紀州の海	〃	水彩・紙・軸	
23	南画風山水	〃	紙本彩色・軸	
24	紺糸を干す	小 野 竹 喬	〃	
25	女と龍	梅 原 龍三郎	水彩・紙・額	
26	椿	中 川 一 政	紙本彩色・額	

27	ノートルダム	林 武	水彩・紙・額	
28	しぼり	永 地 秀 太	油彩・キャンパス・額	1913
29	おどけ役者	桑 重 儀 一	〃	1933
30	静物	河 上 左 京	水彩・紙・額	
31	マドモアゼルS	錦 義一郎	油彩・キャンパス・額	
32	赤の地平	田 中 稔 之	〃	1976
33	黒潮	中 本 達 也	水彩・紙・額	1959
34	黄色い壁	宮 崎 進	油彩・キャンパス・額	1976
35	欲張り婆さん	桂 ゆき	〃	1966
36	月夜	松 田 正 平	〃	1956
37	有明海<えご>	三 浦 俊 輔	〃	1977
38	舳先	尾 崎 正 章	〃	1977
39	愛吾廬	松 林 桂 月	絹本彩色・軸	1936
40	秋園	〃	紙本彩色・軸	1938
41	群仙図	金 子 鷗 雨	〃	
42	梅に鶴	兼 重 暗 香	〃	1930
43	群鶴	福 田 翠 光	絹本彩色・軸	1959
44	網船	澤 野 文 臣	紙本彩色・額	1957
45	懷壁	西 野 新 川	〃	1962
46	動的な群像	藤 田 隆 治	彩色・キャンパス・額	1964
47	北辺の船	小 野 具 定	紙本彩色・額	4964
48	編笠水指	三 輪 休 和	陶器	1973
49	筆洗切茶碗	〃	〃	1975
50	茶碗	〃	〃	1976
51	茶碗	三 輪 休 雪	〃	1978
52	茶碗	〃	〃	1978
53	茶碗	〃	〃	1979
54	平水指	坂倉新兵衛(14代)	〃	1974
55	御本手茶碗	〃	〃	1974
56	食籠	〃	〃	1974
57	井戸茶碗	吉 賀 大 眉	〃	
58	麦文壺	〃	〃	1946
59	花器(暁雲)	〃	〃	1973
60	魚文壺	坂 高麗左衛門	〃	1975
61	一重口水指	〃	〃	1975
62	茶碗	〃	〃	1975
63	灰被花入	田 原 陶兵衛	〃	1979
64	灰被水指	〃	〃	1978
65	茶碗	〃	〃	1978
66	井戸茶碗	坂 田 泥 華	〃	1977
67	井戸茶碗	〃	〃	1979
68	焼メ水指	坂 田 泥 華	〃	1978
69	ラブ	三 輪 龍 作	〃	1969
70	花I	〃	〃	1977
71	花II	〃	〃	1977
72	蘭花研	堀 尾 卓 司	石	
73	雄しべ	〃	〃	1957
74	ビルディング	〃	〃	1970

## 2. 山口県立美術館館蔵品展 (一部寄託品も含む)

1980(昭55)年1月5日—4月10日

(3月1日~30日は常設展示室Ⅱで「雪舟と芳崖」を開催)

常設展示室Ⅰ・Ⅱ

### 出品作品

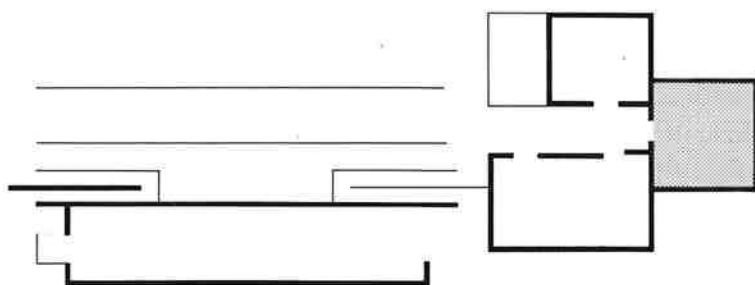
番号	作 品	作 者	制作年	材質・形状
1	別	香 月 泰 男	1967	油彩・キャンバス・額
2	黒い太陽	〃	1961	〃
3	朕	〃	1970	〃
4	避難民	〃	1960	〃
5	1945	〃	1959	〃
6	埋葬	〃	1948	〃
7	星〈有刺鉄線〉夏	〃	1966	〃
8	列	〃	1961	〃
9	鋸	〃	1964	〃
10	凍土	〃	1965	〃
11	私〈マホルカ〉	〃	1966	〃
12	点呼(右)	〃	1971	〃
13	〃(左)	〃	1971	〃
14	ダモイ	〃	1959	〃
15	婦人像	小 林 和 作	1913	〃
16	志摩波切村	〃	1913頃	紙本彩色・軸
17	桃山風景	〃		紙本彩色・屏風
18	春の海	〃	1974	油彩・キャンバス・額
19	山の池	〃		〃
20	山湖	〃		〃
21	海	〃	1964	〃
22	海	〃		〃
23	書簡等	森 寛 斎		紙本・画巻
24	写生図巻	〃		紙本淡彩・画巻
25	素描	藤 田 隆 治		水彩・紙
26	図案等	永 地 秀 太		〃
27	魚貝類写生	松 林 桂 月		紙本淡彩・画巻
28	更紗の前	永 地 秀 太	1924	油彩・キャンバス・額
29	ホノルル	桑 重 儀 一	1915	〃
30	マドモアゼルS	錦 義 一 郎		〃
31	明王	松 田 正 平		〃
32	残された壁(女と男C)	中 本 達 也	1967	〃
33	パーミヤン回想	入 江 一 子	1977	〃
34	星の園にて	山 本 文 彦	1977	〃
35	さいはて	三 浦 俊 輔	1973	〃
36	薄雪	尾 崎 正 章	1977	〃
37	アダムとイヴ	桂 ゆ き	1968	〃
38	野性	田 中 稔 之	1960	〃
39	魚のいる風景	藤 田 隆 治		紙本彩色・額

番号	作 品	作 者	制作年	材質・形状
40	湖底の村	西 野 新 川	1974	紙本彩色・額
41	網船	澤 野 文 臣	1957	〃
42	山水図屏風	森 寛 斎	1884	紙本彩色・屏風6曲1双
43	葡萄とりす	〃	1882	絹本墨画・軸
44	雪中山水図	狩 野 芳 崖		紙本淡彩・軸
45	蓬菜瑞色図	田 中 柏 陰	1921	絹本彩色・軸
46	雪景山水図	高 島 北 海	1916	〃
47	日本巫伯山溪図	〃	1916	〃
48	梅に鵲	兼 重 暗 香	1930	〃
49	若隼	福 田 翠 光	1937	〃
50	大鷹	〃	1937	〃
51	北辺	小 野 具 定		紙本彩色・額
52	茶碗	三 輪 休 和	1975	陶器
53	〃	〃	1976	〃
54	〃	三 輪 休 雪	1978	〃
55	〃	〃	1978	〃
56	〃	〃	1979	〃
57	水指	坂倉新兵衛(12代)		〃
58	とじめ水指	坂倉新兵衛(14代)		〃
59	花入	〃	1974	〃
60	御本手茶碗	〃	1974	〃
61	水指	坂 田 泥 華	1978	〃
62	小井戸茶碗	〃	1979	〃
63	茶碗	〃	1979	〃
64	水指	坂 高麗左衛門	1975	〃
65	魚文壺	〃	1975	〃
66	茶碗	〃	1975	〃
67	水指	田 原 陶兵衛	1978	〃
68	灰被耳付花入	〃	1979	〃
69	割高台茶碗	〃	1979	〃
70	茶碗	〃	1978	〃
71	花器(暁雲)	吉 賀 大 眉	1973	〃
72	麦文壺	〃	1946	〃
73	象嵌花瓶	〃	1943	〃
74	井戸茶碗	〃		〃
75	雄しべ	堀 尾 卓 司	1957	石
76	累柿研	〃	1950	〃
77	豊艷	堀 尾 卓 司	1959	〃

## 常設展示室 I

### 絵画展示室 I

(香月泰男)



## 1. シベリア・シリーズにみる群像表現

1980(昭55)年4月15日～7月6日

### 趣 旨

シベリア・シリーズ中、とくに群像表現を中心に展示。捕虜・避難民・死者など、戦争という極限状況におかれた運命共同体のそれぞれの貌(かお)ともいえる群像表現は、香月泰男にとってシベリア・シリーズという厳粛なテーマを展開していくうえで不可避のテーマであったといえる。香月は、シリーズ第1作の「雨〈牛〉」を発表したのち11年をへた1959(昭34)年、「北へ西へ」ではじめてこのテーマにとりくみ、その表現に成功するが、以後さまざまなヴァリエーションを経ながら描きだされた群像表現は、絶作「渚〈ナホトカ〉」にいたるまでシリーズ全体の1/3を占めている。ここでは、そうした群像表現を紹介し、「シベリア・シリーズ」の核心にあったものを考えてみる。

### 出品作品 (すべて油彩・キャンパス)

番号	作 品	寸法(cm)	制作年	番号	作 品	寸法(cm)	制作年
1	朕	162.1×111.6	1970	8	渚〈ナホトカ〉	96.0×162.0	1974
2	奉天(右・左)	72.9×116.1	1970	9	ナホトカ	116.7× 72.8	1961
3	北へ西へ	72.9×116.7	1959	10	デモ	97.0×193.9	1973
4	雪	115.5×162.0	1963	11	点呼(右・左)	73.0×117.0	1971
5	雪〈窓〉	116.7× 72.8	1963	12	復員〈タラップ〉	162.1×111.6	1966
6	海〈ビーチカ〉冬	111.9×161.9	1966	13	〈私の〉地球	111.6×162.1	1968
7	餓	162.7×112.3	1964				

## 2. 香月泰男と絵具箱

1980(昭55)年7月8日～10月5日

### 趣 旨

応召・出征・敗戦・シベリア抑留まで4年にわたる軍隊生活において行をともし、帰国に際し日本にもちかえられた香月の絵具箱には、漢字で12の文字(葬・月・憩・葉・飛・風・道・鋸・朝・陽・伐・雨)が書きつけられている。これは、のちの絵画化を意図した基本モチーフを記号であらわ

したものと同様に、その意味では「シベリア・シリーズ」の原型をなすものといっている。展示では、この12の基本モチーフがのちのシリーズにおいてどのように絵画化され、テーマとして展開していったかを、作品を追ってあとづける目的で、それらのモチーフがもっとも具体的に絵画化されていると思われる14点の作品を紹介する。

#### 出品作品（すべて油彩・キャンバス）

番号	モチーフ	作 品	制作年	番号	モチーフ	作 品	制作年
1	葬-----埋葬		1948	8	鋸-----鋸		1964
2	月-----月の出		1974	9	朝-----朝陽		1965
3	憩-----海<パーチカ>冬 薬		1966	10	陽-----青の太陽		1969
4	飛-----雪		1963	11	-----日の出		1974
5	-----雲		1968	12	伐-----伐		1964
6	風-----ホロソバイル		1960	13	雨-----雨		1968
7	道-----道		1973	14		絵具箱	1972

### 3. 視覚から分類されるシベリア・シリーズの自然

1980(昭55)年10月6日～12月24日

#### 趣 旨

香月泰男の戦後のライフワーク「シベリア・シリーズ」が1960年代から70年代にかけ高い評価をうけたのは、テーマの特殊性、連作としては異例ともいえる制作量（57点）、長い年月にわたる制作期間（1947～74）などといった外的・物理的要因もさることながら、油絵具から油性のテリや光沢ののぞくことによって得られた乾いた深みのある黒と黄土のマチエール、さらに構図にみえる独自の視角や構成感覚などがあいまって成立した独特の絵画内容そのものによるところが大きい。とくに後者の構成感覚については、文展特選の「兎」（1939）にはすでにあらわれ、その後の制作史に一貫してうかがわれる特徴であり、香月芸術の特質をかたちづくる最も重要な根底であったといっても言いすぎではないだろう。その構成感覚に視点をおき、作者がモチーフ（対象）をとらえるのに、どのような距離と角度をもってしたかといったテーマで、「シベリア・シリーズ」を考えてみる。今回は自然をモチーフとした作品15点を取りあげる。

#### 出品作品（すべて油彩・キャンバス）

番号	作 品	寸法(cm)	制作年	番号	作 品	寸法(cm)	制作年
1	雲	116.1×72.9	1968	6	海拉爾	72.9×116.1	1973
2	雨	116.1×72.9	1968	7	煙	72.9×116.1	1969
3	青の太陽	162.1×111.6	1969	8	日の出	116.1×72.9	1974
4	星<有刺鉄線>夏	162.0×91.0	1966	9	月の出	116.1×72.9	1974
5	バイカル	162.0×111.0	1971	10	-35°C	162.0×96.0	1971

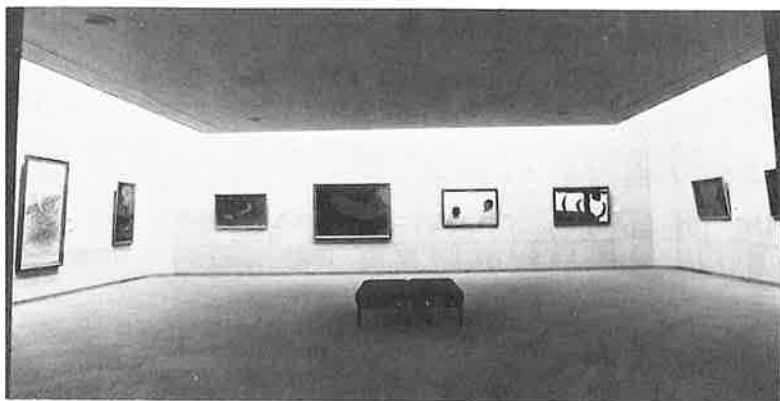
番号	作 品	寸法(cm)	制作年	番号	作 品	寸法(cm)	制作年
11	凍河<エニセイ>	72.5×116.7	1966	14	伐	72.8×116.7	1964
12	雪山	116.7× 72.8	1972	15	<私の>地球	111.6×162.1	1968
13	ホロンバイル	72.8×116.7	1960				

#### 4. シベリア・シリーズ

1981(昭56)年2月14日～5月10日

出品作品 (すべて油彩・キャンバス)

番号	作 品	寸法(cm)	制作年	番号	作 品	寸法(cm)	制作年
1	左官	116.9× 72.3	1956	8	復員<タラップ>	162.1×111.6	1966
2	雪<窓>	116.7× 72.8	1963	9	荆	72.8×116.7	1965
3	日本海	96.0×194.3	1972	10	1945	72.8×116.7	1959
4	ナホトカ	116.7× 72.8	1961	11	囚	72.8×116.7	1965
5	北へ西へ	72.9×116.7	1959	12	凍土	112.0×162.3	1965
6	道	72.8×116.7	1973	13	穴掘人	72.8×116.7	1960
7	餓	162.7×112.3	1964	14	朕	162.1×111.6	1970

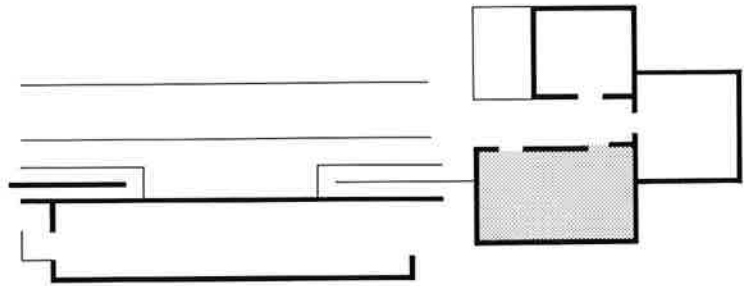




## 常設展示室 I

### 絵画展示室 II

(小林和作)



#### 1. 小林和作と須田国太郎

1980(昭55)年6月17日～11月9日

##### 趣 旨

里見勝蔵や川口軌外らのたび重なるすすめにより、小林和作は1934(昭9)年に独立美術協会の会員となるが、そのとき同時にこの会に入会したのが、須田国太郎であった。これを機縁とし、懇意となった2人は、互いの私宅をたびたび往来するようになり、この厚い交誼は須田が1961(昭36)年に亡くなるまでつづく。ここでは、2人の作品を紹介することで、その個性の相違をみる。

##### 出品作品

番号	作 品	作 者	材質・形状	制作年
1	春の山	小 林 和 作	油彩・キャンバス・額	
2	秋山	〃	〃	
3	紀州の海	〃	〃	
4	島の春	〃	〃	
5	佐渡の海	〃	〃	
6	桃の静物	須 田 国太郎	〃	1953頃
7	石組	〃	〃	1944頃
8	不二麿	〃	紙本墨画淡彩・軸	
9	ヴィーナス	〃	紙本墨画・軸	1950頃
10	みみずく	〃	〃	1950頃
11	鷺	小林・須田合作	紙本彩色・軸	

#### 2. 小林和作の世界

1980(昭55)年11月11日～12月24日

##### 趣 旨

1980(昭55)年度は、夏期と秋期に柳井市と萩市で移動美術館を実施したが、その展示作品の中から数点をえらび展示する。小林和作は1888(明21)年吉敷郡秋穂町よしき あいおに生まれ、京都市立絵画専門学校で日本画を学んだのち、洋画に転じた。全国各地をスケッチ旅行し、自然の中に深く溶けこみ、独特の色

彩感覚で、みずみずしさにあふれた画面を創りだした。それら独自の感覚を示す風景画を中心に、小林芸術の軌跡をあとづける。

#### 出品作品(すべて油彩・キャンバス)

番号	作 品	制作年	番号	作 品	制作年
1	洛北の雪	1920	6	秋山夕陽	
2	牡丹		7	妻の像	1948
3	山の池		8	残雪の妙高山中	
4	カプリ島(ブドウ畑)	1928	9	水たまりと海	
5	春の山				

### 3. 小林和作のコレクション

1981(昭56)年2月14日～4月12日

#### 趣 旨

小林和作は、生前精力的に自らの作品を制作する一方、古美術や骨董、あるいは自らとかかわりのある画家の作品などを積極的に収集した。それらの作品が直接的に和作の作品へつながるとは思えないが、ひとりの画家の眼を通してあつめられたものであり、やはりその画家の趣向を反映したものであることは確かである。ここでは、小林和作コレクションから、数点を選び紹介する。

#### 出品作品

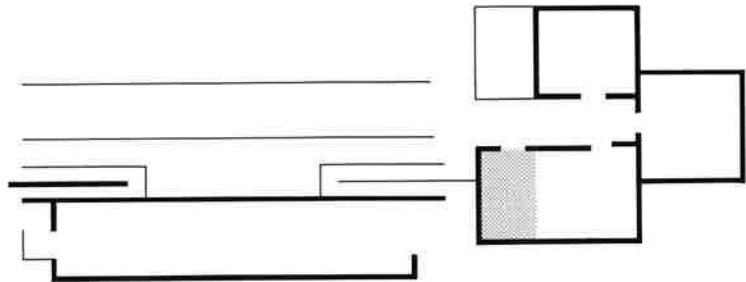
番号	作 品	作 者	材質・形状	制作年
1	慶長時代風俗画遊楽之図	不 詳	紙本彩色・軸	
2	寛永時代風俗人物画	〃	〃	
3	豊国風立美人	〃	〃	
4	大和絵人物	松 岡 映 丘	絹本彩色・軸	
5	洛北春風	堂 本 印 象	〃	
6	紺糸を干す	小 野 竹 喬	〃	1912頃
7	フローレンスタ映	西 山 英 雄	紙本彩色・額	
8	カプリ島風景	山 脇 信 徳	油彩・キャンバス・額	
9	婦人の顔	青 山 熊 治	〃	
10	椿	中 川 一 政	紙本彩色・額	
11	ノートルダム	林 武	水彩・紙・額	
12	濃彩人物画	福 沢 一 郎	油彩・板・額	
13	女と龍	梅 原 龍三郎	水彩・紙・扇面額	
14	女	里 見 勝 蔵	油彩・キャンバス・額	1931



## 常設展示室 I

### 資料展示室

(美術史資料その他)



### 1. 中本達也の銅版画

1980(昭55)年 6月17日~10月5日

#### 趣 旨

1973(昭48)年51歳で夭折した中本達也は、1959(昭34)年にみづゑ賞、ついでその年の安井賞を受賞し、一躍当時画壇の注目をあつめた。展示するエッチングはちょうどこの1959(昭34)年から1962(昭37)年、画家が37歳から41歳にかけての頃の制作。ニードルを思い切ってふかく使い、硝酸による腐蝕も銅版が抜け、補修せねばなくなるほど荒っぽく制作している。しかしその荒っぽさが独特のマチエールを生みだし、一層強く画家の精神的エネルギーを表出している。

#### 出品作品 (すべて銅版・紙・額)

番号	作 品	寸法(cm)	制作年	番号	作 品	寸法(cm)	制作年
1	さかな	8.9×13.8	1959	6	夏の花	8.9×10.5	1961
2	鳥	8.1× 9.9	1959	7	春	10.9×18.6	1962
3	潮	6.7×17.8	1960	8	海鳥	8.9×13.8	1962
4	黒土	8.9×13.9	1960	9	ザクロ	17.8× 7.1	1960
5	森	13.9×17.8	1960	10	海	8.9×13.9	1962

番号	作品	寸法(cm)	制作年	番号	作品	寸法(cm)	制作年
11	一つの葉	8.9×13.8	1961	12	壁の人	9.0×8.7	1962

## 2. 雪舟筆山水小巻展示

1981(昭56)年2月14日～2月28日

### 趣 旨

当館所蔵、紙本墨画山水図一巻は、楷体で描かれた山水長巻（防府毛利報公会蔵）に対して行体で描かれ、一般には山水小巻と呼ばれている。前半は雪舟の筆になり、後半は長谷川派画人の手になる雪舟画の模本である。巻後に雪舟自跋の写し、木下俊長の跋文、狩野養川院これのみ惟信の跋文がある。南画風の柔らかい作風を示し、墨線のコントラストや筆勢の強弱もみごとであり、雪舟の画風のひとつの側面をうかがわせる重要な作品である。山水長巻（レプリカ）とともに展示する。

### 山水小巻 雪舟作

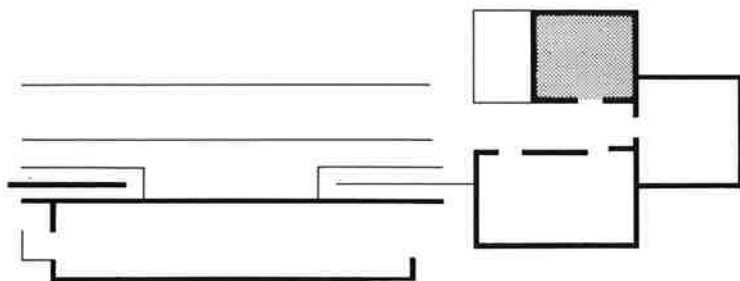
本巻は巻末に附随した跋文によると、文明6(1474)年雪舟55歳の筆となることが知られる。この時期は、雪舟が明から帰朝してまもなくの頃にあたり、そこで学んださまざまな絵画様式を自己の中で消化吸収していた時期であったろうことが推察される。本巻も高彦敬こうげんけいという中国画人の作風に倣って描いたものであることが、前述の跋文によってわかる。高彦敬（高克恭ともいう）は、宋時代末から元時代初めにかけて活躍した画人で号を房山といい、米点などを用いた柔らかい味のある山水表現を得意としていたようである。本巻には雪舟自ら高彦敬の画風に倣ったといっているように、雪舟独特の直線的な強固な樹木や岩の表現（防府毛利報公会蔵「四季山水図巻」にみられるそれらの表現は、その典型的なものである）はみうけられず、柔らかい丸味のある土坡が画面に淡墨で長く敷かれ、その上に点景として人物や茅屋、橋や帆船などが濃墨でリズムカルに配されている。のどかな漁村の風景が点景によって右方から左方へゆっくりと移りかわっていくようにうまく構成されているのである。このような横長の画面の構成は、南宋画院の画家夏珪の筆と伝えられる山水図巻などが規範となったであろうといわれている。



山水小巻（部分）

# 常設展示室 I

## 郷土工芸室



### 1. 萩焼絵付展

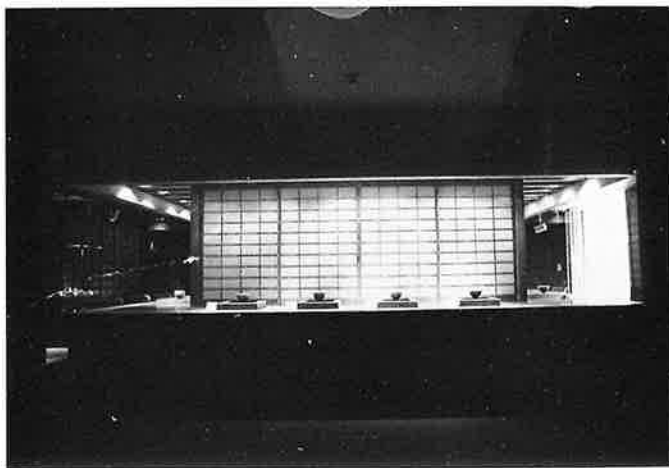
1980(昭55)年4月21日～6月15日

#### 趣 旨

焼きものにおける絵付は、画家にとってはあくまで余技であるが、絵具の吸いこみの早い陶土の上に、速筆で一気に呵成に描かれたものには、その画家のもつ筆遣いや、その線の特徴などがあらわれるとともに、躊躇のない画家の呼吸を感じとることができる。香月泰男、松林桂月、高島北海、小林和作も多くの陶画を残しているが、それらはいずれも萩焼のはだ合いや質感を考慮にいたれた雅趣に富んだものである。

#### 出品作品

番号	作 品	絵付者	陶作者	番号	作 品	絵付者	陶作者
1	扁壺(魚)	香月泰男	田原陶兵衛	11	急須(梅)	松林桂月	坂倉新兵衛(12代)
2	壺(ニワトリ)	〃	坂田泥華	12	煎茶碗(梅)	〃	〃
3	角皿(カレイ)	〃	吉賀大眉	13	大皿(竹)	〃	吉賀大眉
4	湯呑5客	〃	坂田泥華	14	茶碗(アユ)	〃	坂高麗左衛門(10代)
5	陶板(親子)	〃		15	〃(富士)	〃	三輪雪堂(9代)
6	〃(ほおづき)	〃		16	〃(梅)	〃	三輪休和
7	〃(ススキ)	〃		17	手鉢(竹)	〃	〃
8	〃(モロッコ)	〃		18	菓子鉢(長門峡)	高島北海	泉流山窯
9	角皿(青海島)	小林和作	坂田泥華	19	茶碗(アヤメ)	〃	〃
10	大皿(富士)	〃	〃	20	〃(もみじと菊)	〃	坂高麗左衛門



## 2. 坂倉新兵衛展

1980(昭55)年6月17日～10月5日

### 趣 旨

12代新兵衛は1881(明14)年生まれで維新後の萩焼受難の時代を9代坂高麗左衛門に師事、のち独立し萩焼復興に努めた。1976(昭51)年には山口県指定無形文化財萩焼保持者認定。14代新兵衛は1917(大6)年、12代新兵衛の3男として生まれ、父に師事して14代を襲名する。1972(昭47)年山口県指定文化財萩焼保持者に認定される。高麗茶碗を基調とした萩の伝統に、見島土と呼ばれる鉄分の多い土を配合した独自の境地を開拓し、父12代と共に今日の萩焼隆盛につくした。

### 出品作品

番号	作 品	作 者	番号	作 品	作 者
1	刷毛目茶碗	坂倉新兵衛(12代)	5	平茶碗	坂倉新兵衛(14代)
2	水指	〃	6	灰被四方水指	〃
3	そば茶碗	〃	7	手付花入	〃
4	灰被水指	〃	8	布袋香合	〃

## 3. 三輪休和・休雪展

1980(昭55)年10月6日～12月24日

### 趣 旨

三輪窯は旧萩藩の御用窯で、三輪休和は9代雪堂の二男で、雪堂に師事して伝統の技法に習熟し、1927(昭2)年10代を襲名して休雪と号した。萩焼が朝鮮李朝の陶技を伝承する茶陶であることから、若くして茶道を修め、広く高麗茶碗の名器を研究し、その和風化に独自の作域を確立し、また旧来の白萩釉に独自の工夫を凝らし、世に「休雪白」と称する柔らかな釉調を完成するなど、萩焼の技術復興に絶大な貢献をなした。1967(昭42)年紫綬褒章を受け、家業を弟の11代休雪に譲り、休和と号し、1970(昭45)年重要無形文化財萩焼技術保持者に認定された。現11代休雪は、1927(昭2)年以来10代休雪に師事して家法を習得し、その卓抜した造型力はわが国伝統工芸界に異彩を放ち、現代に生きる萩焼の新境地を開拓した。1972(昭47)年山口県指定無形文化財認定、1976(昭51)年紫綬褒章受章。

### 出品作品

番号	作 品	作 者	制作年	番号	作 品	作 者	制作年
1	茶碗	三輪休和	1975	5	細水指	三輪休和	
2	〃	〃	1976	6	郭子儀(置物)	〃	
3	〃	〃	1976	7	布袋(置物)	〃	
4	水指	〃		8	茶碗	三輪休雪	1978

番号	作品	作者	制作年	番号	作品	作者	制作年
9	茶碗	三輪休雪	1978	13	鉢	三輪休雪	
10	〃	〃	1979	14	〃	〃	
11	〃	〃	1979	15	掛花生	〃	
12	水指	〃					

#### 4. 堀尾卓司・信夫展

1981(昭56)年2月14日～4月12日

##### 趣 旨

赤間硯は、紫色や紫青色のち密な輝緑凝灰岩を原石とし、室町時代の文献にもみられる代表的な硯で、「硯商う店軒をつらねて」と頼山陽の日誌にもみられるほど江戸時代には繁栄した。主として山陽町で掘られる原石は、中国の端溪硯と同じ石質で、墨をきめ細くおろして筆を痛めない良質の硯として文人墨客に珍重された。堀尾卓司は旧制豊浦中学校卒業後硯司となり、1942(昭17)年文展初入選、戦後は日展、現代工芸展、新工芸展などで活躍、彫硯の技法で赤間硯の世界に新風を吹きこみ赤間硯の芸術性を高めた。堀尾信夫は、大学卒業後父卓司に師事。1971(昭46)年より日本伝統工芸展に出品、現在日本工芸会正会員。

硯は墨をする道具である。平らな面があれば墨はすれる。凹みがほしかったらどこでもいい、有れば水をためるのに便利だ。その凹みとするところが美しく調和がとれていたら、もっといい。硯をこう考えている。…卓司

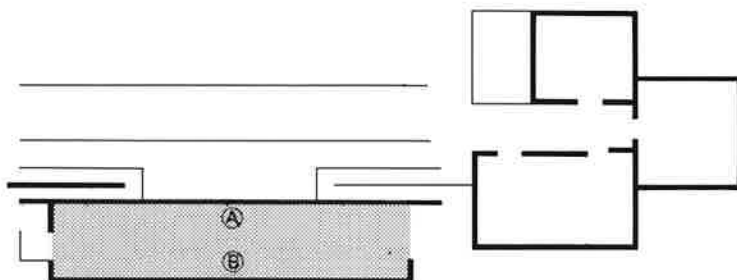
素朴で変化の少ない、もっとも石に近い形を思いうかべ、古研・中国研・和研の資料をもとに研究しております。夢のある、硯を持って心のなごむ、愛される硯を作りたい。…信夫



堀尾卓司「累柿研」1950

## 常設展示室Ⅱ

展示エリア④⑤はともに石膏ボードによるパネル壁面からなっているが、このうち展示エリア⑤の壁面は可動壁面となっており、この壁面の奥には固定ケースが設置されている。したがって、このエリアは壁面として油彩等の展示に利用されるほか、これを取払い、固定ケースで日本画等の展示も可能である。このため、同時期に④⑤を使い分け、別趣旨の常設展示会を併設するが多い。



### 1. 雪舟と芳崖

1980(昭55)年3月1日～3月30日

使用スペース エリア⑤

#### 趣 旨

中世絵画史を語るうえで、雪舟の存在を抜きに考えることはできない。雪舟は中国（明代）の地をみずからふんで、宋・元絵画を学び、帰国後は豊後・周防などに画室をかまえて独自の画風を確立し、晩年にいたるまで、全国各地をめぐる写生の境地をふかめていった。しかし雪舟のその活動の本拠となったのはこの山口であり、ここに画室雲谷庵<sup>うんこくあん</sup>をかまえ、晩年を過ごしたのである。この雪舟の山口における存在は、その後、近世の山口の画家、とりわけ雲谷派の画家に継承され、やがて近代へとつながっていった。近代日本画の先駆者たる狩野芳崖もまた、狩野派の絵画修行として雪舟の山水長巻の模写を行っている。修行期の芳崖において雪舟の存在は少なからぬものがあつたことは十分に推測することができる。今回は所蔵作品とともに県内にある雪舟関連作品を展示し、二人の画匠がつくりあげた絵画世界を紹介する。

#### 出品作品

番号	作 品	作 者	材質・形状	番号	作 品	作 者	材質・形状
1	雪舟像	雪谷等益	絹本彩色・軸	7	青砥藤綱滑川拾銭図	狩野芳崖	紙本彩色・軸
2	全岩東純像	不詳	〃	8	牧馬図	〃	〃
3	陶弘護像	〃	〃	9	四季耕作図	〃	紙本墨画・屏風4曲半双
4	山水小巻	雪舟	紙本墨画・画卷	10	懸崖飛抹図	〃	紙本墨画・軸
5	山水長巻(レプリカ)			11	羅漢図	〃	紙本彩色・軸双幅
6	八臂弁財天	狩野芳崖	絹本彩色・軸				



## 2. 山口県洋画のながれ

1980(昭55)年4月12日～8月17日

使用スペース エリア④

### 趣 旨

山口県における近代洋画の発達を跡づけると明治初期の西洋画法移入の時代にあっては、県関係作家としては河北道介の名をあげることができる。その後官展としての文展や帝展を中心に活躍した永地秀太や桑重儀一ら、また水彩画史に特異な地位を占める河上左京やおなじく関西美術院出身の錦義一郎などもでている。その後も戦前、戦後を通じて多くの洋画家を画壇に送り出してきた。具象から抽象まで非常に幅広い領域で、さらに多面的に展開してきた山口県の洋画の流れを回顧する。

### 出品作品 (すべて油彩・キャンバス)

番号	作 品	作 者	制作年	番号	作 品	作 者	制作年
1	更紗の前	永地秀太	1924	7	魚人	中本達也	1958
2	ホノルル	桑重儀一	1915	8	ランドスケープ	宮崎 進	1976
3	マドモアゼルS	錦義一郎		9	薄雪	尾崎正章	1977
4	赤と白の対話	桂 ゆき		10	パーミヤン回想	入江一子	1977
5	明王	松田正平		11	オートパイ	山本文彦	1971
6	流木	三浦俊輔	1975				

## 3. 小野具定と田中稔之

1980(昭55)年4月12日～8月17日

使用スペース エリア⑤

### 趣 旨

現在わが国の日本画・洋画のそれぞれの分野で現役として活躍中の2人の山口県出身作家にスポットをあててみた。小野具定は、山口県田布施町に生まれ、現在は創画会の主要メンバーの1人である。ベニア板や麻紙に胡粉を塗り、それを下地とし、黒と白を主とした絵の具を塗り重ね、さらにそれをヘラで削り落とす手法によって寂寥感あふれる裏日本風景を描き出す。田中稔之は、山口県防府市に生まれ、現在は行動美術協会の中堅作家として活躍している。50年代のアンフォルメルや抽象表現主義の影響を受けたと思われる「動」や「野性」といった作品、さらに60年代以降になって「自然」と「人間」とのかかわりをモチーフに円や線の構図を多用するようになる。モンゴル、シベリアの旅のイメージを具現化した最新作「円の光景」もその延長上にある。

### 出品作品

番号	作 品	作 者	制作年	番号	作 品	作 者	制作年
1	動	田中稔之	1958	2	野性	田中稔之	1960

番号	作 品	作 者	制作年	番号	作 品	作 者	制作年
3	赤の地平	田中稔之	1976	7	北辺の船	小野具定	1964
4	円の光景(1)	〃	1979	8	北辺Ⅱ	〃	1967
5	円の光景(2)	〃	1979	9	漁港	〃	1965
		(以上油彩・キャンパス)		10	北辺	〃	
6	蚊張	小野具定	1949			(以上紙本・彩色)	

#### 4. 安井賞受賞作家展

1980(昭55)年9月30日～12月24日

使用スペース エリア㉔

##### 趣 旨

昭和初期の日本洋画壇の大きな支柱であった安井曾太郎の功績を記念し、1956(昭31)年財団法人安井曾太郎記念会が誕生、現代美術の振興のため「安井賞」が設定された。以後この賞は具象的傾向の新人の登龍門としてたかく評価され、多くの受賞者を画壇におくりだしている。山口県関係作家のなかには中本達也(故人・第3回) 宮崎進(第10回) 山本文彦(第14回) の諸氏がこの賞を受賞しているが、本展ではこれらの作家に焦点をあて、その代表作を展示・紹介する。

##### 出品作品 (すべて油彩・キャンパス)

番号	作 品	作 者	制作年	番号	作 品	作 者	制作年
1	森の声	中本達也	1960	4	小屋	宮崎 進	
2	魚人	〃	1958	5	オートバイ	山本文彦	1971
3	旅芸人	宮崎 進		6	星の園にて	〃	1977

#### 5. 山口県日本画のながれ

1980(昭55)年9月30日～12月24日

使用スペース エリア㉕

##### 趣 旨

近代日本画黎明期の中心的存在であった狩野芳崖や、明治初期における京都画壇の旗頭であった森寛齋からはじまり、文展・帝展を舞台に当時の画壇をリードした高島北海、さらに昭和期にはいつて官展を中心に松林桂月や中倉玉翠・伊藤響浦・檜崎鉄香・兼重暗香らが活躍した。さらに京都画壇でおもに花鳥画をえがき注目された福田翠光、戦後になると画面構成や表現技法に工夫を凝らした藤田隆治・澤野文臣・西野新川・小野具定らがいる。本展はそれらの作家を一堂に会し、山口県出身作家による日本画近代化のながれを展望するものである。

## 出品作品

番号	作 品	作 者	制作年	材質・形状
1	八臂弁財天	狩 野 芳 崖		絹本彩色・軸
2	芥川図	森 寛 斎		〃
3	春秋山水図屏風	高 島 北 海	1928	紙本金地墨画・屏風6曲1双
4	仙峡聴泉図	松 林 桂 月	1929	紙本墨画・軸
5	大鷹	福 田 翠 光	1937	絹本彩色・軸
6	鷺のいる風景	藤 田 隆 治		紙本彩色・屏風4曲半双
7	湖底の村	西 野 新 川	1974	紙本彩色・額
8	網船	澤 野 文 臣	1957	〃

## 6. 山口県近代洋画の先人たち

1981(昭56)年2月14日～5月10日

使用スペース エリア④

### 趣 旨

明治初期の洋学の大幅な導入にともない、絵画の分野においても西洋画の本格的な研究と指導がなされるようになる。その時期に日本における本格的な洋画の先駆者として有名な川上冬崖に学び、のちに陸軍士官学校の図画教授掛となった河北道介は、山口出身の画家としては最も早くから、洋画の道へ足を踏み入れた人物の一人である。日本画偏重、洋画排斥の時代を過ごし、明治20(1887)年代に渡仏し、黒田清輝や久米桂一郎などとも交わりがあったという。その国粹主義台頭の時代にあって松岡寿に師事し、明治美術会に学んだ永地秀太は、太平洋画会の創立へ参加し、明治末から大正初期の文展で活躍し、帝展の審査員をつとめた。大正後期から昭和初期にかけて帝展で活躍した桑重儀一は、若くして渡米し、さらにその後フランスへ渡り、ジャン・ポール・ローランスに4年間師事した後、帰国し渡仏中に知り合った満谷國四郎らの参加する太平洋画会へ加わり、以後画壇における地歩を固めていく。本展は山口県出身洋画家として、日本近代洋画確立期に活躍したこの三人の画家について、遺作を展示紹介し、日本洋画の近代化の一側面について考えてみる。なお河北道介についてはその作と確認されるものが東京芸大所蔵の自画像だけであり、これは複製パネルとして展示する。

## 出品作品

番号	作 品	作 者	制作年	材質・形状
1	自画像(パネル複製)	河 北 道 介	1894	油彩・キャンバス・額
2	絞り	永 地 秀 太	1913	〃
3	更紗の前	〃	1924	〃
4	壁に倚れる女	〃	1925	〃
5	裸婦	〃		油彩・紙・額
6	ピエロ	桑 重 儀 一	1933	油彩・キャンバス・額

番号	作 品	作 者	制作年	材質・形状
7	ホノルル	桑 重 儀 一	1915	油彩・キャンバス・額
8	座裸婦	〃		〃
9	カナリア	〃		〃

## 7. 福田翠光展

1981(昭56)年2月14日～5月10日

使用スペース エリア㊸

### 趣 旨

1895(明28)年に京都で生まれた福田翠光は、1913(大2)年に京都市立美術工芸学校を卒業後、西山翠嶂の主宰する画塾「青甲社」へ入塾する。1926(大15)年第7回帝展に初入選。1931(昭6)年第12回帝展で特選をとる。戦後になると日展を舞台に活躍し、審査員にもなっている。また晩年は徳岡神泉に師事し、写実を基本としながら装飾性のつよい画面をつくりだした。県立美術館開館にさいし、ご遺族より大量の翠光作品および資料が寄贈されたが、このたびこれらの作品を公開し、その画作のあとをおう。

### 出品作品

番号	作 品	制作年	材質・形状	番号	作 品	制作年	材質・形状
1	雪鬢嬉雀	1927	絹本彩色・軸	7	若鷹	1944	絹本彩色・軸
2	白鷺図	1932	〃	8	紅園	1952	紙本彩色・額
3	鶴雛	1934	絹本彩色・屏風二曲半双	9	浄辰	1953	〃
4	羽觸	1933	絹本彩色・軸	10	山葡萄	1955	絹本彩色・軸
5	萌芽	1936	絹本彩色・額	11	寂	1969	紙本彩色・額
6	白雁	1943	絹本彩色・軸				

(c) 共催展など

これまでの主な共催展

1. ルーマニア国立美術館展.....58
2. マンギャン展.....59  
—南仏の抒情—乱舞する色彩—
3. インドネシア古代美術展.....60  
—仏跡ボロブドールとその周辺—



ルーマニア国立美術館展

# 1. ルーマニア国立美術館展

1980(昭55)年1月5日(土)~27日(日)

月曜休館

主催 毎日新聞社・ルーマニア国立美術館・日本ルーマニア友好協会・TYSテレビ山口・山口県立美術館

後援 外務省・文化庁・ルーマニア社会主義文化教育評議会・ルーマニア駐日大使館

会場 山口県立美術館/企画展示室I・II



## 趣 旨

ブカレスト国立美術館はじめ国内5つの美術館、博物館の総点数8万点におよぶコレクションから、ルーマニア近代美術とルーマニアにおけるヨーロッパ古画コレクションの名品紹介を目的に70点が選ばれ展覧された。西側世界から請来される展覧会は、これまでパリ中心、しかも大巨匠の名画紹介に類するものと相場が決まっていたが、近年ではチェコスロヴァキア、ハンガリー、東ドイツなど東欧諸国の美術紹介を目的とした展覧会も積極的に行われるようになった。その殆んどの場合、旧王室コレクションに由来する古画名作と自国の近代美術を代表する作品を併せて紹介するケースが通例だが、いずれにせよ西欧からみればいわば周辺諸国にあたる国々の美術に目配りをするこうした傾向は西洋美術史の空白をうめる意味できわめて意義があるばかりでなく、日本美術を複眼的位相からとらえなおすうえで興味ぶかい機会となっている。たとえば、その一環である今回の展覧会では、ルーマニア近代絵画が同国出身画家のバリ留学とそこで得られた様式の母国への流布によって展開されていることが知られた。その構図が、とりもなおさず日本の初期洋画の形成過程と相似形をなすことから、その解釈はどうであれ、そこにみられるルーマニア美術近代化の過程はそのまま日本近代洋画史を相対化する視座を与えてくれた。これは、パリー日本、与えるものと受けるものとの一方的受容の線そのものを相対視するもう一つの視座であって、この視座提供は今回の成果としていい。またもう一つの柱として展覧されたルーマニア国所蔵の古画コレクションは、それが真性ヨーロッパ出自であることにおいて同国がヨーロッパ文化のふかい血脈をひく国であることの認識をよりあらたにしてくれた。ルーマニア近代絵画、油彩30点、古画コレクション、テンペラ5点、油彩35点 計70点。

## 展観カタログ

内容

ごあいさつ

メッセージ 犬丸直(文化庁長官)

メッセージ R.I.ボグダン(ルーマニア社会主義共和国駐日大使)

序文 A.チェブック(ルーマニア国立美術館長)

カラー図版

カタログ

● B4版変型118ページ/カラー68ページ 他





## 2. マンギャン展 南仏の抒情—乱舞する色彩

1980(昭55)年6月27日(金)～7月20日(日)

月曜休館

主催 読売新聞社・KRY山口放送・山口県立美術館

後援 外務省・文化庁・フランス大使館・山口県・山口県教育委員会

会場 山口県立美術館／企画展示室Ⅰ・Ⅱ

### 趣 旨

アンリ・シャルル・マンギャンは、1874年フランスに生まれ、のちエコール・デ・ボザールのギュスタヴ・モロー教室に油彩画を学んだ。このモロー教室からは、マンギャンもその一翼を担うこととなったフォーヴィスム(野獣派)を支える作家たち——マチス、マルケ、カモワンら——が輩出したことはよく知られている。

フォーヴィスムは、19世紀後半に展開した印象主義以降の流れをふまえ、特に後期印象主義といわれるゴッホ、ゴーギャン、セザンヌらに強く影響を受けた世代が、主観的な対象把握の方法を強めながら、色彩や形においてより絵画的な意味を探り、原色をふんだんに取り入れて生々しい感覚を直接的に表わそうとした様式をさす。しかし組織的な美術運動ではなく、理論的な宣言をもたなかったので、実際にはフォーヴィスムといってもかなり幅をもった歴史現象といわなければならない。マンギャンの場合も、1905年前後の3～4年(フォーヴィスム全盛期)はむしろ特殊的な時期であったと考えられ、マチスやヴラマンクらもその後は個人的な様式を展開させていったのである。

ところで、マンギャンはモローのもとでの修学期に、ドラクロワ、プサン、ティツィアーノなどの古典絵画を模写することによりその構図法を学びとり、色彩や描線以外のところでは比較的オーソドックスな姿勢を保った。そして1908年以降は、マチスらがより平面的な絵画を目指し、ヴラマンクらがより表現主義的な方向に転じたのに対して、マンギャンは静物画や風景画において、明るい色彩に満ちた叙情的ともいえる穏やかな作風を示すようになる。南仏の風景に親しみ、あたたかい光線につつまれた景物を好む一方、ブルターニュ地方のどんよりとした海景にも詩情を漂わせながら、あるいは豊かな裸婦像や机上の静物画において、マンギャンは自然に対する調和的な感覚を基調に色彩に対する鋭敏な感性を追求した。その意味で、フォーヴィストのなかでも色彩画家として注目すべき作家であると同時に、その情趣性においていかにもフランス人らしい画品とエスプリを表わした作家である。

マンギャン作品の日本でのもっともまいった紹介ははじめてであり、豊かな色彩感覚をぞんぶんに示す代表的油彩画、水彩画、パステル画、そして生き生きとした線描のデッサンは、一貫して対象に愛情と

情熱のこもった眼差しを注いできた彼の姿を浮き彫りにするものである。油彩60点、デッサン・パステル・水彩46点 計106点。

### 展観カタログ

#### 内容

ごあいさつ

メッセージ X.D. ド=ラ=シュバルリー（駐日フランス大使）

アンリ・マンギャン頌 Ch. テラス

フォーヴィスムの周辺とマンギャン 村木明(美術評論家)

カラー図版

モノクローム図版

アンリ・マンギャンの思い出 H. R. アンロゼ

カタログ F. ドールト

展覧会歴／年譜(J. P. マンギャン)／参考文献抄

●B4 版変型156ページ／カラー65ページ・モノクローム39ページ 他



## 3. インドネシア古代美術展 仏跡ボロブドールとその周辺

1981(昭56)年3月14日(土)～4月12日(日)

主催 中国新聞社・TYSテレビ山口・共同通信社・山口県立美術館

後援 インドネシア共和国政府・外務省・文化庁・ユネスコ・アジア文化センター・日本万国博覧会記念協会

協力 日本アイ・ビー・エム株式会社・トヨタ自動車販売株式会社・トヨタ自動車工業株式会社・ガルーダ・インドネシア航空

会場 山口県立美術館／企画展示室Ⅰ・Ⅱ



### 趣 旨

インドネシアの中部ジャワにある仏教遺跡ボロブドール修復事業は、ユネスコの援助により1973年にはじまり、1982年10月に完成、往時の姿を甦らせることになっている。本展は、世界最大級の仏跡で、人類の貴重な文化遺産であるボロブドールが国際協力のもとに修復保存されるのを記念して企画されたものである。インドネシアには、かつてヒンドゥ教、仏教とともにもたらされたインド文明が、土着の基層文化と融合し、きわめてすぐれた宗教美術である「ヒンドウ・ジャワ美術」を創造した。7



～10世紀、ジャワ島、とりわけ政治・文化の中心であった中部ジャワで、「ヒンドゥ・ジャワ美術」は黄金期をむかえ、その象徴的な存在が仏跡ボロブドールだった。10世紀はじめから、インドネシアの文化の中心は東部ジャワに移行したが、中・東部ジャワを通じ、それぞれ作風は異にしながらも、東南アジア随一ともいわれる芸術性のたかい創作活動が建築、彫像をはじめとする各分野で展開された。

この展覧会は、その修復中であるボロブドールの仏像をはじめとして、中・東部ジャワに花ひらいた「ヒンドゥ・ジャワ美術」の仏像・神像・青銅および金銀器の代表作を国立博物館(ジャカルタ)、ソノブドヨ博物館(ジョグジャカルタ)、国立考古学研究所のボロブドール、プランバナ南支所に所蔵されている作品など約90点を日本において公開するはじめての企画展である。

#### 主な出品作

如来坐像(石)	8～9世紀		ボロブドール
如来立像(ブロンズ)	8世紀	西スラウェシ出土	ジャカルタ国立博物館蔵
シヴァ神像(ブロンズ)	9～10世紀	中部ジャワ出土	ジャカルタ国立博物館蔵
文殊菩薩像頭部(石)	10～11世紀	中部ジャワ出土	プランバナ南支所蔵 など

#### 展観カタログ

##### 内容

ごあいさつ

メッセージ H.スバディオ(インドネシア政府文化総局長)

ボロブドール—その宗教美術と保存・修復  
千原大五郎(拓植大学教授)

カラー図版

モノクローム図版

ボロブドールと中部ジャワ遺跡の歴史的背景  
S.スレイマン(インドネシア考古学  
研究センター研究専門委員)

中・東部ジャワ期の古代インドネシア芸術  
J.フォンティン(ボストン美術館長)

中部ジャワの遺跡群を訪ねて  
浜田隆(東京国立博物館次長)

列品解説/用語解説/参考文献

●B4版変型176ページ/カラー48ページ・モノクローム12ページ他





# 事業

## Ⅱ. 普及活動

(A) 山口県美術展覧会	
第33回 .....	64
第34回 .....	66
(B) 山口県現代美術選抜展 .....	68
(C) 美術講演会および講座 .....	70
(D) 美術館ニュース .....	72
(E) 移動美術館 .....	74

## (A) 県美術展

### 第33回山口県美術展覧会

会期 1979(昭54)年12月8日(土)～12月23日(日)

会場 企画展示室Ⅰ・Ⅱ、常設展示室Ⅱ

県内在住の美術家が参加する県美展は、32回の歴史のなかで、美術の祭典的色彩のつよい性格をもっていたが、県立美術館開設を機に、大きな改革が試みられた。

従来、作家のみで構成していた運営委員会に学者や文化人など学識経験者の参加を得て運営の改革を行ない、招待制の廃止、賞の整理と大幅増額、県外審査員の招へいなど、基本的には、作品主義の筋が通され純粋公募展として再出発した。

結果として、県美展に背を向けていた県内作家、とくに若手作家の進出が目立ち、質量ともに大きな伸びを見せた。

#### ○運営委員

##### 美術作家

中村 脩 (日本画) 友近琢男 (洋画)  
田中米吉 (彫塑) 吉賀大眉 (工芸)  
田中江舟 (書) 角川政治 (写真)  
服部碩夫 (デザイン)

##### 学識経験者

白杵華臣 杉本春生 田口克己 福田百合子  
県教育委員会  
山本康雄 (文化課長)

#### ○審査員

日本画	小野具定 村上景介 河本武士	工芸	坂田泥華 服部碩夫 兼田文男
洋画	富山秀男 尾崎正章 富永恒光		三輪龍作 吉賀将夫
	秋山 泉 藤川章造	書	宇山栖霞 小倉国幹 広実泉城
彫塑	三木多聞 川口政宏 田辺 武	写真	林 忠彦 角川政治 栗林和彦
デザイン	下尾周男 斉藤武男		

#### ○受賞者

##### <最優秀賞>

友の昇天 藤崎恒頼 (洋画) 萩 市 RAINY DAY 濱野邦昭 (彫塑) 山口市

##### <優秀賞>

過ぎた夏	河村忠昭 (日本画) 防府市	李白詩三首	岡籬舟 (書) 宇部市
とざされた領域	船本寛 (洋画) 徳山市	パロディー80 No. 1	
仮面の踊り	山本辰昭 (彫塑) 光 市		宮本淳 (デザイン) 山口市
契約の地	飴村秀子 (工芸) 防府市	青いメッセージ	柴田議一郎 (写真) 萩 市

<奨励賞>

山(風景Ⅱ) 大野光史(日本画) 柳井市  
 神楽の季節 川口健治(洋画) 柳井市  
 首(少女) 庄島信基(彫塑) 宇部市  
 つばみからのイメージ  
 石村正彦(工芸) 熊毛郡

雨情 浜田幸道(写真) 宇部市  
 良き時代の残景  
 大村博美(デザイン) 防府市  
 良寛のうた(鉢のこ) 岡村紫水(書)岩国市

<佳作>

甦る野性 小田伸次郎(日本画) 山口市  
 蒼 大島由岐江( ) 宇部市  
 鼓動6—79 金井健一(洋画) 下関市  
 包(つつむ)(母と子)堀 研( ) 宇部市  
 海の声(No.2) 原捷太郎( ) 熊毛郡  
 わが物置 高林義男( ) 玖珂郡  
 女 79—1 末広修実(彫塑) 光市  
 竹筒硯 日枝玉峯(工芸) 厚狭郡  
 乱舞 中村絵里子( ) 萩市  
 萩剥離窯変花瓶 坂田慶造( ) 長門市  
 鉄絵草文鉢 大井正則( ) 防府市  
 奇岩絶景石田ヶ岳の図「3」  
 下瀬宗十郎(デザイン) 防府市

アメリカの息子 榎木英雄( ) 下関市  
 老人 兼重 博(写真) 玖珂郡  
 作陶 福田博文( ) 阿武郡  
 過ぎ去りし夏 時藤栄次郎( ) 防府市  
 羽ばたく・その1 小中かつみ( ) 下関市  
 初夏江村 小倉窓寛(書) 萩市  
 曇り日のオホーツク山本桂韶( ) 熊毛郡  
 朝景緻(抄) 佐伯弦柳( ) 熊毛郡  
 李賀詩 浜田泰泉( ) 下松市  
 ながめつつ 重富恒子( ) 山口市  
 李白詩 田中 宏( ) 下関市

○実績

部 門	出 品	入 選	入 賞	無 審 査	展 示 合 計	展 示 率
日 本 画	112 (62)	37 (35)	4 (2)	3 (6)	44 (41)	0.39 (0.66)
洋 画	416 (347)	73 (81)	7 (6)	4 (40)	84 (121)	0.20 (0.34)
彫 塑	35 (21)	8 (14)	4 (2)	2 (5)	14 (19)	0.40 (0.90)
工 芸	368 (317)	81 (103)	6 (7)	4 (16)	91 (119)	0.24 (0.37)
書	513 (383)	188 (103)	8 (7)	4 (28)	200 (157)	0.38 (0.41)
デ ザ イ ン	91 (52)	30 (24)	4 (3)	2 (5)	36 (29)	0.39 (0.55)
写 真	195 (139)	30 (35)	6 (5)	2 (11)	38 (46)	0.19 (0.33)
計	1,730 (1,321)	447 (422)	39 (32)	21 (111)	507 (532)	0.29 (0.40)

( )は53年度

## 第34回山口県美術展覧会

会期 1980(昭55)年9月6日(土)～9月21日(日)

会場 企画展示室Ⅰ・Ⅱ、常設展示室Ⅱ

前回よりの県美展改革の主旨がある程度理解され、若手作家の登龍門的性格が生じることとなった。さらに展示効果との係わりからさらに厳選の方向を打ち出したため、入選点数が半減した。

### ○運営委員

#### 美術作家

村上景介(日本画) 友近琢男(洋画)  
田中米吉(彫塑) 吉賀大眉(工芸)  
田中江舟(書) 三堀英夫(写真)  
服部碩夫(デザイン)

#### 学識経験者

杉本春生 田口克己 福田百合子

#### 県教育委員会

小林末次(文化課長)

### ○審査員

日本画 中原佑介 中村 脩  
洋画 中原佑介 秋山 泉 尾崎正章  
赤崎君美 富永恒光  
彫塑 中原佑介 三輪龍作 川口政宏  
工芸 中村光哉 吉賀将夫 大和保男

書 今井凌雪 宇山栖霞 広実泉城  
三河隆明 道岡香雲

写真 緑川洋一 浜本 栄 角川政治  
デザイン 佐口七朗 斉藤武男 下尾周男

### 受賞者

#### <最優秀賞>

ドローイング新聞No.13(1万部)  
吉村芳生(彫塑) 防府市

花卉のフォルム1  
石村正彦(工芸) 熊毛郡

#### <優秀賞>

「像」習作 大野光史(日本画) 柳井市  
Landscape V 兼安和子(洋画) 山口市  
Oさん 堀尾昇平(彫塑) 下関市  
神話(律) 中村真一(工芸) 萩 市  
街角の女 兵頭治雄(写真) 玖珂郡

夜聴妓賦得烏夜啼劉孝綽詩  
小田龍山(書) 下関市  
絵本「びんのふね」連作  
弘中順一(デザイン) 光 市

#### <奨励賞>

木かげ 元井元子(日本画) 徳山市

地の息吹Ⅱ 山崎真由三(洋画) 光 市

若い女 松原 茂(彫塑) 山口市  
 白萩窯変花瓶 波多野善蔵(工芸) 萩 市  
 夕さむき 藤江 玉萌 (書) 宇部市

海の虹 堀田俊秀 (写真) 徳山市  
 自然の詩 稲田恭子(デザイン) 豊浦郡

<佳作>

ふるさと 窪田和則(日本画) 柳井市  
 木のイメージⅡ 中山幸子(洋画) 徳山市  
 化石と木音 中元章一(〃) 玖珂郡  
 晴れた日 山下哲郎(〃) 大島郡  
 青の名残り(B) 森脇子雄(〃) 岩国市  
 レクイエム(風景の為に)  
 田坂美代子(〃) 下関市  
 PUSH OVER 磯部 司(彫塑) 山口市  
 和 田中秀男(工芸) 萩 市  
 鎖された夏 佐藤千鶴子(工芸) 山口市  
 黒陶窯変壺「野火」  
 後 迫奉文(〃) 下松市  
 春想 松尾藻風(〃) 萩 市

鶉手練上壺 厚東建信(〃) 萩 市  
 暮鐘 田村香鳳 (書) 下松市  
 高青邱詩 佐貫竹園(〃) 吉敷郡  
 荒城の月 小野成鶴(〃) 山口市  
 杜甫詩 中村松泉(〃) 下松市  
 とりどりに 安平玉純(〃) 宇部市  
 西行のうた 岡村紫水(〃) 岩国市  
 兵士 兼重 博(写真) 玖珂郡  
 風景 宇佐川正邦(〃) 防府市  
 鷺舞 山根義章(〃) 阿武郡  
 虹色童話集(ポスター)

高島桂子(デザイン) 厚狭郡

○実績

部 門	出 品	入 選	入 賞	無 審 査	展示合計	展 示 率
日 本 画	84 (112)	16 (37)	3 (4)	2 (3)	21 (44)	0.25 (0.39)
洋 画	283 (416)	44 (73)	7 (7)	5 (4)	56 (84)	0.19 (0.20)
彫 塑	28 (35)	8 (8)	4 (4)	0 (2)	12 (14)	0.42 (0.40)
工 芸	271 (368)	57 (81)	8 (6)	2 (4)	67 (91)	0.24 (0.24)
書	451 (513)	79 (188)	8 (8)	2 (4)	89 (200)	0.19 (0.38)
デ ザ イ ン	41 (91)	10 (30)	3 (4)	2 (2)	15 (36)	0.36 (0.39)
写 真	97 (195)	17 (30)	5 (6)	3 (2)	25 (38)	0.25 (0.19)
計	1,255 (1,730)	231 (447)	38 (39)	16 (21)	285 (507)	0.22 (0.29)

( )は54年度

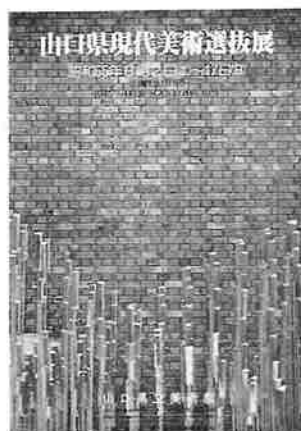


## (B) 山口県現代美術選抜展

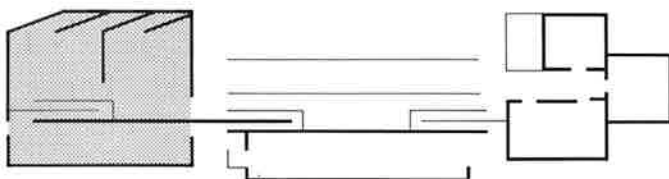
会期 1980(昭55)年8月2日(土)~17日(日)

会場 山口県立美術館(企画展示室Ⅰ・Ⅱ)

主催 山口県立美術館



### 会場



昭和54年度に美術館がオープンしたのを機として、30余年の歴史をもつ県美展の会場を美術館に移すことが決定された。しかしながら、新美術館の展示スペースは、旧会場の博物館と比べてもそれほど大きいものでなく、増大する出品点数と展示点数とのかわりから県美展のあり方そのものについても考えなおしてみようという気運が高まり、運営委員会を通じて抜本的な検討が行なわれた。

結論的には、従来の公募展としての性格をより明確にし、招待制度を廃止して、選考レベルを高い水準に保つことによって美術に対する意識の高揚と底辺の拡大を同時にねらう県美展の路線が確認され、招待制度にかわる新たな場が暫定的なものとして選抜展と銘うって構想された。暫定的というのは、昭和55年度についてはいままでの実績を考慮し、総合的な形態の選抜展を開催するが、次年度以降は公募展の性格のものは県美展に一本化し、県美展の二重構造性をふせぐことが意図されたからである。いわば県美展改組記念の特別展であり、県美展に刺激を与える意味でその前の8月開催が決定され、日本画



5人、洋画24人、彫塑7人、工芸13人、書道18人、写真9人、デザイン4人が選抜された（一部不出品を含む）。

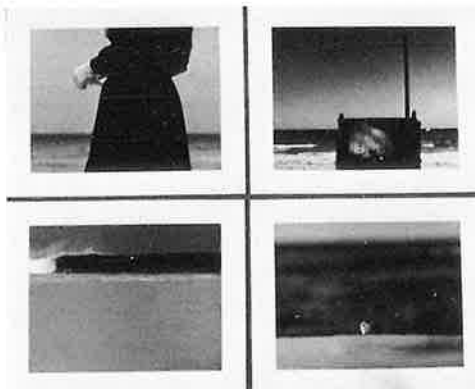
招待出品の資格者という意味では約半分強に絞られたため、出品者はかつてない意気込みをみせ、特に若い世代に意欲的な作品がみられたことは注目すべき結果であった。しかし、美術人口という点では他県に比して必ずしも層が厚いわけではなく、いわゆる現代性についてもほりさが進んでいるということもない県の状況を考えると、総体として美術レベルを示すことと、より意識的に仕事を進めている作家について考えることは、本来別の取組みをしなければならない問題であることが明確になった。中央展が多様化し、地方在住者がそのいずれかとの関係をもつにせよ、県美展がその縮小版でないのは当然であり、予備軍的な存在でもない。また地方性の意味も、土地柄や経済的基盤によらず、積極的な価値づけをもたなければ無意味である。こうした総合展は、それ自体に代謝能力がない限り、出品者にとっても観覧者にとっても早晚魅力を欠くものとなり、選抜展自体が一般レベルから遊離すれば、県美展はお祭り主義に陥るだけであろう。いずれにしても、県美展が美術発表の主核的な場として量質ともに機能しなければ、選抜展そのものの意味もないと考えなければならない。



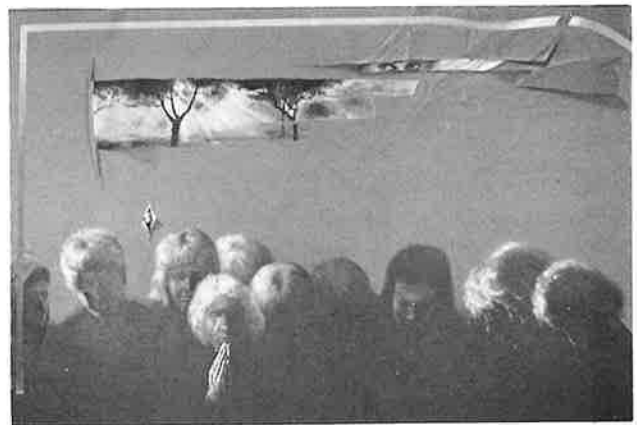
特別奨励賞 浜野邦昭 WIND OF GRAY



奨励賞 藤重墨舟 杜少陵の詩



奨励賞 柴田謙一郎 オムニバスインブルー



奨励賞 船本 寛 閉ざされた領域—死—

### (C) 美術講演会および講座

自主企画展、県美展、共催展等展示事業の内容理解と普及をはかるため下記の講演会および講座を行った。

#### 美術講演会

日 時 1979(昭54)年10月13日(日)13時～15時  
 場 所 山口市民会館大ホール  
 講 師 水上 勉(作家)  
 演 題 悲母観音私考  
 参集人員 2,100人

日 時 1980(昭55)年10月26日(日)13時～15時  
 場 所 美術館講座室  
 講 師 陰里鉄郎(東京国立文化財研究所)  
 演 題 近代洋画の人間像について  
 参集人員 90人

#### 美術講座

(54年度)

年月日	55. 1. 12	55. 2. 23	55. 3. 8
講 師	毎日新聞西部本社 田 中 幸 人	朝日新聞西部本社 源 弘 道	美術評論家 針 生 一 郎
演 題	ドナウ川流域の美術	現代美術の動向と桂 ゆき	桂ゆきの世界
参集人員	90人	70人	110人

(55年度)

年月日	55. 5. 17	55. 7. 6	55. 9. 21	56. 1. 25
講 師	作家(工芸) 吉賀 大眉	九州芸術工科大学教授 鈴木 健二	作家(洋画) 冨永 恒光 作家(彫刻) 田中 米吉	美術評論家 岩田 礼
演 題	日本現代工芸 美術展について	フォーヴの 画家たち	県美展の出品 作品について	香月泰男を語る
参集人員	150人	70人	80人	70人

## 実技講座

参加する開かれた美術館活動の一環として実技講座を次のとおり行った。

### 初級（54年度）

部 門	講 師	期 間	参集人員
日 本 画	中 村 脩	55年1月～3月 毎週土曜日 3時間	30人
洋 画	田 口 克 己	〃 〃 日曜日 〃	30人
陶 芸	大 和 保 男	〃 〃 木曜日 〃	30人

### 初級（55年度）

部 門	講 師	期 間	参集人員
日 本 画	中 村 脩	5月～12月 毎月1回3時間	30人
洋 画	田 口 克 己	〃	30人
陶 芸	大 和 保 男	〃	30人

### 上級（55年度）

部 門	講 師	期 間	参加人員
洋 画	富 永 恒 光	7月21日～7月23日	20人
染 色	服 部 碩 夫	8月4日～8月6日	20人



日本画



陶芸



洋画



染色

## (D) 美術館ニュース「天花（てんげ）」

館活動の状況報告、とくに企画展の案内を中心に、年4回、12ページの構成で発行している。1979・80（昭54・55）年度に7号まで発行されたが、基本方針はつぎの通りである。紙面は読み易さを配慮し、1テーマのために見開き2ページ、たて書4段組（16字30行）、文字の級数は高齢者の視力にたえる級数（13級）を用いる。内容面では刊行が長期にわたるので統一トーンを維持するため、基本的にはいくつかのシリーズで構成、時宜におうじて特集を組むことにした。シリーズは、企画展案内を中心に、館蔵品の紙面紹介（1号1作品）、伝統の構造、山口画人伝、研究ノート、美術エッセイなどを主な柱としている。

### 創刊号（54・5・1発行）

館蔵品紹介「雲」香月泰男

（解説 安井雄一郎）

山口県立美術館の課題 河野良輔

美術館案内

伝統の構造 鋳物工房あれこれ(一)

川口政宏（彫刻家）

研究ノート 芳崖備忘録(一)

狩野芳崖の家系 木本信昭

### 第2号（54・8・1発行）

館蔵品紹介「八臂弁才天」狩野芳崖

（解説 高田美規雄）

「芳崖」人と作品

山口画人伝(1) 河北道介 高田美規雄

伝統の構造 鋳物工房あれこれ(二)

川口政宏（彫刻家）

研究ノート 芳崖備忘録(二)

芳崖の出生と家族 木本信昭

### 第3号（55・3・1発行）

館蔵品紹介「虎の威を借りた狐」桂ユキ

（解説 高田美規雄）

桂ユキの世界 影山純夫

開館記念特別展「生誕150年狩野芳崖、をおえて」木本信昭

山口画人伝(2) 森寛斎 勝津吉生

伝統の構造 硯のはなし(1) 堀尾卓司（工芸家）

研究ノート レンブラントノート(一)

初期評伝群から／ザンドラルトのレンブラント伝 (一) 安井雄一郎





#### 第4号 (55・7・1)

館蔵品紹介「トルソ」中野四郎

(解説 安井雄一郎)

南仏の抒情—乱舞する色彩

マンギャン展 高田美規雄

桂ゆき展をみて 桂ゆきの作品と語ったこと

中原静子(菘女子短大教授)

山口画人伝(3) 小林和作 勝津吉生

伝統の構造 硯のはなし(2) 堀尾卓司(工芸家)

研究ノート レンブラントノート(一)

初期評伝群から/ザンドラルトのレンブラント伝(二)

安井雄一郎

#### 第5号 (55・10・1発行)

館蔵品紹介「しぼり」永地秀太

(解説 高田美規雄)

近代洋画の人間像 高田美規雄

山口県現代美術選抜展を終えて 木本信昭

山口画人伝(4) 高島北海 安井雄一郎

伝統の構造 硯のはなし(3) 堀尾卓司(工芸家)

研究ノート 古田織部小論(一) 織部と織部焼

影山純夫

#### 第6号 (55・12・1発行)

館蔵品紹介「埋葬」香月 泰男

(解説 安井雄一郎)

香月泰男—その造形と抒情の軌跡— 安井雄一郎

私の香月泰男 大井政雄(文芸評論家)

ときめきとやすらぎ—県立美術館開館一年—

福田百合子(山口女子大教授)

山口画人伝(5) 永地秀太 高田美規雄

伝統の構造 茶碗の見方—作家の立場から—

坂田泥華(作陶家)

研究ノート 古田織部小論(二) 織部の芸術

影山純夫

#### 第7号 (56・4・1)

館蔵品紹介「佐渡の海」小林和作

(解説 木本信昭)

山口の現代美術 I 高田美規雄

山口画人伝(6) 大庭学僊 勝津吉生

研究ノート 古田織部小論(三)

織部の茶 影山純夫

## (E) 移動美術館

### 「小林和作の世界」

1980(昭和55)年 8月13日～19日 柳井市文化福祉会館

同 年10月1日～7日 萩市民館

山口県立美術館々蔵品を県下各地で広く県民に展覧し、美術文化の振興に寄与するという趣旨のもとで移動美術館事業を開催した。

日	場所	萩市民館	日	場所	柳井市文化福祉会館
10月1日		174 (人)	8月13日		229 (人)
◇ 2日		123	◇ 14日		157
◇ 3日		223	◇ 15日		179
◇ 4日		183	◇ 16日		184
◇ 5日		418	◇ 17日		304
◇ 6日		211	◇ 18日		182
◇ 7日		271	◇ 19日		314
計		1,603 (人)	計		1,549 (人)



柳井会場

萩会場



### Ⅲ. 入館者数一覽

展 覧 会 名	開 催 期 間	個 人							小 計
		大 人		高 大		小 中			
		料 金	人 数	料 金	人 数	料 金	人 数		
常 設 展	54. 11. 20 ~ 55.3.30(106)	100	21,228	70	2,066	50	3,018	26,312	
生誕150年狩野芳崖	54. 10. 7 ~ 11.18(38)	600	66,000	400	4,113	300	7,227	77,340	
山口県学校美術展	54. 11. 29 ~ 12. 2(4)								
第33回県美展	54. 12. 8 ~ 12.23(14)	200	5,880	150	474	100	580	6,934	
ルーマニア国立美術館展	55. 1. 5 ~ 1.27(20)		41,557		6,049		8,451	56,057	
桂 ゆ き 展	55. 3. 1 ~ 3.30(25)	400	5,200	300	911	200	838	6,949	
中四国大学美術展	54. 11. 23 ~ 11.25(3)								
山口県高等学校教職員美術書道展	55. 2. 1 ~ 2. 7(6)								
山口大学卒業制作展	55. 2. 15 ~ 2.17(4)								
山口芸術短大卒業制作展	55. 2. 21 ~ 2.24(4)								
54年度計			139,865		13,613		20,114	173,592	
常 設 展	55. 4. 1 ~ 56.3.31(269)	100	26,977	70	1,949	50	3,646	32,572	
山口県現代美術選抜展	55. 8. 2 ~ 8.17(14)		2,357		383		500	3,240	
第34回県美展	55. 9. 6 ~ 9.21(14)	200	6,317	150	391	100	527	7,235	
近代洋画の人間像	55. 10. 18 ~ 11.30(40)	600	16,097	400	1,457	300	1,957	19,511	
香月泰男展	56. 1. 6 ~ 2. 8(30)	600	10,899	400	1,126	300	1,126	13,151	
伝統工芸新作展	55. 4. 25 ~ 5. 5(10)		3,775		178		356	4,309	
日本現代工芸美術展	55. 5. 10 ~ 5.25(14)		3,118		188		345	3,651	
第40回美術文化展	55. 5. 31 ~ 6. 8(8)		823		166		0	989	
マンガヤン展	55. 6. 27 ~ 7.20(21)		13,707		1,363		1,602	16,672	
山口県学校美術展	55. 12. 2 ~ 12. 7(4)								
第2回西部モダンアート協会展	55. 12. 10 ~ 12.14(5)								
山口大学卒業制作展	56. 2. 26 ~ 3. 1(4)								
山口芸術短大卒業制作展	56. 3. 5 ~ 3. 8(4)								
インドネシア古代美術展	56. 3. 14 ~ 3.31(14)		3,767		703		936	5,406	
55年度計			87,837		7,904		10,995	106,736	



団 体							計			合 計	累 計
大 人		高 大		小 中		小 計	有 料	無 料	招 待		
料 金	人 数	料 金	人 数	料 金	人 数					有 料	無 料
80	1,675	50	240	30	383	2,298	28,610	290	0	28,900	28,900
500	8,074	300	3,193	200	3,050	14,317	91,657	863	6,316	98,836	127,736
								4,567		4,567	132,303
170	473	120	222	50	2	697	7,631	62	1,117	8,810	141,113
	604		257		123	984	57,041	250	8,508	65,799	206,912
300	465	200	0	100	229	694	7,643	68	1,769	9,480	216,392
								2,227		2,227	218,619
								959		959	219,578
								986		986	220,564
								1,616		1,616	222,180
	11,291		3,912		3,787	18,990	192,582	11,888	17,710	222,180	
80	4,144	50	868	30	4,431	9,443	42,015	626	0	42,641	42,641
	9		0		11	20	3,260	21	590	3,871	46,512
170	515	120	0	50	0	515	7,750	125	992	8,867	55,379
500	2,695	300	1,471	200	2,019	6,185	25,696	374	3,945	30,015	85,394
500	183	300	854	200	785	1,822	14,973	204	2,416	17,593	102,987
	392		0		54	446	4,755	11	466	5,232	108,219
	166		351		524	1,041	4,692	58	2,450	7,200	115,419
	118		97		21	236	1,225	45	339	1,609	117,028
	962		4		2	968	17,640	41	8,539	26,220	143,248
								4,798		4,798	148,046
								607		607	148,653
								499		499	149,152
								1,368		1,368	150,520
	265				215	480	5,886	22	1,479	7,387	157,907
	9,449		3,645		8,062	21,156	127,892	8,799	21,216	157,907	



## 収集資料

I. 館藏品貸出利用状況	80
II. コレクション	
新収藏品（昭54—55）	81
III. 美術図書	94

## I. 館藏品貸出利用状況

昭和54・55年度の貸出しは、12件17作品で内3点は寄託品である。主な作家・作品としては、日本画で狩野芳崖、洋画で香月泰男のシベリア・シリーズ、工芸で三輪休和といったところが目立っており、重要文化財の雪舟作「山水図」は収蔵年に貸出している。今後とも作家や作品がかたよることが予想される。

作 品	作 者	期 間	貸 出 先	展 覧 会 名 等	備 考
繫馬図	狩野芳崖	54.5.8～5.15	下関市立内日公民館	趣味と文化財展	寄託品
萩筆洗切茶碗	三輪休和	54.5.7～6.15	天満屋岡山店	日本の名陶150選展	
萩水指	坂高麗左衛門	〃	〃	〃	
虎の威を借りた狐	桂 ゆき	54.6.11～7.7	東京画廊	桂ゆき展	
埋 葬	香月泰男	54.8.20～10.5	東京都美術館 朝日新聞社	近代日本美術の歩み展	寄託品
〃	〃	54.10.6～10.28	京都市美術館 朝日新聞社	〃	〃
羅漢図	狩野芳崖	54.11.8～11.29	福岡県文化会館 朝日新聞社	〃	
雪中山水図	〃	54.10.29～11.15	福岡市美術館	近代アジアの美術	
八臂弁才天図	〃	54.11.19～12.10	〃	〃	
復具(トラップ)	香月泰男	54.10.19～12.21	神奈川県立近代美術館	現代美術・戦後展	
雪	〃	〃	〃	〃	
萩編笠水指	三輪休和	54.12.26～55.2.15	渋谷・東急百貨店本店 梅田・阪急百貨店 日本経済新聞社	現代陶芸百選展	
萩筆洗切茶碗	〃	〃	〃	〃	
紺糸を干す	小野竹喬	55.8.9～8.22	岡山・高島屋	小野竹喬を偲ぶ展	小林 コレクション
北辺の船	小野具定	55.8.4～9.28	神奈川県立近代美術館	戦後の日本画展	
北 辺	〃	〃	〃	〃	
山水図(小巻)	雪 舟	55.10.27～11.12	岡山県立博物館	吉備の国宝・ 重要文化財展	
予 感	三輪龍作	55.10.15～56.1.30	西武百貨店関西大津店	現代陶芸展	

## II コレクション —新収蔵品（昭和54年～55年）

### ※凡例

以下の目録は1979(昭54)年10月の当館開館時から1981(昭56)年3月までに収蔵された館蔵品をすべて網羅したものである。これに先行する収蔵品については既に「山口県立美術館蔵品目録1979」が刊行されているので割愛したが、作品の整理方針および個々のデータの記録法は同目録に準じている。すなわち、作品は日本画(J)・洋画(O)・水彩画(W)・版画(P)・工芸(C)・資料(M)の順で編集され、また個々のデータについては整理番号・作者・生没年・タイトル・制作年・素材技法・寸法(cm)・サイン等の位置・収蔵年とその経緯の順で記録されている。整理番号は同目録につづく通し番号とした。

### 日本画 (Japanese-style paintings)



J-67

狩野芳崖 KANO, Hōgai  
1828～1888  
懸崖飛沫図 Landscape  
絹本墨画、軸 30.4×31.5  
左中に落款・印  
昭和54年度 寄贈



J-68

狩野芳崖 KANO, Hōgai  
1828～1888  
羅漢図 Rakan  
紙本墨画彩色・軸 135.2×62.0  
左上に落款・印  
昭和55年度 購入



J-69

狩野芳崖 KANO, Hōgai  
公孫樹と啄木鳥  
Ginkgo and woodpecker  
紙本墨画彩色・軸 124.7×49.6  
右下に落款・印  
昭和55年度 寄贈



J-70

雪舟 Sessyū  
1420～1506  
山水図巻(山水小巻) Landscape  
重要文化財  
1474  
紙本墨画・画巻 23.2×167.3 (雪舟真筆部分)  
巻頭に印・巻末に跋文  
昭和54年度 購入





J-71

森 寛齋 MORI, Kansai

1814~1894

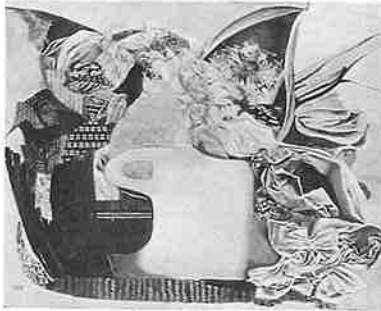
松林瀑布山水図 Waterfall in a pine forest  
1868

絹本墨画・軸 144.6×86.2

右中に落款・印2

昭和55年度 購入

## 油絵 (Oil paintings)



O-103

桂 ゆき KATSURA, Yuki

1913~

作品 Work

1949

油彩・キャンパス 131.0×161.5

左下にサイン

昭和55年度 購入



O-104

桂 ゆき KATSURA, Yuki

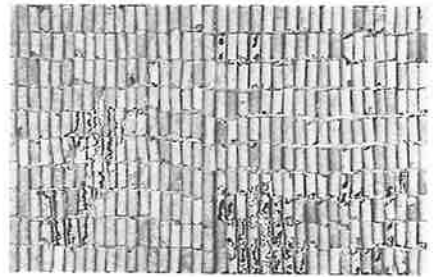
1913~

異邦人 Foreigner

1961

油彩・紙・キャンパス 254.3×173.0

昭和55年度 購入



O-105

桂 ゆき KATSURA, Yuki

1913~

作品 Work

1979

コラーージュ・板 116.5×182.2

昭和55年度 購入

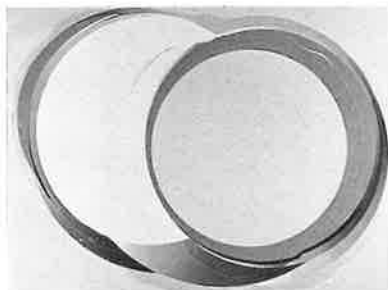


O-106

里見勝蔵 SATOMI, Katsuzō  
1895~1981

女 Woman  
1931

油彩・キャンパス 89.4×64.0  
左下にサイン  
昭和55年度 寄贈

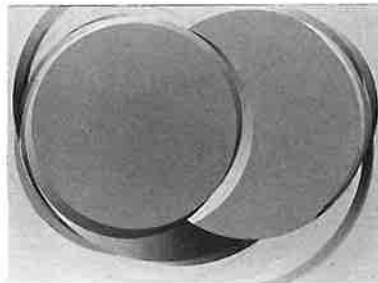


O-107

田中稔之 TANAKA, Toshiyuki  
1928~

円の光景 Luminous scene of circle  
1979

油彩・キャンパス 194.0×259.5  
右下にサイン  
昭和55年度 寄贈



O-108

田中稔之 TANAKA, Toshiyuki  
1928~

円の光景 Luminous scene of circle  
1979

油彩・キャンパス 194.0×259.5  
右下にサイン  
昭和55年度 購入



O-109

永地秀太 NAGATOCHI, Hideta  
1873~1942

裸体習作 Nudestudy

油彩・キャンパス 62.7×43.8  
右上にサイン  
昭和55年度 購入



O-110

永地秀太 NAGATOCHI, Hideta  
1873~1942

裸婦 Nude woman

油彩・キャンパス 62.7×43.8  
右上にサイン  
昭和55年度 購入



O-111

永地秀太 NAGATOCHI, Hideta  
1873~1942

婦人像 Woman

油彩・キャンパス 53.4×45.8  
昭和55年度 購入



O-112

永地秀太 NAGATOCHI, Hideta  
1873~1942

少女像 Girl

油彩・キャンパス 47.2×35.0  
昭和55年度 購入



O-113

永地秀太 NAGATOCHI, Hideta  
1873~1942

少年像 Boy

油彩・キャンパス 32.8×28.9  
昭和55年度 購入



O-114

永地秀太 NAGATOCHI, Hideta  
1873~1942

少年像 Boy

油彩・キャンパス 43.9×35.5  
昭和55年度 購入



O-115

永地秀太 NAGATOCHI, Hideta  
1873~1942

風景 Landscape

油彩・キャンパス 41.3×32.0  
昭和55年度 購入



O-116

中本達也 NAKAMOTO, Tatsuya  
1922~1973

洪水 Flood

1956  
油彩・キャンパス 120.5×68.0  
右下にサイン  
昭和55年度 購入



O-117

中本達也 NAKAMOTO, Tatsuya  
1922~1973

憩える海人 Seamen at rest

1957  
油彩・キャンパス 106.5×117.5  
右下にサイン  
昭和55年度 購入





O-118

中本達也  
NAKAMOTO, Tatsuya  
1922~1973  
渴 Thirst  
1958

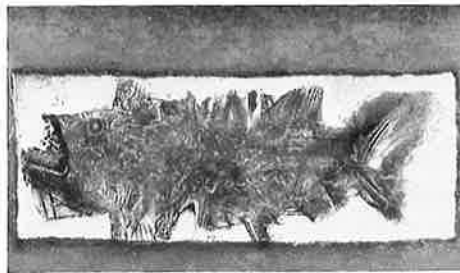
油彩・キャンバス 114.0×55.0  
右下にサイン  
昭和55年度 購入



O-119

中本達也  
NAKAMOTO, Tatsuya  
1922~1973  
森の声 Voices of the forest  
1960

油彩・キャンバス 104.5×141.0  
右下にサイン  
昭和54年度 購入



O-120

中本達也  
NAKAMOTO, Tatsuya  
1922~1973  
海の扉 Door of sea  
1961

油彩・キャンバス 111.0×193.0  
右上にサイン  
昭和55年度 購入



O-121

中本達也 NAKAMOTO, Tatsuya  
1922~1973  
岩の蛾 Moth of rock  
1961

油彩・キャンバス 53.2×45.6  
左下にサイン  
昭和55年度 購入



O-122

中本達也 NAKAMOTO, Tatsuya  
1922~1973  
残された壁 (祭壇)  
Walls that remain (Altar)  
1967

油彩・紙・キャンバス 145.0×97.0  
右下にサイン  
昭和55年度 購入



O-123

中本達也 NAKAMOTO, Tatsuya  
1922~1973  
残された壁 (女)  
Walls that remain (Woman)  
1967

油彩・紙・キャンバス 145.0×97.0  
左下にサイン  
昭和55年度 購入



O-124

中本達也 NAKAMOTO, Tatsuya  
1922~1973  
人間の扉 Door of man  
1967  
油彩・キャンバス 179.3×140.7  
右下にサイン  
昭和55年度 購入



O-125

中本達也 NAKAMOTO, Tatsuya  
1922~1973  
人 Person  
1967  
油彩・キャンバス 32.4×28.7  
右下にサイン  
昭和55年度 購入



O-126

山本文彦 YAMAMOTO, Fumihiko  
1937~  
木精の地(1) Earth of dryad(1)  
1979  
油彩・キャンバス 163.0×163.0  
右下にサイン  
昭和55年度 購入

## 水彩画 (Water-color paintings)



W-362

中本達也 NAKAMOTO, Tatsuya  
1922~1973  
Sacra S. Michele Sacra S. Michele  
1964  
水彩・パステル・紙 62.0×48.0  
右下にサイン  
昭和55年度 購入



W-363

中本達也 NAKAMOTO, Tatsuya  
1922~1973  
古代ローマの二人  
Two persons in ancient Rome  
1964  
墨・紙 78.0×54.0  
右下にサイン  
昭和55年度 購入



W-364

中本達也 NAKAMOTO, Tatsuya  
1922~1973  
人びと People  
1965  
水彩・墨・紙 72.5×51.7  
右下にサイン  
昭和55年度 購入



W-365

中本達也 NAKAMOTO, Tatsuya  
1922~1973  
西方の女 Woman in the west  
1968  
水彩・コラージュ・紙 75.5×56.1  
右下にサイン  
昭和55年度 購入



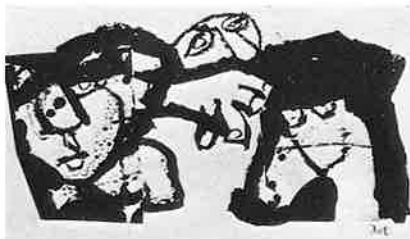
W-366

中本達也 NAKAMOTO, Tatsuya  
1922~1973  
三島由紀夫「豊饒の海」カット  
Cut of the novel  
1968  
墨・紙 14.0×23.0  
右下にサイン  
昭和55年度 購入



W-367

中本達也 NAKAMOTO, Tatsuya  
1922~1973  
三島由紀夫「豊饒の海」カット  
Cut of the novel  
1968  
墨・紙 11.0×18.2  
右下にサイン  
昭和55年度 購入



W-368

中本達也 NAKAMOTO, Tatsuya  
1922~1973  
三島由紀夫「豊饒の海」カット  
Cut of the novel  
1968  
墨・コラージュ・紙 11.0×20.0  
右下にサイン  
昭和55年度 購入



W-369

中本達也 NAKAMOTO, Tatsuya  
1922~1973  
M氏宛葉書 Postcard to Mr.M  
1970  
墨・紙 15.0×10.0  
右下にサイン  
昭和55年度 購入



W-370

中本達也 NAKAMOTO, Tatsuya  
1922~1973  
開高健「パニック・裸の王様」カバー装画  
Jacket of the novel  
1971  
油彩・墨・紙 18.6×38.6  
右上にサイン  
昭和55年度 購入



W-371

中本達也 NAKAMOTO, Tatsuya  
1922~1973  
スタインベック  
「怒りの葡萄」カバー装画  
Jacket of the novel  
油彩・墨・紙 26.0×19.0  
右下にサイン  
昭和55年度 購入



W-372

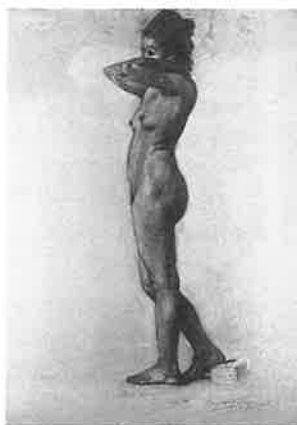
中本達也 NAKAMOTO, Tatsuya  
1922~1973  
ハーディ「テス」装画  
Cut of the novel  
墨・紙 26.6×18.0  
右下にサイン  
昭和55年度 購入

## 素描 (Drawings)



D-5

永地秀太 NAGATOCHI, Hideta  
1873~1942  
裸婦 Nude woman  
木炭・紙 62.5×45.0  
右下にサイン  
昭和55年度 購入



D-6

永地秀太 NAGATOCHI, Hideta  
1873~1942  
裸婦 Nude woman  
木炭・紙 62.5×45.0  
右下にサイン  
昭和55年度 購入



D-7

永地秀太 NAGATOCHI, Hideta  
1873~1942  
裸婦 Nude woman  
木炭・紙 62.5×45.0  
昭和55年度 購入



D-8

永地秀太 NAGATOCHI, Hideta  
1873~1942

裸婦 Nude woman  
1904

木炭・紙 62.5×45.0  
右下にサイン  
昭和55年度 購入



D-9

永地秀太 NAGATOCHI, Hideta  
1873~1942

男子裸像 Nude man  
1905

木炭・紙 62.5×45.0  
左下にサイン  
昭和55年度 購入

## 版画 (Prints)



P-41

中本達也 NAKAMOTO, Tatsuya  
1922~1973

とり Bird  
1957

銅版・水彩・紙 11.3×10.0  
左下にサイン  
昭和55年度 購入



P-42

中本達也 NAKAMOTO, Tatsuya  
1922~1973

野の花 Field flowers  
1959

銅版・紙 13.8×13.1  
左下にサイン  
昭和55年度 購入



P-43

中本達也 NAKAMOTO, Tatsuya  
1922~1973

潮 Current  
1960

銅版・紙 6.8×17.8  
右下にサイン  
昭和55年度 購入



P-44

中本達也 NAKAMOTO, Tatsuya

1922~1973

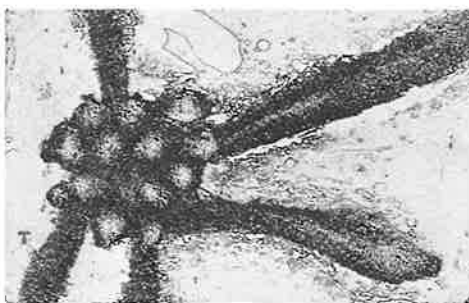
作品 Work

1960

銅版・紙 6.2×17.7

左下にサイン

昭和55年度 購入



P-45

中本達也 NAKAMOTO, Tatsuya

1922~1973

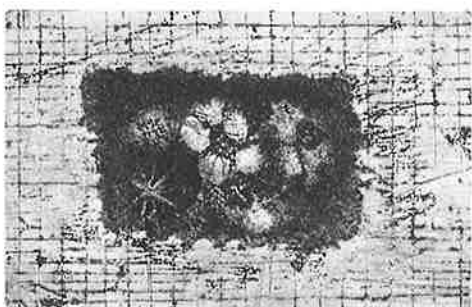
南の実 Fruit from the southern island

1961

銅版・紙 8.8×14.0

左下にサイン

昭和55年度 購入



P-46

中本達也 NAKAMOTO, Tatsuya

1922~1973

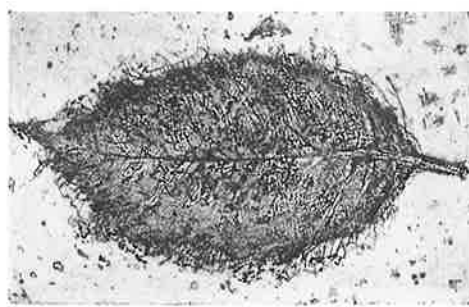
地底の花 Flowers under the ground

1961

銅版・紙 8.8×13.8

左下にサイン

昭和55年度 購入



P-47

中本達也 NAKAMOTO, Tatsuya

1922~1973

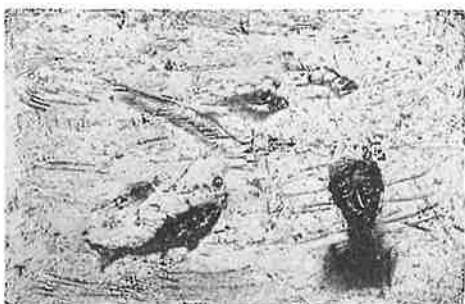
化石(葉) Fossil (Leaf)

1961

銅版・紙 8.8×14.0

右下にサイン

昭和55年度 購入



P-48

中本達也 NAKAMOTO, Tatsuya

1922~1973

海 Sea

1962

銅版・紙 8.9×13.9

左下にサイン

昭和55年度 購入



P-49

中本達也 NAKAMOTO, Tatsuya

1922~1973

人間の邑 Village of men

1968

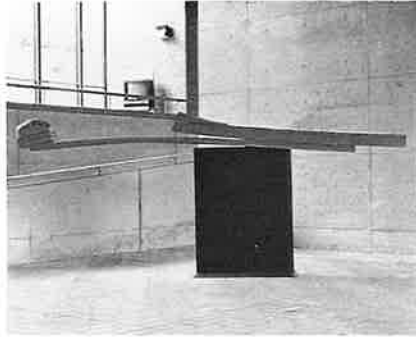
石版・紙 各91.0×182.8

昭和55年度 購入

## 彫刻 (Sculptures)



S-40  
澄川喜一 SUMIKAWA, Kiichi  
1931～  
マスク Mask  
1977  
木(ケヤキ) 67.5×26.0×18.2  
昭和54年度 寄贈



S-41  
澄川喜一 SUMIKAWA, Kiichi  
1931～  
そりのあるかたち 9-27  
Curved shape 9-27  
1979  
木(ケヤキ) 153.0×365.0×22.6  
昭和54年度 購入



S-42  
澄川喜一 SUMIKAWA, Kiichi  
1931～  
そりとそぎ Curve and splinter  
1980  
木(ケヤキ) 66.5×64.8×35.9  
昭和54年度 購入



S-43  
田中米吉 TANAKA, Yonekichi  
1925～  
点字A Raised letters A  
1965  
アルミ板・ラッカー 300.0×200.0  
昭和55年度 寄贈



S-44  
田中米吉 TANAKA, Yonekichi  
1925～  
ドッキング No.15 Docking No.15  
1974  
プラスチック・グラスファイバー・  
アクリルラッカー 100.0×100.0×220.0  
昭和55年度 寄贈



S-45  
中本達也 NAKAMOTO, Tatsuya  
1922～1973  
岩の声 Voices of rock  
1972  
石筥 105.0×72.6×7.3  
昭和55年度 寄贈

## 工芸 (Crafts)



C-45

坂高麗左衛門 (11代)  
SAKA, Kōraizaemon  
1912~1981  
萩茶碗 Teabowl  
陶器 8.3×15.0  
昭和55年度 寄贈



C-46

堀尾卓司 HORIO, Takuji  
1910~  
赤間硯「蘭花研」 Inkstone  
1956  
石 5.0×19.4×30.7  
昭和55年度 購入



C-47

堀尾卓司 HORIO, Takuji  
1910~  
赤間硯「すみすり」 Inkstone  
1979  
石 3.5×20.2×16.5  
昭和55年度 購入



C-48

三輪龍作 MIWA, Ryōsaku  
1940~  
女 Woman  
1976  
陶器 40.0×45.0  
昭和55年度 寄贈



C-49

吉賀大眉 YOSHIGA, Taibi  
1915~  
白釉壺 (花器) Jar  
1962  
陶器 43.5×41.2  
昭和55年度 寄贈



C-50

吉賀大眉 YOSHIGA, Taibi  
1915~  
斗々屋写茶碗 Teabowl  
1974  
陶器 6.5×15.0  
昭和55年度 寄贈



## 資料 (Reference materials)

R-10

松林桂月 MATSUBAYASHI, Keigetsu  
1876~1963

魚貝類写生図巻 Sketches

紙本彩色・画卷 (37枚貼付)

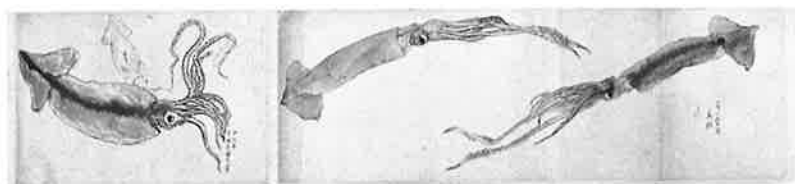
17.8~36.3×29.7~78.2

昭和55年度 寄贈

R-11

峯村北山資料 (小田海徳、大庭学徳関係)

昭和55年度 寄贈



### Ⅲ. 美術図書

分類	資料名	著・編者	発行	刊行年
0.	総記			
021.2	著作権法関係条約集	文化庁	文化庁	1972
	著作権法関係法令集	文化庁	文化庁	1972
	著作権法ハンドブック	文化庁	文化庁	1972
	著作権講習会テキスト	文化庁文化部著作権課	文化庁文化部	1974
	最新版 著作権ハンドブック	文化庁	社会法人著作権資料協会	1977
	改訂 新著作権法問答	佐野文一郎・鈴木敏夫	出版開発社	1979
025.8	益田家歴史資料目録	山口県教育委員会	山口県教育委員会	1979
	山口県郷土史料文献解題	山口県史編纂所	マツノ書店	1940
025.8	山口県内所在史料目録	山口県文書館	山口県文書館	
	第6集			1979
	第8集			1980
025.8	郷土資料目録	下関文書館	下関文書館	
	(1)			1967
	(2)			1969
	(3)			1970
	(4)			1970
	(5) 旦山長見文庫			1971
	(6)			1971
	(8)			1973
	(9)			1974
027.2	政府刊行物等総合目録(1981)	全国官報販売協同組合	全国官報販売協同組合	1980
027.5	外国雑誌総合目録(1982)	紀伊国屋書店	紀伊国屋書店	1981
	SUBSCRIPTION CATALOGUE (1979)	〃	〃	1979
	明治新聞雑誌文庫所蔵新聞目録	東京大学法学部 明治新聞雑誌文庫	東京大学出版会	1977
027.9	カナダ映画カタログ(1981)	カナダ大使館	カナダ大使館	1981
027.9	レコード目録	山口県視聴覚センター	山口県視聴覚センター	
	昭和53年4月現在			1978
	昭和54年5月現在			1979
029.2	新収図書目録	山口県立山口図書館	山口県立山口図書館	
	30 昭和37年1月～12月			1963
	31 昭和38年 〃			1964
	32 昭和39年 〃			1965
	33 昭和40年 〃			1966
	34～39 昭和41年～46年			1972
	40 昭和47年1月～12月			1973
	41 昭和48年 〃			1974
	42 昭和49年 〃			1975
	43 昭和50年 〃			1976
	44 昭和51年 〃			1977
	45 昭和52年 〃			1978
	47 昭和54年 〃			1980
	48 昭和55年 〃			1981
029.3	図書資料目録	山口県議会図書館	山口県議会事務局	1979
029.6	根岸競馬記念公苑所蔵図書目録 (項目別)	財団法人 馬事文化財団芸芸部	根岸競馬記念公苑	1980

分類	資料名	著・編者	発行	刊行年
029.7	学術文献資料総合目録	ピー・アイ・シー	ピー・アイ・シー	1979
	学術雑誌総合目録	文部省	紀伊国屋書店	
	人文科学欧文編Ⅰ(A～I)			1980
	Ⅱ(J～Z)			1980
	人文科学和文編			1973
029.8	毛利家文庫目録	山口県文書館	山口県文書館	
	第1分冊	(史料目録1)		1963
	第2分冊	( 〃 2 )		1965
	第3分冊	( 〃 3 )		1972
	第4分冊	( 〃 4 )		1974
031.3	大辞典		平凡社	
	上巻 アーシュワ			1978(1935)
	下巻 シューンン			1978(1935)
031.3	世界大百科辞典		平凡社	1977(1972)
	1 (アーアン)			
	2 (イーイン)			
	3 (ウーエホ)			
	4 (エマーオン)			
	5 (カーカタ)			
	6 (カチーカン)			
	7 (キーキョ)			
	8 (キラークン)			
	9 (ケーケン)			
	10 (コココオ)			
	11 (コカーコン)			
	12 (サーシウ)			
	13 (シェーシモ)			
	14 (シャーシュ)			
	15 (ショーシワ)			
	16 (シンースン)			
	17 (セーセワ)			
	18 (セーンソン)			
	19 (タータン)			
	20 (チーチン)			
	21 (ツーテン)			
	22 (トートン)			
	23 (ナーヌン)			
	24 (ネーハト)			
	25 (ハナーヒモ)			
	26 (ヒヤーフヨ)			
	27 (フラーヘワ)			
	28 (ヘーンホン)			
	29 (マームチ)			
	30 (ムツューサ)			
	31 (ユシーリョ)			
	32 (リラーワン)			
	33 索引・補遺			

分類	資料名	著・編者	発行	刊行年
	世界大百科辞典 世界地図・日本地図		平凡社	1977(1968)
1. 哲学				
103	哲学事典		平凡社	1979(1971)
180.3	佛書解説大辞典		大東出版社	
	第1巻 ア～オ	小野玄妙		1977(1933)
	第2巻 カ～ク	〃		〃
	第3巻 ケ～コ	〃		〃
	第4巻 サ～シ	〃		〃
	第5巻 シ	〃		〃
	第6巻 シ～セ	〃		〃
	第7巻 ソ～タ	〃		〃
	第8巻 チ～ノ	〃		〃
	第9巻 ハ～ホ	〃		〃 (1935)
	第10巻 ホ～ム	〃		〃 (1933)
	第11巻 メ～ワ	〃		〃 (1935)
	第12巻 増補1	丸山孝雄		1978
	第13巻 増補2	丸山孝雄		1978
	別巻 佛典総論	小野玄妙		1979(1936)
2. 歴史				
202.5	装飾古墳	文化庁文化財保護部	石橋美術館・朝日新聞社	1969
210	防長歴史暦 上・下	山口県	歴史図書社	1980
	白須タタラ製鉄遺跡 第2次調査概報	山口県教育委員会	山口県教育委員会	1980
210.02	古文書 用字・用語大辞典	荒居英次・飯倉晴武 他	柏書房	1980
210.03	京都府百年の資料 8 美術工芸編	京都府立総合資料館	京都府	1972
210.03	京都府百年の年表	京都府立総合資料館	京都府	
	8 美術工芸編			1970
	10 総索引			1972
210.03	山口県文化史年表	山口県企画部広報課	山口県	1968
	山口県近世史研究要覧	石川卓美	マツノ書店	1976
	増補近世防長人名辞典	吉田祥朔	マツノ書店	1976
	島根無形文化財年表(昭和43年版)	島根県文化財愛護協会	同左	
	読史備要	東京大学史料編纂所	講談社	1978(1966)
	近代日本総合年表	岩波書店編集部	岩波書店	1978(1968)
210.08	清末藩分限帳	下関市文書館	下関市文書館	1970
	防長人物異名攷			
	上 (史料叢書3)			1972
	下 (〃4)			1972
	長府名勝旧宅址記(〃5)			1973
	清末藩旧記			
	第一冊(史料叢書6)			1974
	第二冊(〃7)			1974
	第三冊(〃8)			1975
210.08	周防岩国紙に関する史料(-)	桂芳樹	岩国徴古館	1968
	岩国城と錦帯橋史料	〃	〃	1966
	岩国藩の「疱瘡遠慮定」伝染病(疱瘡)予防に関する史料	〃	〃	1970
	防長地下上申	山口県地方史学会	マツノ書店	

分類	資料名	著・編者	発行	刊行年
210.08	一			1978
	二			1979
	三			1979
	四			1980
210.1	お雇い外国人		鹿島出版会	
	1 概説	梅溪昇		1979(1968)
	3 自然科学	上野益三		〃
	4 交通	山田直匡		〃
	5 宗教・教育	重久篤太郎		〃
	6 軍事	高橋邦太郎		〃
	7 通信	高橋善七		1979(1969)
	8 金融・財政	土屋喬雄		〃
	9 医学	石橋長英・小川鼎三		〃
	10 音楽	野村光一		1979(1968)
	11 政治・法制	梅溪昇		〃
	12 外交	今井庄次		〃
	13 開拓	原田一典		1975
	14 地方文化	重久篤太郎		1976
	15 建築・土木	村松貞次郎		〃
	16 美術	隈元謙次郎		〃
	17 人文科学	金井 圓		〃
210.1	明治文化史		原書房	
	1 概説	藤井甚太郎		1980
	2 法制	石井良助		〃
	3 教育道德	村上俊亮・坂田吉雄		1981
	4 思想言論	高橋正顕		1979
	5 学術	矢島祐利・野村兼太郎		〃
	6 宗教	岸本英夫		〃
	7 文芸	岡崎義恵		1980
	8 美術	上野直昭		1981
	9 音楽演芸	小宮豊隆		1980
	10 趣味娯楽	〃		〃
	11 社会経済	渋沢敬三		1979
	12 生活	〃		〃
	13 風俗	柳田国雄		1980(1979)
	全14巻総索引	開国百年記念文化事業会		1981
210.1	'76 明治・大正・昭和の文化	小田切秀雄 ・近代日本文化会	防長新聞社	1976
210.2	美祢の化石	美祢市歴史民俗資料館	同左	1981
	下右田遺跡 第1・2次概報	山口県教育委員会文化課	同左	
210.3	山陽自動車道発掘報告書	山口県教育委員会文化課	山口県教育委員会 建設省山口工事事務所	
	天神原弥市原遺跡第1次調査概報			1981
	台ヶ原遺跡群	〃		1981
	黒川遺跡	〃		1980
	史跡土井ヶ浜遺跡 遺構範囲確認調査	山口県教育委員会文化課	山口県教育委員会	
	茶臼山石棺群・大判石棺調査報告書	山口市教育委員会 社会教育課	山口市教育委員会	1978

分類	資料名	著・編者	発行	刊行年
210.3	山口市埋蔵文化財調査報告書 第8集 天神山古墳 第12集 神田山石棺	山口市教育委員会	山口市教育委員会	1979 1978
210.4	山口市埋蔵文化財調査報告書 第9集 大内氏館跡Ⅰ 大内氏遺跡調査概報Ⅰ 第11集 大内氏館跡Ⅲ 大内氏遺跡調査概報Ⅲ	山口市教育委員会	山口市教育委員会	1981 1981
	大内氏遺跡調査資料 史跡大内氏遺跡保存管理計画策定報告書	山口市教育委員会	山口市教育委員会	1981(1961) 1981
210.5	歴史の道調査報告書萩往還資料編	山口県教育委員会	山口県教育委員会	1981
210.61	維新の英傑木戸孝充 (木戸家寄贈資料披露展図録)	山口県立山口博物館	山口県立山口博物館	1981
217.7	山口昔語り 山口を訪れる友のために やまぐち人国記 小郡町史 長門市史	笹村速人 読売新聞山口支局 小郡町史編集委員会 長門市史編集委員会	条例出版 小郡町 長門市	1976 1979 1979
219.2	有田町猿川古窯跡第1部発掘調査概報	佐賀県教育庁社会教育課	佐賀県教育委員会	1970
219.7	川内川上流地区有形民俗資料調査報告書 薩摩地区有形民俗資料調査報告書	鹿児島県明治百年記念館 建設調査室 〃	同左 同左	1978 1979
253.073	北米日本人の収容所	久保貞次郎	叢文社	1981
280.3	増訂 日本仏家人名辞書	鷺尾順敬	東京美術	1979
280.3	姓氏家系大辞典 第一巻 ア～カ 第二巻 キ～ト 第三巻 ナ～ワ	太田亮	角川書店	1979(1963)
290.3	中国地名人辞典 世界地名人辞典 1964年版 日本分県地図地名総覧	竹之内安己 竹之内安己 人文社編集部	国書刊行会 国書刊行会 人文社	1979 1978 1964
3. 社会科学				
302	JAPANESE 国内版 Vol. 20	国際経済調査会	同左	1978
318.2	山口県勢要覧	山口県企画部統計課	山口県統計協会	1979
318.7	シンポジウム 文化施設と都市	福岡ユネスコ協会 都市問題研究会	同左	1973
372.1	鹿児島市の教育(昭和46年度版)	鹿児島市教育委員会	同左	1971
374.79	図解学校施設教具大事典	大串不二雄	東陽図書出版	1966
375.322	松陰読本	萩市教育委員会	山口県教育委員会	1980
383.9	民家のみかた 調べかた	太田博太郎	第一法規	1967
386.8	山口県指定無形民俗文化財 鷲流狂言 鷲の舞	山口市教育委員会	山口市教育委員会	1981 1981
4. 自然科学				
470	原色日本植物図鑑 (Ⅰ)草本編 合弁花類 (Ⅱ)〃 離弁花類 (Ⅲ)〃 単子葉類	北村四郎・村田源・堀 勝 北村四郎・村田源 北村四郎・村田源・小山鐵夫	保育社	1980(1957) 1980(1961) 1980(1964)

分類	資料名	著・編者	発行	刊行年
470	(I)木本編 (II)々	北村四郎・村田源		1980(1971) 1979
488.1	原色日本鳥類図鑑	小林桂助	保育社	1980(1956)
<b>5. 技術</b>				
520	建築学ポケットブック 建築のこころ	建築学ポケットブック 編集委員会 菊竹清訓	オーム社 井上書院	1971(1960) 1973
520.8	現代建築家シリーズ、フランク・ロイド ライト	渡辺鎮太郎・天野太郎	美術出版社	1970(1967)
521.8	山口の建築	山口県建築士会	同左	1979
<b>7. 芸術</b>				
701.1	街並みの美学	芦原義信	岩波書店	1979
702.098	仏教美術調査提要 京都篇	塚本善隆	仏教美術研究 上野記念財団	1972
702.1	日本美術史要説 日本の美術史	久野健・持丸一夫 保田與重郎	吉川弘文館 新潮社	1972(1954) 1970(1968)
702.16	新聞における美術批評の変遷 日本近代美術発達史	竹田道太郎 浦崎永錫	朝日新聞調査研究室 東京美術	1954 1974
	明治美術基礎資料集内国勸業博 覧会・展覧会編	東京国立文化財研究所美術部	東京国立文化財研究所	1975
	洋風美術家小伝	本多錦吉郎	報文社	
702.195	宇佐の美術工芸	八尋和泉		1979
702.2	東洋美術史綱 〈上〉 〈下〉	E・F・フェノロサ著・ 森東吾訳	東京美術	 1978 1981
702.2	東洋美術史要説 上巻	町田甲一・深井晋司	吉川弘文館	1971(1955)
702.3	西洋美術史要説 ドキュメント・リバティ百貨店 デ・スティール アール・デコ シュルレアリスム	嘉門安雄 アリソン・アドバーガム 愛甲建児訳 ポール・オブリー 由水常雄訳 ベヴィス・ヒリアー 西澤信彌訳 ロジャー・カーディナル ロバート・S. ショート 江原順訳	吉川弘文館 バルコ出版 バルコ出版 バルコ出版 バルコ出版	1972(1958) 1978 1978 1978 1979
	象徴派とデカタン派の美術	ジョン・ミルナー 吉田正俊訳	バルコ出版	1976
	London 1900	Alavaster Service	Granada	1979
	Phaidon encyclopedia of Impres- sionism	Maurice Sérullaz	Phaidon	1978
	Phaidon encyclopedia of Expres- sionism	Lionel Richard	Phaidon	1978
	Phaidon encyclopedia of Surrealism	René Passeron	Phaidon	1978
	Vienna Secession	R. Waissenberger	Academy Ed.	1977
	Paris 1900	F. Borsi 他	Rizzoli	1977
702.35	芸術の日本	サミュエル・ビング 大島清次 瀬木慎一他訳	美術公論社	1981
702.9	防府市文化財調査年報Ⅲ (1980)	防府市教育委員会	同左	1981

分類	資料名	著・編者	発行	刊行年
702.9	大分県近世美術(書・画) 所在調査報告書	大分県立芸術会館	同左	
	昭和52年度			1978
	昭和54年度			1980
	昭和55年度大分県出身作家調査報告書	大分県立芸術会館	同左	1981
	栃木県の美術	栃木県立美術館	同左	
703	INTERNATIONAL DIRECTORY OF ARTS (15 EDITION 1981/82)	ART ADRESS VERLAG MÜLLER	同左	1981
	I Museum and Gallery			
	II Art and Antique Dealers			
	Encyclopedia of Themes and Sub- jects in Painting	Howard Daniel	Thames and Hudson	1971
	International who's who in Art and Antiques	Ernest Key	St. Martin's Press	1976(1972)
	Who's who in the Theatre	Ian Herbert 他	Concise Sixteenth	1977(1912)
	Who's who in American Art	Anne Rhodes Anne Gammans	R. R. Bowker	1978
	Contemporary Artists	Colin Naylor 他	St. James Press	1977
	新版全国美術館ガイド	全国美術館会議	美術出版社	1979
	全国美術館ガイド	全国美術館会議	美術出版社	1981
	日本美術辞典	谷信一・野間清六	東京堂出版	1973(1952)
	西洋美術辞典	今泉篤男・山田智三郎	東京堂出版	1973(1954)
	美術鑑定辞典	谷信一・野間清六	東京堂出版	1973(1963)
	美術用語辞典	佐田 勝	造形社	1972
	文化財用語辞典	京都府文化財保護基金	第一法規	1977(1976)
	Dictionary of Twentieth Century Art	Morton C. Abromsom 他	PHAIDON	1977(1973)
703	Dictionnaire des Peintres Sculpteurs Dessinateurs et Graveurs	E. Bénézit	GRÜND	1976
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
703	Encyclopedia of World Art	Mario Salmi 他	McGraw-Hill Book Company	1972
	I			
	II			
	III			
	IV			
	V			
	VI			
	VII			
	VIII			
	IX			



分類	資 料 名	著・編 者	発 行	刊 行 年
703	X X I X II X III X IV X V			
703	フジテレビ製作・映画 ループル美術館ガイドブック	高階秀爾・水澤周	フジテレビジョン	1979
	国宝事典 新增補改訂版	文化庁	便利堂	1976
	原色版 国宝便覧 付・国宝所在地図	毎日新聞社	毎日新聞社	
	兵庫県美術家名簿（昭和48年版）	兵庫県立近代美術館	同左	1973
	芸術関係受賞者等一覧	文化庁文化部芸術課	文化庁	1971
	文展・帝展（明治40～昭和3）出品者一覧	文部省	佐藤正三商店	1927
	大正期主要在野美術団体展出品者一覧			1975
	'75美術名鑑		美術公論社	1975
	美術家名鑑		美術倶楽部	
	1974			1974
	1975			1975
	美術名典		芸術新聞社	
	昭和43年度版			1969
	昭和51年度版			1977
	昭和54年度版			1980
	昭和55年度版			1981
	国華索引	米沢嘉圃	国華社	1981
	日本・東洋／古美術文献目録 昭和11年～40年定期刊行物所載	美術研究所	中央公論美術出版	1977(1969)
	芸術・美術に関する 17年間の雑誌文献目録Ⅰ（昭23～39）	「雑誌文献目録」編集部	日外アソシエーツ	1981
	芸術・美術に関する 17年間の雑誌文献目録Ⅱ（ ）	「雑誌文献目録」編集部	日外アソシエーツ	1981
	芸術・美術に関する10年間の雑誌文献 目録（昭40～49）	「雑誌文献目録」編集部	日外アソシエーツ	1978
	第16回山口県芸術祭総覧	山口県教育委員会	山口県教育委員会	1979
703.8	国宝重要文化財総合目録 美術工芸品編	文化庁	第一法規	1980
	重要美術品等認定 物件目録	文化庁	思文閣	1972
703.8	全国公立美術館所蔵作品目録	文部省文化局文化課	同左	
	I 日本画			1967
	II 洋画			1967
	III 水彩・素描・彫刻・工芸			1969
	IV 版画			1970
	V 書			1971
	全国私立美術館所蔵作品作家別目録	文化庁文化部	同左	
	I 絵画			1973
	II 版画			1975
	III 彫刻			1976
	IV 工芸・書			1977
	全国公立美術館所蔵品作家別目録	文部省文化庁文化部 文化普及課	同左	
	I 日本画			1979

分類	資料名	著・編者	発行	刊行年
703.8	Ⅱ 洋画			1980
	Ⅲ 彫刻・工芸			1981
703.8	世界の美術館		講談社	1973
	1 ルーブル美術館	富永惣一		
	2 大英博物館	上野アキ・臼田亮子		
	3 ヴァティカン美術館	佐々木英也・長谷川三郎		
	4 ワシントン国立絵画館	木島俊介		
	5 プラド美術館	神吉敬三		
	6 東京国立博物館	飯島勇		
	7 ウフィツィ美術館	辻茂		
	8 ミュンヘン美術館	森洋子		
	9 アムステルダム美術館	中山公男		
	10 ウィーン美術館	前川誠郎		
	11 ボストン美術館	石澤正男		
	12 カイロ美術館	友部直		
	13 ロンドン国立絵画館	近藤不二		
	14 プレラ美術館	裾分一弘		
	15 メキシコ国立博物館	高山智博		
703.8	The Guggenheim Museum Collection Paintings 1880~1945	The Guggenheim Museum	同左	1976
703.8	ブリヂストン美術館収蔵作品目録	ブリヂストン久留米・石橋美術館	同左	1978
	福岡市美術館所蔵品目録	福岡市美術館	同左	1979
	九州の作家			
	日本作家・海外作家			
	黒田資料図録	福岡市美術館	同左	1979
	松永記念館図録	福岡市美術館	同左	1979
	群馬県立近代美術館所蔵品目録(洋画・彫刻)	群馬県立近代美術館	同左	1980
	白鶴美術館名品撰集	白鶴美術館	同左	
	ひろしま美術館 日本編	ひろしま美術館	日動出版部	1978
	広島県立美術館所蔵作品集	広島県立美術館	同左	1978
	北海道立三岸好太郎美術館所蔵品目録	北海道立三岸好太郎美術館	同左	1981
	北海道立近代美術館所蔵品目録	北海道立近代美術館	同左	1978
	兵庫県立近代美術館	兵庫県立近代美術館	同左	1980
	館蔵品目録			
	所蔵作品図録			
	石橋美術館作品解説 近代日本洋画篇	石橋美術館	同左	
	石橋美術館	石橋美術館	同左	1979
	石川県美術館所蔵品目録	石川県美術館	同左	1979
	逸翁美術館 名品図録	逸翁美術館	同左	1980
	昭和55年度いわき市新収蔵作品展図録	いわき市文化センター	同左	1981
	香川県文化会館蔵品目録	香川県文化会館	同左	1976
	鹿児島市立美術館所蔵品目録(洋画)	鹿児島市立美術館	同左	1980
	〃 目録(〃)	鹿児島市立美術館	同左	1979
	収蔵品展目録	鹿児島市立美術館	同左	1979
	近代絵画資料目録(五姓田義松作品集)	神奈川県立近代美術館	同左	1980
	北九州市立美術館新収蔵品展図録	北九州市立美術館	同左	

分類	資料名	著・編者	発行	刊行年
703.8	昭和53年度			1979
	昭和54年度			1981
	熊本県立美術館所蔵品目録 1980	熊本県立美術館	同左	1981
	京都市美術館蔵品目録	京都市美術館	同左	1977
	京都市立美術大学蔵品聚英	京都市立美術大学	八宝堂	1969
	上			
	下			
	救世熱海美術館名宝展図録	救世熱海美術館	京都国立博物館 救世熱海美術館 日本経済新聞社	1979
	長崎県立美術博物館収蔵資料目録	長崎県立美術博物館	同左	
	1			1976
	2			1977
	3			1978
	4			1979
	長崎県立美術博物館所蔵品目録	長崎県立美術博物館	同左	1979
	根津美術館名品目録	根津美術館	同左	1978
	西宮市大谷記念美術館所蔵品図録	西宮市大谷記念美術館	同左	1980
	蔵品図録	奈良県立美術館	同左	
	第一集 浮世絵版画篇			1977
	第三集 由来コレクション篇			1981
	大原美術館		大原美術館	
	I 西洋の近代絵画と彫刻	黒江光彦		
	II 現代絵画と彫刻	大岡信・岡田隆彦		
	III 日本の洋画	小倉忠夫		
	IV 古代エジプトと中近東の美術			
	VI 東洋の美術			
	VII 児島虎次郎			
	図録 大原美術館	財団法人大原美術館	平凡社	1981
	岡山美術館名品選	岡山美術館	同左	1973(1963)
	岡山市立オリエント美術館	岡山市立オリエント美術館	同左	1979
	埼玉県立博物館展示解説		埼玉県立博物館	
	古美術	沢田利一・林宏一 他		1978
	歴史II	江袋文男・木村進 他		1980
	昭和55年度特別展 埼玉の指定文化財展美術工芸品	埼玉県立博物館	同左	1980
	静嘉堂所蔵 茶器図録	静嘉堂文庫	便利堂	
	第2集			1978
	第3集			1979
	第4集			1980
	雙軒庵美術集成図録	外狩素心庵	九州電気軌道	
	高輪美術館 蔵品目録	高輪美術館	同左	1971
	東洋の陶磁 東洋陶磁展記念図録	東京国立博物館	同左	1971
	東京都美術館 所蔵品集I・II	東京都美術館	同左	1973
	東京芸術大学所蔵名品展 創立90周年記念	東京芸術大学・東京国立博物館	同左	1977
	東京芸術大学蔵品図録	東京芸術大学	第一法規出版	
	彫刻			1977

分類	資料名	著・編者	発行	刊行年
703.8	工芸			1979(1978)
	絵画Ⅱ			1979(1976)
	絵画Ⅲ			1979
	山梨県立美術館蔵品抄 開館記念図録	山梨県立美術館	同左	1978
	和歌山県立近代美術館所蔵品目録Ⅰ	和歌山県立近代美術館	同左	1980
	赤間神宮	水野久直	赤間神宮社務所	1978
	福岡県歴史資料調査報告書	福岡県文化会館	同左	
	2 安国山聖福寺所蔵品目録			1979
	3 天目山幻住庵所蔵品目録			〃
	5 海晏山興徳寺所蔵品目録			1980
	6 神護山光明寺所蔵品目録			〃
	7 瑞松山円覚寺所蔵品目録			〃
	8 見湖山徳門寺所蔵品目録			〃
	9 成壇院所蔵品目録			〃
	10 万松山承天寺塔頭			〃
本妙寺歴史資料調査報告書古文書篇 美術工芸品篇	熊本県立美術館	同左	1981	
正倉院展目録	奈良国立博物館	同左	1978	
日赤美術品集	日本赤十字社	同左	1979	
蒐	山本泰蔵	山本総業 K K 美術部	1981	
704	日本美術随想	脇本楽之軒	新潮社	1973(1966)
	美術に近づく道	久保貞次郎	黎明書房	1979(1968)
	今日の美術と明日の美術	滝口修造	読売新聞社	1954
	わたしの出会った芸術家たち	久保貞次郎	形象社	1978
705	美術年鑑		美術年鑑社	
	昭和50年度版			1975
	昭和51年度版			1976
	昭和53年度版			1978
	昭和54年度版			1979
	昭和55年度版			1980
	昭和56年度版			1981
705	日本美術年鑑	東京国立文化財研究所美術部	東京国立文化財研究所	
	昭和28年版			1954
	昭和29年版			1955
	昭和30年版			1956
	昭和31年版			1957
	昭和32年版			1958
	昭和33年版			1959
	昭和34年版			1960
	昭和35年版			1961
	昭和36年版			1962
	昭和37年版			1963
	昭和38年版			1964
	昭和39年版			1965
	昭和40年版			1966
昭和41年版			1967	
昭和42年版			1968	

分類	資料名	著・編者	発行	刊行年	
705	昭和43年版			1969	
	昭和44年版			1970	
	昭和45年版			1971	
	昭和46年版			1972	
	昭和47年版			1973	
	昭和48年版			1974	
	昭和49・50年版			1976	
	昭和52年版			1979	
	昭和54年版			1981	
	日本美術年鑑 1927	坂崎坦	東京朝日新聞発行所	1927	
	日本美術年鑑 昭和12年版	美術出版社	同左	1937	
705	東京美術市場史	東京美術研究所	東京美術倶楽部	1979	
	東京国立文化財研究所 20年のあゆみ	関野克	東京国立文化財研究所	1973	
	東京国立博物館百年史	東京国立博物館	第一法規出版	1973	
	東京美術学校の歴史	桑原貴(監修)磯崎康彦・吉田干鶴子	日本文教出版	1977	
	日動画廊 50年史	長谷川徳七	日動画廊	1977	
	石川県立美術館 12年のあゆみ	石川県立美術館	同左	1972	
	大阪市立美術館 20年史	大阪市立美術館	同左	1956	
706	女子美術大学80年史	女子美術大学	同左	1980	
	日本美術院史	斎藤隆三	中央公論美術出版	1974	
	続日本美術院史	竹田道太郎	中央公論美術出版	1976	
	行動美術35年の小史	向井潤吉・難波香久三	行動美術協会	1980	
	モダンアート協会30年史	モダンアート協会	同左	1980	
	日展史 文展編	日展史編集委員会	社会法人 日展		
		1			1980
		2			〃
		3			〃
		4			1981
	5			〃	
706	昭和44年度 熊本県立美術館建設調査報告書	熊本県総務部文書文教課	同左	1970	
	昭和52年度 博物館利用促進研究協議会研究協議のまとめ	千葉県教育庁文化課	同左	1977	
	昭和52年度 文化振興会議報告書	文化庁文化部文化普及課	同左	1979	
	第28回全国博物館大会報告書	日本博物館協会	同左	1981	
706.9	エキビジョン・ディスプレイ展示の科学	古田昭作	学習研究所	1969	
	美術館 新しいミュージアロジーの視点から	長谷川栄	グラフィック社	1977	
	美術館・美術館学	長谷川栄	至文堂	1981	
707	色彩の扱いかた	井手則雄	生活百科刊行会	1954	
	昭和56年度中学校美術科教科書 少年の美術	佐藤忠良	現代美術社	1981	
	古美術品材料の科学	登石健三	第一法規	1979	
	古美術品保存の知識	登石健三	第一法規	1971(1970)	
708	韓国美術全集		韓国同和出版社		
	1 原始美術	金元龍		1974	
	2 古墳美術	韓炳三		1975	
	3 土器・土偶・瓦埴	秦弘燮		1974	

分類	資 料 名	著・編 者	発 行	刊 行 年	
708	4 壁画	金元龍		1974	
	5 仏像	黄壽永		〃	
	6 石塔	黄壽永		〃	
	7 石造	鄭永鎬		〃	
	8 金属工芸	秦弘燮		〃	
	9 高麗陶磁	雀淳雨		1975	
	10 李朝陶磁	鄭良謨		1973	
	11 書芸	任昌淳		1975	
	12 絵画	雀淳雨		1974	
	13 木漆工芸	雀淳雨・鄭良謨		1974	
	14 建築	金正基		1975	
	15 近代美術	李慶成		1975	
	708	韓国美術シリーズ		近藤出版社	
		1 武寧王陵	金元龍		1979
		2 韓国の石仏	秦弘燮		〃
	3 韓国の石塔	鄭永鎬		〃	
	4 韓国の長柱	李相日		1981	
	5 韓国の古建築	金正基		〃	
	6 韓国の書芸	任昌淳		〃	
708	漢代の美術	大阪市立美術館	平凡社	1975	
	六朝の美術	〃	〃	1976	
	隋唐の美術	〃	〃	1978	
	宋元の美術	〃	〃	1980	
708	岡倉天心全集	岡倉天心	平凡社		
	第一巻 主要著作			1980	
	第二巻 評論・講演			〃	
	第三巻 評論・講演			〃	
	第四巻 美術史			〃	
	第五巻 日記・旅行日誌			1979	
	第六巻 書簡Ⅰ			1980	
	第七巻 書簡Ⅱ・詩			1981	
	第八巻 ノート・雑纂			〃	
別巻 年譜・資料			〃		
708	原色日本の美術		小学館		
	1 原始美術	斉藤忠・吉川逸治		1975	
	2 法隆寺	久野健・鈴木嘉吉		〃	
	3 奈良の寺院と天平彫刻	浅野清・毛利久 他		1969	
	4 正倉院	土井弘		1975	
	5 密教寺院と貞観彫刻	倉田文作		〃	
	6 阿弥陀堂と藤原彫刻	工藤圭章・西川新次		〃	
	7 仏画	高田修・柳沢孝		〃	
	8 絵巻物	秋山光和		〃	
	9 中世寺院と鎌倉彫刻	伊藤延男・小林剛		1974	
	10 禅寺と石庭	太田博太郎・松下隆章 他		1975	
	11 水墨画	田中一松・米沢嘉圃		〃	
	12 城と書院	藤岡通夫		〃	
13 障屏画	武田恒夫		〃		

分類	資 料 名	著・編 者	発 行	刊 行 年
708	14 宗達と光琳	山根有三		1975
	15 桂離宮と茶室	川上貢・中村昌生		〃
	16 神社と靈廟	稲垣栄三		〃
	17 浮世絵	菊地貞夫		〃
	18 南画と写生画	吉沢忠・山川武		〃
	19 陶芸	田中作太郎・中川千咲		〃
	20 染織・漆工・金工	山辺知行・岡田譲 他		〃
	21 甲冑と刀剣	尾崎元春・佐藤寒山		〃
	22 書	堀江知彦		〃
	23 面と肖像	亀田 攻・田辺三郎助 他		〃
	24 風俗画と浮世絵師	山根有三・鈴木重三 他		〃
	25 南蛮美術と洋風画	坂本 満・菅瀬 正 他		〃
	26 近代の日本画	河北倫明		〃
	27 近代の洋画	高階秀爾		〃
	28 近代の建築・彫刻・工芸	神代雄一郎・本間正義 他		〃
	29 請来美術(絵画・書)	米沢嘉圃・中田勇次郎		〃
	30 請来美術(陶芸)	長谷部楽爾		〃
708	原色近代日本の美術		小学館	
	1 近代の胎動	坂本 満		1980
	2 日本美術院	小林 忠		1979
	3 京都画壇	内山武夫		1978
	4 東京画壇	細野正信		〃
	5 日本の印象派	陰里鉄郎		1977
	6 大正の個性派	匠 秀夫		1978
	7 近代洋画の展開	富山秀男		1979
	8 前衛絵画	浅野 徹		1978
	9 現代の日本画	河北倫明		1980
	10 現代の洋画	土方定一		〃
	11 版画	小倉忠夫		1978
	12 文人画と書	河北倫明・堀江知彦		1979
	13 彫刻	三木多聞		〃
	14 工芸	鈴木健二		1980
	15 陶芸(1)	鈴木健二		1978
	16 陶芸(2)	乾 由明		1979
	17 建築	神代雄一郎		〃
	18 明日の美術	乾 由明 他		1980
708	重要文化財	毎日新聞「重要文化財」 委員局	毎日新聞	
	1 彫刻Ⅰ 木造如来 1			1972
	2 彫刻Ⅱ 如来 2・菩薩 1			1973
	3 彫刻Ⅲ 菩薩 2・明王			〃
	4 彫刻Ⅳ 木造天			1974
	5 彫刻Ⅴ 木造・神像・肖像 他			〃
	6 彫刻Ⅵ 金属造他 外国作品			1975
	7 絵画Ⅰ 仏画			1973
	8 絵画Ⅱ 仏画			〃
	9 絵画Ⅲ 大和絵			1974

分類	資	料	名	著・編者	発行	刊行年		
708		10	絵画Ⅳ 水墨画			〃		
		11	絵画Ⅴ 近世絵			1975		
		12	建造物Ⅰ			1973		
		13	建造物Ⅱ			〃		
		14	建造物Ⅲ			1974		
		15	建造物Ⅳ			〃		
		16	建造物Ⅴ			1975		
		17	建造物Ⅵ			〃		
		18	書籍・典籍・古文書Ⅰ			1976		
		19	書籍・典籍・古文書Ⅱ			〃		
		20	書籍・典籍・古文書Ⅲ			1977		
		21	書籍・典籍・古文書Ⅳ			〃		
		22	書籍・典籍・古文書Ⅴ			〃		
		23	書籍・典籍・古文書Ⅵ			〃		
		24	工芸品Ⅰ			1976		
		25	工芸品Ⅱ			〃		
		26	工芸品Ⅲ			1977		
		27	工芸品Ⅳ			〃		
		28	考古Ⅰ			1976		
		29	考古Ⅱ			〃		
		30	補遺			1977		
			別巻Ⅰ	像内納入品			1978	
			別巻Ⅱ	像内納入品			〃	
	702	原色版		国宝	文化庁	毎日新聞	1976	
			1	上古・飛鳥・奈良Ⅰ				
			2	上古・飛鳥・奈良Ⅱ				
			3	平安Ⅰ				
			4	平安Ⅱ				
			5	平安Ⅲ				
			6	平安Ⅳ				
7			鎌倉Ⅰ					
8			鎌倉Ⅱ					
9			鎌倉Ⅲ					
10			鎌倉Ⅳ					
11			南北朝・室町					
解説版			新指定重要文化財	「重要文化財」編纂委員会				毎日新聞
			1) 絵画Ⅰ					1980
			3) 彫刻					1981
	4) 工芸品Ⅰ		〃					
	7) 書跡		〃					
	10) 考古資料		〃					
	11) 建物造Ⅰ		〃					
	新指定重要文化財		〃					
709		文化と行政	安嶋 彌	第一法規	1978			
		昭和45.6年地方芸術文化行政 状況調査報告書	文化庁文化部文化普及課	文化庁文化部	1972			
		昭和49年	〃	〃	〃	1976		



分類	資料名	著・編者	発行	刊行年
709	昭和50年 文化財(美術工芸品)取扱いの手引き 千葉県の文化行政	文化庁文化財保護部 千葉県教育庁文化課	〃 同左	1976 1978
709.173	島根県の文化	島根県教育委員会	〃	1978
709.177	ふるさとの文化財 山口県文化財第6号	NHK山口放送局・ 下関放送局 山口県文化財愛護協会 事務局	同左 山口県文化財愛護協会	1981 1976
	〃 一覧	山口県教育委員会	同左	1977
	〃 地図・付録	〃	〃	1979
	〃 総覧	〃	〃	1979
	文化財要録 追録	〃	〃	1981
	重要文化財熊谷家住宅修理工事報告書	文化財建造物保存協会	熊谷美術館	1980
709.191	北九州の文化財	北九州市教育委員会	同左	1976
710	作品集「山口勝弘」360。	山口勝弘	六耀社	1981
712.1	英彦山資料解説 美術資料 彫刻・絵画 求菩提山資料解説 美術資料 彫刻・絵画	八尋和泉・錦織亮介 〃	北九州市立歴史博物館 〃	1979 1979
	対馬の仏像	八尋和泉	西日本文化協会	1978
713	名工左甚五郎の一生	左 光拳	名工顕彰会	1971
714	IL MARMO MATERIA E CULTURA		Sagep Editrice Genova	1978
715	EMILIO GRECO 中野四郎作品集	LEONARDO SCIASCIA	'IL CIGNO' EDIZIONI D'ARTE	1971
718	日本美術院彫刻等修理記録 Ⅱ 図解 Ⅱ 解説 Ⅲ 図解 Ⅲ 解説 Ⅳ 図解 Ⅳ 解説 Ⅴ 図解 Ⅴ 解説 Ⅵ 図解 Ⅵ 京都1 解説 Ⅶ 図解 Ⅶ 京都2 解説	奈良国立文化財研究所	同左	1976 〃 1977 〃 1978 〃 1979 〃 1980 〃 〃
720.8	日本の名画 1 雪舟等揚 4 俵屋宗達 5 尾形光琳 6 円山応挙 7 池 大雅 8 与謝蕪村 9 浦上玉堂 10 喜多川歌麿 11 葛飾北斎 12 歌川広重	中島純司 水尾比呂志 河野元昭 山川 武 小林 忠 安東次男 鈴木進 小林忠 辻惟雄 岡畏三郎	講談社	1975(1973) 1973 1975(1973) 1975(1973) 1974(1973) 1974 1974(1973) 1974(1972) 1974 1975(1974)

分類	資料名	著・編者	発行	刊行年
720.8	13 東州斎写楽	榑崎宗重		1974(1972)
	14 富岡鉄斎	富岡益太郎		1975(1974)
	15 竹内栖鳳	倉田公裕		1975(1973)
	16 横山大観	吉沢忠		1975(1974)
	17 菱田春草	細野正信		1974(1973)
	18 上村松園	内山武夫		1975(1973)
	19 鐮木清方	竹田道太郎		1974(1973)
	20 小林古径	河北倫明		1974(1973)
	21 土田麦僊	弦田平八郎		1974(1973)
	22 竹久夢二	長田幹雄		1975(1972)
	23 村上華岳	河北倫明		1974
	24 徳岡神泉	岩崎吉一		1974(1973)
	25 安田靉彦	水沢澄夫		1974
	26 前田青邨	飯島勇		1974(1973)
	27 福田平八郎	今泉篤男		1974
	28 東山魁夷	吉村貞司		1975(1972)
	29 杉山寧	小川正隆		1975(1974)
	30 黒田清輝	隈元謙次郎		1974(1972)
	31 藤島武二	岡畏三郎		1974(1972)
	34 萬鉄五郎	陰里鉄郎		1974(1973)
	35 鳥海青児	土方定一		1974
	36 小出楯重	匠秀夫		1974(1672)
	37 中村彝	鈴木秀枝		1974(1972)
	38 安井曾太郎	原田実		1974(1973)
	39 岸田劉生	東珠樹		1974
	40 長谷川利行	小倉忠夫		1974(1973)
	41 国吉康雄	富山秀雄		1974
	42 佐伯祐三	高階秀爾		1974(1972)
	43 関根正二	土方定一		1974
	44 鏗光	宮川寅雄		1974(1973)
	45 海老原喜之助	松下博		1974
	46 梅原龍三郎	益田義信		1974(1973)
	47 岡鹿之助	大岡信		1975(1973)
	48 林武	小川正隆		1973
	49 棟方志功	本間正義		1974(1972)
	50 浜口陽三	乾由明		1974(1973)
720.8	日本の名画		中央公論社	
	1 狩野芳崖	細野正信 他		1976
	2 高橋由一	青木茂 他		1976
	4 竹内栖鳳	内山武夫 他		1977
	5 黒田清輝	陰里鉄郎 他		1975
	6 藤島武二	酒井忠康 他		1976
	7 横山大観	鈴木進 他		1976
	8 菱田春草	小池賢博・石割悠子 他		1977
	9 上村松園	馬場京子 他		1975
	10 鐮木清方	小林忠 他		1975
	11 坂本繁二郎	岩崎吉一 他		1976

分類	資料名	著・編者	発行	刊行年	
720.8	12 青木繁	大島清次 他		1975	
	13 小林古徑	飯島勇 他		1976	
	14 安田鞞彦	久富貢 他		1976	
	15 前田青邨	桑原住雄 他		1977	
	16 川端龍子	佐々木直比古 他		1976	
	17 小出楯重	増田洋 他		1976	
	18 梅原龍三郎	小倉忠夫 他		1977	
	19 村上華岳	木村重圭 他		1975	
	20 須田国太郎	乾由明 他		1976	
	21 岸田劉生	富山秀男 他		1976	
	22 福田平八郎	弦田平八郎 他		1976	
	23 佐伯祐三	匠秀夫 他		1975	
	24 岡鹿之助	三木多聞 他		1977	
	25 東山魁夷	本間正義 他		1977	
	26 杉山寧	小川正隆 他		1977	
	720.8	水墨美術大系		講談社	
		1 白描画から水墨画への展開	田中一松・米澤嘉圃		1978
		2 李唐・馬遠・夏珪	鈴木敬		1979
		3 牧谿・玉潤	戸田禎佑		〃
		4 梁楷・因陀羅	海老根聡郎・戸田禎佑・川上涇		1977
		5 可翁・默庵・明兆	田中一松		1979
		6 如拙・周文・三阿弥	松下隆章・玉村竹二		1978
		7 雪舟・雪村	田中一松・中村溪男		1979
		8 元信・永徳	土居次義		〃
		9 等伯・友松	武田恒夫		1978
		10 光悦・宗達・光琳	山根有三		〃
	11 八大山人・揚州八怪	米澤嘉圃・鶴田武良		〃	
	12 大雅・蕪村	飯島勇・鈴木道		1979	
	13 玉堂・木米	吉澤忠		1978	
	14 若沖・蕭白・蘆雪	小林忠・山川武・辻惟雄		1979	
	15 近代の墨絵	河北倫明		1978	
	別巻第1 日本の南画	吉澤忠		1976	
	2 李朝の水墨画	松下隆章・雀淳雨		1977	
721	日本屏風絵集成		講談社		
	第1巻 屏風絵の成立と展開	武田恒夫・山根有三 他		1978	
	山水画 第2巻 水墨山水	吉澤忠・衛藤駿 他		〃	
	山水画 第3巻 南画山水	吉澤忠・河野元昭		1979	
	人物画 第5巻 大和絵系人物	山根有三・辻惟雄・信多純一 他		〃	
	花鳥画 第6巻 花木・花鳥	辻惟雄・中島純司 他		1978	
	花鳥画 第7巻 四季草花	山根有三・中島純司 他		1980	
	花鳥画 第8巻 花鳥・山水	山川武・星野鈴・松尾勝彦 他		1978	
	景物画 第9巻 四季景物	武田恒夫・村重寧		1977	
	景物画 第10巻 名所景物	武田恒夫・千野香織 他		1980	
	風俗画 第11巻 洛中洛外	武田恒夫・辻惟雄 他		1978	
	風俗画 第12巻 公武風俗	辻惟雄・仲町啓子 他		1980	
	風俗画 第13巻 祭礼・歌舞伎	武田恒夫・守屋毅 他		〃	

分類	資料名	著・編者	発行	刊行年
721	風俗画 第14巻 遊楽・誰カ袖	武田恒夫・小林忠 他		1977
	風俗画 第15巻 南蛮風俗	坂本満・グレイス・A・H・フラム 他		1979
	走獸画 第16巻 龍虎・猿猴	中村溪男・吉田光邦 他		1978
	近代の屏風 第17巻 近代の屏風別巻	吉澤忠・原田平作 他		1979
		武田恒夫・南谷敬・瀬尾貴美子 他		1981
721	日本美術絵画全集		集英社	
	1 可翁・明兆	金沢弘		1977
	2 如拙・周文	松下隆章		1979
	3 曾我蛇足	源豊宗		1980
	4 雪舟	中村溪男		1976
	5 土佐光信	吉田友之		1979
	6 相阿弥・祥啓	衛藤俊		1979
	7 狩野正信・元信	山岡泰造		1978
	8 雪村	亀田弘		1980
	9 狩野永徳・光信	土井次義		1978
	10 長谷川等伯	中島純司		1979
	11 友松・等顔	河合正朝		1979
	12 狩野山楽・山雪	土居次義		1976
	13 岩佐又兵衛	辻惟雄		1980
	14 俵屋宗達	源豊宗・橋本綾子		1976
	15 狩野探幽	武田恒夫		1978
	16 守景・一蝶	小林忠・榊原悟		1978
	17 尾形光琳	河野元昭		1976
	18 池大雅	鈴木進・佐々木承平		1979
	19 与謝蕪村	吉沢忠		1980
	20 浦上玉堂	脇田秀太郎		1978
	21 木米・竹田	佐々木剛三		1977
	23 若冲・蕭白	辻惟雄 他		1977
	24 渡辺華山	鈴木道・尾崎正明 他		1977
	25 司馬江漢	成瀬不二雄		1977
721	在外 日本の至宝	日本アートセンター	毎日新聞社	
	2 絵巻物			1980
	3 水墨画			1979
	4 障屏画			1980
	5 琳派			1979
	6 文人画・諸派			1980
721	京都の意匠—江戸中期の花鳥 1	佐々木丞平	学習研究社	1981
	国宝重要美術 桃山屏風大観	小川一之	山口新聞社	1975
721.02	大日本書畫名家大鑑		第一書房	1975
	傳記上編	荒木矩		
	傳記下編	荒木矩		
	索引編	荒木矩		
	落款印譜編	国民文庫刊行会		
	増訂古畫備考	朝岡興禎	思文閣	1970
	首巻索引			

分類	資料名	著・編者	発行	刊行年
721.02	卷上 卷中 卷下 古畫備考五十音別索引 日本畫家辞典 落款篇 人名篇 扶桑名畫傳 日本絵画論大系 I II III IV V	辻惟雄・中島純司 沢田章  堀直格 坂崎坦	思文閣 大学堂書店  名著普及会 名著普及会	1970 1974(1927)  1979 1980
721.1	新纂佛像図鑑 上巻 下巻	国訳秘密儀軌編局	第一書房	1976(1971)
721.2	冷泉為恭	東京国立博物館	同左	1979
721.3	雪舟	東京国立博物館	便利堂	1956
721.4	探幽縮図 上 下	京都国立博物館	同朋舎	1980 1981
721.6	京都画壇江戸末・明治の画人たち	京都市美術館	アート社出版	1977
721.7	讃岐金刀比羅宮の障壁画	土居次義	マリア書房	1974
721.8	浮世絵大系 1 師宣 2 春信 3 春章 4 清長 5 歌麿 6 歌麿・栄之 7 写楽 8 北斎 9 豊国 10 国貞・国芳・英泉 11 広重 12 清親 13 富嶽三十六景 14 東海道五拾三次 15 木曾街道六拾九次 16 名所江戸百景(一) 17 〃 (二)	檜崎宗重 小林忠 檜崎宗重 岡畏三郎 菊地貞夫 菊地貞夫 山口桂三郎 岡畏三郎 鈴木重二 鈴木重二 山口桂三郎 高橋誠一郎・吉田漱 小林忠 吉田漱 菊地貞夫 宮尾しげを 宮尾しげを	集英社	1976(1974) 1976(1973) 1975(1974) 1975 1976(1973) 1976(1973) 1976(1973) 1976(1974) 1975 1975(1974) 1975(1974) 1975(1974) 1976(1975) 1976(1975) 1975 1976 1976
721.9	皇居造営下絵 彩管六十年「上村松篁自選展」 高島北海画集 鉄斎	細野正信 原田平作・内山武夫 日本経済新聞社 清荒神清澄寺	京都書院 朝日新聞社  同左	1977 1981 1976 1964

分類	資 料 名	著・編 者	発 行	刊 行 年
721.9	鐵齋・清荒神清澄寺	清荒神清澄寺	便利堂	1964
	幕末の絵師 若き日の狩野芳崖	桂英澄	新人物往来社	1972
	麻田剛立 福田平八郎	大分県教育委員会	同左	1976
	暁斎	暁斎研究会会誌編集委員	河鍋暁斎記念館	1980
	美人画百年	福富太郎	グラフ社	1977
	寫山要訣	高島得三	東陽堂支店	1903
	柏陰主人 題畫集			
	汲古山泉画冊	田中柏陰		
	桂月山人	添田達嶺	睦月社	1965
	松林桂月	難波専太郎	美術探究社	1958
	桂月印譜	桂月松林篤	桂月会日下部徳丸	1957
	桜雲洞詩鈔	桂月松林篤	桂月会日下部徳丸	1957
	桜雲洞画譜	松林桂月	古今堂	1936
	桂月山人画集	松林篤	大塚毅夫	1957
	桂月山人画集	松林篤	大塚巧芸社	1957
	菱田春草	菱田春夫	大日本絵画巧芸美術	1976
	菱田春草・続	菱田春夫	大日本絵画巧芸美術	1978
	福田翠光 遺作集	福田翠光遺作集刊行会	光琳社	1978
	福田翠光 鷹十題展図録	福田翠光		1967
	日本花鳥画 3 昭和編 I	細野正信 他	京都書院	1981
	雑艸 狩野光雅資料			
	狩野光雅画集			
	木田画譜 四君子 山水樹木 草蟲花鳥図	藤本木田	木田会	1973
柏陰畫牘	柏陰翁一週年記念追悼会	便利堂	1935	
722.2	和林格爾漢墓壁画	内モンゴル自治区 博物館文物工作人編	文物出版社	1978
	石濤八大山人	永原織治	圭文館	1961
	中國畫論の展開 宋元晋唐編	中村茂夫	中山文華堂	1965
	校本歴代名畫記	谷口鉄雄	中央公論美術出版	1981
723	世界の巨匠シリーズ		美術出版社	
	マチス	JOHN JACOBUS 島田紀夫 (訳)		1980(1975)
	デュフィ	ALFRED WERNER 小倉忠夫 (訳)		1980(1972)
	モンドリアン	HANS L.C.JAFFE 乾 由明 (訳)		1980(1971)
	ティツィアーノ	DAVID ROSAND 久保尋二 (訳)		1978
	アングル	ROBERT ROSENBLUM 中山公男 (訳)		1977(1970)
	ピカソ	HANS L.C.JAFFE 高見堅志郎 (訳)		1980(1965)
	ルオー	PIERRE COURTHION 中山公男 (訳)		1980(1976)
	ロートレック	DOUGLAS COOPER 黒江光彦 (訳)		1980(1962)
	ゴッホ	MAYER SCHAPIRO 黒江光彦 (訳)		1980(1963)
	ミケランジェロ	FREDERICK HARTT 大島清次 (訳)		1975(1965)

分類	資 料 名	著・編 者	発 行	刊 行 年
723	ゴーガン	ROBERT GOLDWATER 嘉門安雄 (訳)		1980(1961)
	マグリット	A. M. HAMMACHER 高橋康也 (訳)		1976(1975)
	ルノワール	WALTER PACH 富山秀男 (訳)		1980(1964)
	レジェ	WERNER SCHMALEN BACH 八重樫春樹 (訳)		1978
	ドーミエ	ROBERT REY 大島清次 (訳)		1977(1969)
	ゴヤ	JOSÉ GUDIOL 瀬戸慶久 (訳)		1975(1966)
	ダリ	ROBERT DESCHARNES 大島辰雄 (訳)		1980(1977)
	ベラスケス	MAURICE SÉRULLAZ 雪山行二・山梨俊夫(訳)		1980
	ラファエルロ	JAMES H. BECK 若桑みどり (訳)		1979(1976)
	ドガ	DANIEL C. RICH 宮本三郎・松山恒見(訳)		1980(1961)
	ボナール	ANDRE FERMIGIER 木島俊介 (訳)		1981(1969)
	クレー	WILL GROHMANN 井村陽一 (訳)		1980(1967)
	コンスタブル	JOHN WALKER 阿部信雄 (訳)		1979
	ピサロ	JOHN REWALD 平次悦郎 (訳)		1980(1968)
	マネ	PIERRE COURTHION 千足伸行 (訳)		1980(1968)
	レオナルド・ダ・ビンチ	JACK WASSERMAN 三神弘彦 (訳)		1976(1975)
	モディリアニ	ALFRED WERNER 宇佐見英治 (訳)		1980(1967)
	エル・グレコ	LEO BRONSTEIN 瀬戸慶久 (訳)		1977(1969)
	ブリュッゲル	WOLFGANG STECHOW 西村規矩夫 (訳)		1976(1672)
	プッサン	WALTER FRIEDLAENDER 若桑みどり (訳)		1976(1970)
	スルバラン	JONATHAN BROWN 神吉敬三 (訳)		1976
	セザンヌ	MAYER SCHAPIRO 黒江光彦 (訳)		1980(1962)
	ムンク	THOMAS M. MESSER 匠秀夫 (訳)		1980(1974)
	モネ	WILLIAM C. SEITZ 辻邦生・井口濃 (訳)		1980(1968)
	スーチン	ALFRED WERNER 本江邦夫 (訳)		1978
	コロー	MADELEINE HOURS 田中淳一 (訳)		1980(1974)
	ヴェイヤー	STUART PRESTON 木島俊介 (訳)		1980(1974)
	デューラー	H. T. MUSPER 千足伸行 (訳)		1976(1969)
	ターナー	JOHN WALKER 千足伸行 (訳)		1977

分類	資料名	著・編者	発行	刊行年
723	ボッス	CARL LINFERT 西村規矩夫・岡部紘三(訳)		1976
	スーラ	PIERRE COURTHION 池上忠治(訳)		1979(1969)
	レンブラント	LUDWIG MUNZ 八代修次(訳)		1978(1976)
	シャガール	WERNER HAFTMANN 酒井忠康(訳)		1980(1976)
	ブラック	RAYMOND COGNAT 山梨俊夫(訳)		1980
	ドラクロワ	MAURICE SÉRULLAZ 高島正明(訳)		1977(1973)
	ミケランジェロ彫刻	FREDERICK HARTT 久保尋二(訳)		1977(1973)
	◇ 素描 I	◇		1976(1973)
	◇ 素描 II	◇		1976(1975)
	エミール・ノルデ	WERNER HAFTMANN 宝木範義・大高保二郎		1975(1970)
	フォーヴィズム	GASTON DIEHL 渡辺康子(訳)		1979
	印象派	PIERRE COURTHION 山梨俊夫(訳)		1979
	別巻 ドイツ・ロマン派	HUBERT SCHRADE 本江邦夫(訳)		1980
	◇ シュールレアリズム	U.M SCHNEEDE 山脇一夫(訳)		1980
	◇ 現代美術の歴史	SAM HUNTER 他 千足伸行(訳)		1979
723.06	現代の絵画		平凡社	
	1 フランス印象派	アルベルト・マルティエニ著 久保尋二・千田剛		1976
	2 印象派の画家たち	アンナ・マリア・ダミジェ ルラ著池上忠治・中江彬訳		1974
	3 セザンヌと後期印象派	アルベルト・マルティエニ著 富永惣一訳		1974
	4 ラファエル前派	レナード・バリルリ著 高階秀爾訳		1974
	5 ロートレック とキャバレーのパリ	ジャック・ラセーニ著 宇佐見英治訳		1975
	6 フランスにおける象徴主義	レナード・バリルリ著 宮川淳訳		1974
	7 19世紀の夢と幻想	ジュリアーノ・ブリガン ディ著 高階秀爾訳		1978(1973)
	8 ボナールとナビ派	レナータ・ネグリ著 若桑みどり訳		1974
	9 ユトリロとモンマルトル	ピエール・クールティオン著 粟津則雄訳		1974
	10 モディリアーニとモンパルナス	ロジェ・ヴァン・キンデル著 粟津則雄訳		1977(1973)
	11 マティスとフォービズム	レナータ・ネグリ著 吉川逸治訳		1977(1973)
	12 ドイツ表現主義	エーヴァルト・ラトケ著 遠山一行訳		1974
	13 カンディンスキーと青騎士	マリサ・ヴォルピ・オルラ ンディーニ著 乾由明訳		1974
	14 ピカソとキュビズム	アルベルト・マルティエニ著 宮川淳訳		1974



分類	資料名	著・編者	発行	刊行年
723.06	15 未来派の宣言	マウリッオ・カル ヴェージイ著 針生一郎 他訳		1975
	16 ダダ運動と画家たち	ミシェル・サヌイエ著 瀧口修造訳		1977(1973)
	17 シュルレアリスムの世界	ミッシェル・サヌイエ著 瀧口修造訳		1975
	18 モンドリアンと抽象絵画	ウンプロ・アポロニオ著 乾由明訳		1975
	19 ロシア・ソヴィエトの前衛絵画	アントニオ・デル・ グエルチョ著 木村浩訳		1977(1973)
	20 現代のイギリス絵画	エンリコ・クリスボルティ著 中原佑介 他訳		1977(1973)
	21 戦後のヨーロッパ絵画	エンリコ・クリスボルティ著 井関正昭訳		1977(1973)
	22 今日のアメリカ絵画	サム・ハンター著 東野芳明訳		1977(1973)
	23 今日の日本の絵画	針生一郎		1977
	24 世界の中の現代絵画	東野芳明		1976
723.1	岸田劉生全集	岸田劉生	岩波書店	
	第一巻 文集一			1979
	第二巻 〳 二			〳
	第三巻 〳 三			〳
	第四巻 〳 四			1979
	第五巻 日記一			〳
	第六巻 〳 二			〳
	第七巻 〳 三			〳
	第八巻 〳 四			〳
	第九巻 〳 五			〳
	第十巻 〳 六			1980
723.1	ふくおか美術館叢書／児島善三郎資料集(-)	福岡市美術館建設準備室	福岡市美術館協会	1978
	孤高の画家 大村長府 (大和美術史料1)	奈良県立美術館	奈良県立美術館	1978
	美しき峯峯の姿	梅原龍三郎・中川一政他	求龍堂	1971
	日本現代画家選IV19 北川民次	大下正男	美術出版社	1956
	松本竣介 油彩	吉川慶・佐藤一郎 他	綜合工房	1977
	〳 素描	〳	〳	〳
	清水登之画集	中野富美子	日動出版部	1975
	現代絵画代表選集 1978	越智采人	広論社	1978
	島根の美術家 絵画篇	島根県立博物館	島根県立博物館	1980
	長谷川利行 全文集	矢野文夫	五月書房	1981
	〳 作品集			
	近代絵画の黎明／文晁・崋山と洋風画	細野正信	学習研究社	1979
	画集 徳山の思い出	蔭山如信・高村坂彦	画集「徳山の思い出」刊行会	1973
	東洋の心 絵筆と共に80年	田崎廣助	西日本新聞社	1979
	広島県在住有名画家作品集	求龍堂	求龍堂	1973
	有馬さとえ画集	鹿島卯女	鹿島出版会	1979
	斉藤義重	東京画廊	東京画廊	
	日本初期洋畫の研究	西村貞	全国書房	1971
	洋画先覚 本多錦吉郎	村居鍬次郎	本多錦吉郎翁建碑会	1934
	香月泰男	岩田礼	日動出版	1976
	谷川俊太郎「旅」香月泰男	谷川俊太郎・香月泰男	求龍堂	1970

分類	資料名	著・編者	発行	刊行年
723.1	シベリヤ 香月泰男	土方定一・桑原住雄 藤田士朗 他	求龍堂	1967
	シベリヤ画集	内村剛介・藤田士朗 他	新潮社	1971
	画集 香月泰男	河北倫明・針生一郎 藤田士朗 他	毎日新聞社	1979
	香月泰男作品集	朝日晃・藤田士朗 他	ギャルリーユマニテ	1980
	香月泰男スケッチ集(パリ篇I・II/ニューヨーク篇)	香月泰男	求龍堂	1971
	小林和作画集	小林和作	朝日新聞社	
	天地豊麗 小林和作画集	〃	求龍堂	1974
	春雪秋霜 小林和作画文集	〃	〃	1967
	春の旅・秋の旅	〃	〃	1975
	老人はホラを吹け	小林和彦・小野鉄之助	霞画廊	1979
	長谷川三郎資料集(1)	田中進	甲南学園 甲南高等学校	1975
	画・論 長谷川三郎	乾由明編 長谷川三郎著	三彩社	1977
	画集 榎本健二郎	榎本健二郎	榎本健二郎画集刊行会	1980
	画集 桂節郎	桂節郎・下尾周男	桂節郎	1978
	河上左京画集	伊藤孝夫・末河正	河上荘吾	1979
	TOSHIYUKI TANAKA	田中稔之	東美デザイン	1981
	中本達也 人間讃歌	海上雅臣	UNAC TOKYO	1973
723.35	ピカソ全集		講談社	1981
	1. 青の時代	神谷敬三		
	2. パラ色の時代	〃		
	4. 新古典主義の時代	〃		
	7. 版画	八重樫春樹		
723.35	パスキン パリの憂愁	武田 厚	北海道立近代美術館	1981
724.1	袂具の栞	山本 元	芸艸堂	1979(1974)
	南画の描き方	松林桂月	崇文堂出版部	1938
	彩墨画法 12ヶ月	西野新川	溪水社	1980
724.2	山本文彦の静物デッサン	山本文彦	河出書房新社	1977
724.3	絵画技法体系	マックス・デルナー著 佐藤一郎訳	美術出版社	1980
728.22	中国書道辞典	中西慶爾	木耳社	1981
728.3	越後の和紙	新潟県教育委員会	同左	1968
	現代の墨	宇山栖霞	全日本書道院	1975
730	原色浮世絵大百科辞典	原色浮世絵大百科辞典 編集委員会	大修館書店	
	第1巻 歴史			1981
	第五巻 風俗			1980
	第七巻 清長・歌麿			1980
	第八巻 写楽・北斎			1981
	第九巻 広重・清親			1981
	第十巻 風俗絵師と現代版画家			1981
732	Suzuki Harunobu	Julius Kurth	R. PIRER	1923
	UTAMARO	〃	F.A. Brockhaus	1907
	Étude sur Hokusai	Michel Revon	Lecène, Oudin Et Cie	1896
732.1	A History of Japanese Colour-prints	W. von Seidlitz	William Heinemann	1910
	Der Japanische Holzschnitt	Julius Kurth	R. PIPERI	1921

分類	資 料 名	著・編 者	発 行	刊 行 年
733	北斎画 広重画 風景版画役物集 神々の柵(1)	棟方志功	共同通信社 講談社	1977
	広重画 東海道五十三次	渋井 清	共同通信社	
734. 35	ピカソ156連作版画集	出版21世紀	時事通信社	1981
	ピカソ銅版画 ボラールのための連作集 ルオーの「ミゼレーレ」	満生和昭 後藤新治	北九州市立美術館 〃	1978 1980
750	工藝 漆器 木竹	京都府	日本写真印刷	1970
	工藝 陶磁器 金工	京都府	〃	1970
	山陽山陰の民芸	木下米造	中国新聞社	1974
	豊田勝秋 近代工芸先駆者の生涯	中牟田佳彰	西日本新聞社	1977
751	原色陶器大辞典	加藤唐九郎	淡交社	1972
751	世界陶磁全集		小学館	
	1 日本原始	坪井清足		1979
	2 日本古代	檜崎彰一		1979
	3 日本中世	檜崎彰一		1977
	4 桃山(1)	満岡忠成・奥田直栄		1977
	5 桃山(2)	林屋晴三		1976
	6 江戸(1)	満岡忠成		1976
	7 江戸(2)	林屋晴三		
	8 江戸(3)	永竹 威・林屋晴三		1978
	11 隋・唐	佐藤雅彦・長谷部楽爾		1976
	12 宋	長谷部楽爾		1979(1977)
	13 遼・金・元	三上次男		1981
	14 明	藤岡了一・長谷部楽爾		1978(1976)
	17 韓国古代	金元 龍・岡崎 敬 韓炳三		1978
	18 高麗	林屋晴三・鄭 良謨		1979
	19 李朝	雀淳雨・長谷部楽爾		1979
751	陶磁大系		平凡社	
	7 常滑・越前	沢田由治		1979(1973)
	8 信楽・伊賀	満岡忠成		1979(1976)
	9 丹波	河原正彦		1979(1975)
	10 備前	桂又三郎		1980(1973)
	11 志野・黄瀬戸・瀬戸黒	荒川豊蔵		1979(1972)
	12 織部	藤岡了一		1979(1978)
	13 唐津	中里太郎右衛門		1972
	14 萩・出雲	河野良輔		1975
	15 上野・高取	永竹 威		1975
	16 薩摩	岡田喜一		1972
	18 光悦・道入	赤沼多佳		1979(1977)
	19 伊万里	永竹 威		1979(1973)
	20 柿右衛門	永竹 威		1979(1977)
	21 鍋島	今泉元佑		1979(1972)
	22 九谷	西田宏子		1979(1978)
	23 仁清	中川千咲		1979(1974)
	24 乾山	満岡忠成		1979(1973)
	25 木米	満岡忠成		1979(1975)

分類	資	料	名	著・編者	発行	刊行年
751		26	京焼	河原正彦		1980(1973)
		27	日本の民窯	岡村吉右衛門		1979(1972)
		28	近代日本の陶磁	南 邦男		1979(1978)
		29	高麗の青磁	長谷部楽爾		1979(1977)
		30	三島	田中豊太郎		1976
		31	李朝の染付	村山 武		1979(1978)
		32	高麗茶碗	林屋晴三		1972
		33	古代中国の土器	秋山進午		1979(1978)
		34	中国の土偶	佐藤雅彦		1980(1972)
		35	唐三彩	水野清一		1979(1977)
		36	青磁	小山富士夫		1979(1978)
		37	白磁	佐藤雅彦		1979(1975)
		38	天目	小山富士夫		1979(1974)
		39	磁州窯	長谷部楽爾		1979(1974)
		40	遼の陶磁	杉村勇造		1979(1974)
		42	明の染付	藤岡了一		1979(1975)
		43	明の赤絵	〃		1980(1972)
		44	古染付祥瑞	斎藤菊太郎		1979(1972)
		45	呉須赤絵 南京赤絵	〃		1979(1972)
		46	清の官窯	杉村勇造		1980(1973)
		47	タイ・ベトナムの陶磁	矢部良明		1979(1978)
		48	ペルシアの陶器	三上次男		1979
751.1	大正名器鑑			高橋義雄	春秋図書	
	巻1					1975(1947)
	巻2					〃
	巻3					〃
	巻4					1976(1947)
	巻5					〃
	巻6					〃
	巻7					〃
	巻8					1975(1947)
	巻9					〃
751.1	陶器大辞典			宝雲新舎	五月書房	1980
	巻一	あーお				
	巻二	かーこ				
	巻三	さーち				
	巻四	つーひ				
	巻五	ふーわ				
	巻六	索引・補遺				
751.1	日本やきもの集成				平凡社	
	3	瀬戸・美濃・飛騨	榎崎彰一 他			1980
	5	京都	河原正彦 他			1981
	7	近畿Ⅱ	満岡忠成			1981
	11	九州Ⅰ	永竹 威			1980
751.1	現代の陶芸				講談社	
	第1巻	桃山から現代まで	中川千咲			1973(1972)
	第2巻	板谷波山・清水六和・ 富本憲吉	中川千咲			1971

分類	資料名	著・編者	発行	刊行年	
751.1	第3巻	河井寛次郎・濱田庄司・バーナード・リーチ	水尾比呂志	1970	
	第4巻	荒川豊蔵・石黒宗磨・金重陶陽	林屋晴三	1970	
	第5巻	楠部彌弼・漬水六兵衛・加藤土師蒔	中川千咲	1970	
	第6巻	加藤唐九郎・北大路魯山人・川喜田半泥子	林屋晴三	1972(1971)	
	第7巻	藤原 啓・三輪休和 他	吉田耕三	1971	
	第8巻	宇野宗壘・宮之原謙 他	中川千咲	1971	
	第9巻	12代・13代酒井田柿右衛門 他	中川千咲	1971	
	第10巻	三輪休雪・10代坂高麗左衛門 他	林屋晴三	1970	
	第11巻	山本陶秀・藤原 健 他	吉田耕三	1970	
	第12巻	八木一夫・鈴木 治・加守田章一	乾 由明	1970	
	第13巻	竹田有恒・塚本快示 他	吉田耕三	1970	
	第15巻	佐久間藤太郎・金城次郎 他	水尾比呂志	1972(1971)	
	第16巻	イサム・ノグチ・熊倉順吉 他	乾由明	1972	
	751.1	新兵衛 十四代坂倉新兵衛作品集	山口県教育庁文化課	日本工芸会山口支部	
		三輪龍作の作品集	池田龍雄	青木画廊	1978
		名陶菫 その実際と鑑賞	藤田幸平	西日本茶陶研究会	1980
日本のやきもの 6 菫		吉賀大眉	淡交社	1974	
はぎやき		檜崎鐵香	盛運堂	1943	
菫焼 茶陶 土と炎の芸術		黒田領治	朝日新聞 西部本社企画部	1976	
一楽二菫三唐津展 記念写真集		磯野風般子・河野良輔 他	〃	1977	
一楽二菫三唐津 桃山から現代まで		朝日新聞社	〃	1977	
陶兵衛作品集		田原陶兵衛	花喜多	1976	
菫・唐津・有田・上野・高取		石川晴彦	主婦の友社	1979	
吉賀将夫作品集					
大名茶陶 高取・上野・八代		永竹威	朝日新聞 西部本社企画部	1981	
近世の瀬戸		大阪市美術館・根津美術館 館・徳川美術館	同左	1973	
CATALOGUE OF THE MORSE COLLECTION OF JAPANESE POTTERY		Edward S. Morse	Tuttle	1979	
陶工庸八		豊田瓠庵	日本陶磁協会	1970	
茶の美術		東京国立博物館	同左	1980	
九州の古陶磁	永竹威	田中丸コレクション	1980		
現代陶芸家名鑑		講談社	1973		
上野焼開窯370年記念	渡高久	瞬報社写真印刷(株)	1976		
751.2	東洋陶磁		講談社		
	3 ジャカルタ国立博物館	アブ・リド		1981	
	4 イラン国立考古博物館	フィロウツ・バガルザーデ、 アニヌ・ソーラ		1981	
	5 大英博物館	ダグラス・バレット、 ロレンス・スミス他		1980	
	6 ヴィクトリア・ アルバート博物館	ジョン・G・エアーズ		1981	

分類	資料名	著・編者	発行	刊行年
751.2	10 フリーア美術館	ジョン・アレクサンダー・ポープ、ジョセフィン・H・ナップ		1980
	11 ボストン美術館	ヤン・フォンティン、呉同		1980
751.5	Das Glas des Jugendstils	Waltraud Neuwirth	Prestel	1973
752	日本の漆芸		中央公論社	
	1 蒔絵 I	岡田譲・荒川浩和・小松大秀		1977
	2 〃 II	岡田譲・荒川浩和・小松大秀・鈴木規夫		1978
	3 〃 III	灰野昭郎・荒川浩和・小松大秀 他		1978
	4 〃 IV	灰野昭郎・荒川浩和・小松大秀 他		1978
	5 根来漆絵	河田貞・荒川浩和・小松大秀		1979
	6 螺細、鎌倉彫、沈金	岡田譲・荒川浩和・小松大秀・鈴木規夫 他		1979
752	九谷の秘法 デザインから色絵まで	嵐一夫	北国出版社	1976
791	茶の湯と高麗物	茶道資料館	茶道総合資料館	1980
	筑豊の茶湯	秋吉満	茶道裏千家淡交会筑豊支部	1980
	筑豊茶道資料展・九州地区四十年の歩み展	秋吉満	茶道裏千家淡交会筑豊本部 他	1980
	原色茶道大辞典	井口海仙 他	淡交社	1975
791.5	茶道芸術	西日本新聞社	同左	1977
	茶	西日本茶商倶楽部	同左	1976
<b>8. 言語</b>				
811.56	当用漢字改定音訓表・改定送り仮名の付け方	文化庁	文化庁	1973
813	広辞苑 第2版補訂版	新村出	岩波書店	1977(1955)
823	大漢和辞典	諸橋轍次	大修館書店	
	巻一			1976(1955)
	巻二			1976(1955)
	巻三			1976(1955)
	巻四			1976(1956)
	巻五			1976(1956)
	巻六			1976(1956)
	巻七			1976(1957)
	巻八			1976(1957)
	巻九			1976(1957)
	巻十			1976(1958)
	巻十一			1976(1958)
	巻十二			1976(1959)
	索引			1976(1960)
833.3	新和英大辞典	増田綱	研究社	1974
	小学館ランダムハウス英和大辞典	同左編集委員会	小学館	1979(1973)
	SHORTER OXFORD ENGLISH DICTIONARY(1)	H.W.FOWLER JESSIE COULSON	OXFORD	1973
	SHOTER OXFORD ENGLISH DICTIONARY(2)	H.W.FOWLER	OXFORD	1973
843	和独大辞典	木村謹治	博友社	1978(1952)

分類	資料名	著・編者	発行	刊行年
843	SAGARA GROSSES DEUTCH-JAPANISCHES WÖRTERBUCH	相良守雄	博友社	1979(1958)
	DEUTSCHES WÖRTERBUCH	GERHARD WAHRIG	BERTELSMANN Vlg.	1978(1968)
853	DICTIONNAIRE DE LA LANGUE FRANCAISE	EMILE LITTRÉ		1963
	仏和大辞典	伊吹武彦・渡辺明正他	白水社	1981
	マルタン和仏大辞典	J.M.マルタン	白水社	1976(1970)
	マルタン仏和大辞典	J.M.マルタン	白水社	1977(1953)
863	CASELL'S SPANISH DICTIONARY	ANTHONY GOOCH	CASELL	1978
873	CASELL'S ITALIAN-ENGLISH ENGLISH-ITALIAN DICTIONARY	FRANCIS M. GUE- RCIO・ARTHUR L. HAYWARD	CASELL	1977(1958)
892	羅和辞典	田中秀央	研究社	1978(1952)

## 9. 文学

910.23	源氏五十四帖	小川一之	山口新聞社	1974
	秋の薊 河野てる歌集	河野てる	短歌人歌	1978
	芭蕉堂6世 河村公成	金谷ヒロ子	河村公成翁顕彰会	1967
	句文集 冬の濤	三浦美知子	角川書店	1977
	句文集 南瓜日記	三浦美知子	角川書店	1970
911.56	磯永秀雄選集	磯永秀雄(著)・富成博(編)	長周新聞社	1977
	現代山口県詩選 1978年度	同左編集委員会	山口県詩人懇話会	1978
911.58	トコトコが来たと言ふ 詩・童話	土方定一(著)・ 丸山尚一(編)	平凡社	1977
913.6	海猫の襲う日	夏堀正元	新潮社	1978
	万骨の野	桂英燈	光風社書店	1974
	山河哀号	麗羅	集英社	1979
914.6	私の描いた山口の文学者たち	中野真琴	東洋図書出版	1978
	森有生一その経験と思想一	杉本春生	花神社	1978
	狐の大旅行	桂ゆき	創樹社	1974
	続・狐の大旅行	桂ゆき	創樹社	1974
	齒に衣を着せず	岡本好古	酣燈社	1977
	古い草張椅子	野呂邦暢	集英社	1979
980	収容所群島(1~6)	ソルジェニツィン著・ 木村浩訳	新潮社	1974~1977





組織等

### 美術館顧問

前東京国立近代美術館長	岡 田 讓
京都国立近代美術館長	河 北 倫 明
山口県芸術祭運営委員長	三 好 正 直
陶芸家・日本工芸会会員	三 輪 休 雪

(以上 昭和54・55年度)

### 美術館作品収集審査員

山口芸術短期大学教授	三 好 正 直
山口大学教育学部教授	服 部 碩 夫
山口県立山口博物館長	白 杵 華 臣

(以上 昭和51年度)

京都国立近代美術館長	河 北 倫 明
山口芸術短期大学教授	三 好 正 直
山口大学教育学部教授	服 部 碩 夫
毛利報公会毛利博物館長	白 杵 華 臣

(以上 昭和52年度)

山口芸術短期大学教授	三 好 正 直
山口大学教育学部教授	服 部 碩 夫
毛利報公会毛利博物館長	白 杵 華 臣

(以上 昭和53年度)

東京国立博物館美術課長	小 松 茂 美
東京国立近代美術館企画課長	三 木 多 聞
ジャパンアート・コンサルタント社長	浦 上 敏 朗
山口大学教育学部教授	服 部 碩 夫
山口大学名誉教授	友 近 琢 男
東京国立博物館主任研究官	細 野 正 信
東京国立文化財研究所第2研究室長	関 千 代

(以上 昭和54年度)

東京国立博物館美術課長	小 松 茂 美
東京国立近代美術館企画課長	三 木 多 聞
ジャパンアート・コンサルタント社長	浦 上 敏 朗
山口大学教育学部教授	服 部 碩 夫
山口大学名誉教授	友 近 琢 男

(以上 昭和55年度)

美術館職員構成

館長 (事) 河野良輔  
副館長 (少) 北村重明

総務課

課長 (事) 古屋泰弘  
主任 (少) 江頭徳治  
(少) 主事 古屋隆  
(技) 監視員 梅本三男  
兼運転士

学芸課

課長 (事) 足立明男  
(少) 学芸員 影山純夫  
(少) 高田美規雄  
(少) 研究員 安井雄一郎  
(少) 学芸員 勝津吉生

普及課

課長 (事) 佐々木 蔚  
主任 (少) 木本信昭  
(少) 学芸員 榎本 徹  
(以上 昭和54年度)

館長 (事) 河野良輔  
副館長 (少) 北村重明

総務課

課長 (事) 徳光武明  
主任 (少) 江頭徳治  
(少) 主事 古屋隆  
(技) 監視員 梅本三男  
兼運転士

学芸課

課長 (事) 足立明男  
(少) 学芸員 高田美規雄  
(少) 研究員 安井雄一郎  
(少) 学芸員 榎本 徹  
(少) 勝津吉生

普及課

課長 (事) 佐々木 蔚  
主任 (少) 木本信昭  
(少) 学芸員 影山純夫  
(以上 昭和55年度)

## 職員の動静

48. 4 美術館建設準備調査のため指導主事として足立明男、山口県文化課に採用（←山口大学付属中学校教諭）
50. 1 足立明男、指導主事を専門研究員（研究職）に任命替え  
◇ 美術館建設準備のため専門研究員として木本信昭、山口県文化課に採用（←山口大学付属中学校教諭）
50. 4 美術館建設準備のため研究員として高田美規雄、新採用（←東京芸術大学・修）
50. 8 東京国立近代美術館に足立明男、研修派遣（50. 11まで）
51. 9 東京国立近代美術館に木本信昭、研修派遣（51. 11まで）
52. 4 美術館建設準備のため研究員として影山純夫、転属（←山口県文化課文化財保護主事）
53. 4 美術館建設準備のため研究員として安井雄一郎（←九州大学・博）、勝津吉生（←立命館大学・学）新採用  
◇ 美術館開設準備室発足 室長 河野良輔（兼・山口県文化課長）／主幹 木梨亮一／古屋泰弘（兼・同課長補佐）／庶務主任 江頭徳治／専門研究員 足立明男・木本信昭／研究員 高田美規雄・影山純夫・安井雄一郎・勝津吉生
53. 9 東京国立博物館に高田美規雄、研修派遣（53. 11まで）
54. 4 美術館副館長として北村重明、転入（←山口県東京事務所次長）  
◇ 普及課長として佐々木蔚、転入（←山口県通商観光課長補佐）  
◇ 総務課主事として古屋 隆、転入（←宇部養護学校主事）  
◇ 監視員兼運転士として梅本三男、転入（←山口県印刷所）  
◇ 普及課学芸員として榎本徹、新採用（←東京教育大学・修）  
◇ 山口県立美術館発足  
（→職員講成 127P）
54. 10 山口県立美術館開館
55. 2 国立国際美術館に安井雄一郎、研修派遣（55. 3まで）
55. 4 美術館総務課長 古屋泰弘、転出（→山口県教育研修所管理部長）同職に、徳光武明、転入（←山口県地方課外事係長）  
影山純夫、普及課に転属（←学芸課）  
榎本徹、学芸課に転属（←普及課）  
（→職員講成 127P）  
◇ 影山純夫、非常勤講師として山口県立女子大学に出講（55. 9まで）  
◇ 安井雄一郎、非常勤講師として山口大学に出講（55. 9まで）
55. 10 榎本徹、非常勤講師として山口県立女子大学に出講（56. 3まで）  
◇ 京都国立博物館に影山純夫、研修派遣（→55. 12まで）

---

発行／山口県立美術館

山口市亀山 3-1

Tel (0839)25-7788 (代)

発行日／昭和57年 6 月30日

印刷／瞬報社写真印刷株式会社

Tel (0832)82-1841(代)

---

